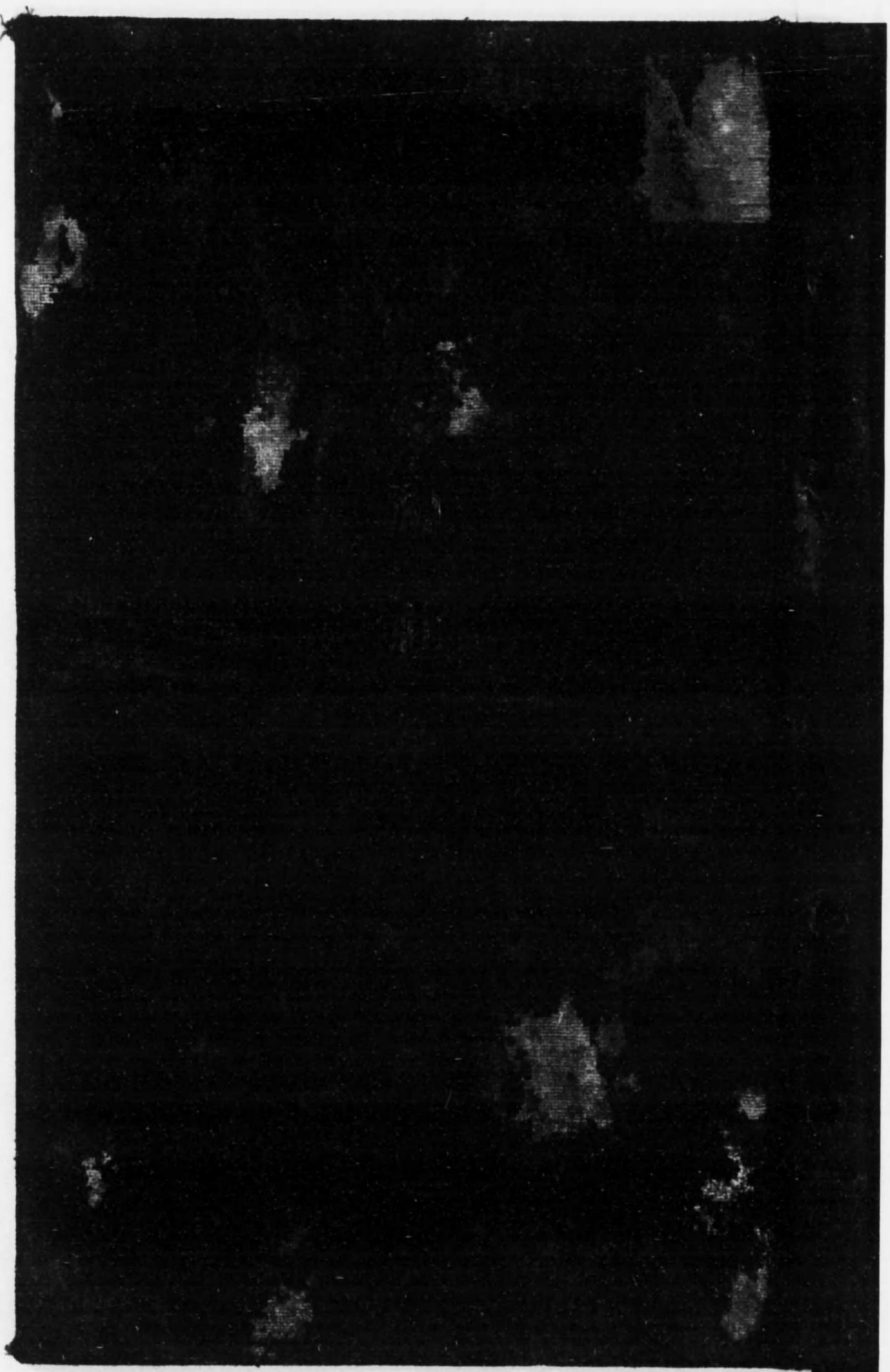


始





651

特 269
25



和歌山縣

神職會編纂

現
行
神
社
令
規



現行神社法令規ノ編纂ニ就テ

- 一、神社ニ關スル法令ハ單行法令多ク統一整頓セラレタル他ノ法令ニ比シ稍複雑ニシテ平素見ル者ノ困難ヲ感スル所ナリ
- 本書ハ主トシテ本縣公布ノ縣令縣訓令縣告示通牒等神社關係ノ縣ノ令規一切ヲ聚メタルモノニシテ之ニ縣社以下神社神職各位執務上ノ便ニ供スル爲關係ノ國ノ法規ヲ併セ登載シタリ
- 一、官幣社ニ限ル國ノ法規ハ特ニ省畧致シタルヲ以テ官幣社神職各位ハ本書ト帝國地方行政學會編纂ノ現行神社法令類纂若クハ內務省神社局編纂ノ神社法令輯覽トヲ併セ用ヒテ完全トナルヘシ
- 一、附録トシテ本縣神職會規則、皇典講究所學階授與規則、國資一覽表等ヲ收メタリ



現行神社令規

目次

第一章 通則

- 官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、寄附金、神札等ニ關スル件……………大正二、四、二一、一
- 社寺ノ關スル諸願國等與書ノ件……………明治一六、八、一、九
- 社寺ノ異動届出ニ關スル件……………明治三〇、一、一、九
- 神社遺跡ノ建設ノ件……………昭和二、二、二、六
- 人民私邸内ニ自祭スル神祠佛堂ノ家庶參拜ノ件……………明治一〇、一、一、八
- 人民私邸内ノ祖靈社ノ家庶參拜ノ件……………明治一六、九、二、九
- 神社身格運動取締ニ關スル件……………大正四、六、一、八
- 神社遺跡ノ運動取締ニ關スル件……………明治三三、一、一、五
- 神社遺跡ノ運動取締ニ關スル件……………明治四一、一、一、八
- 神社遺跡ノ運動取締ニ關スル件……………明治四五、五、一、二
- 失火取締ニ關スル件……………大正元、九、一、三
- 失火盜難取締ニ關スル件……………明治三二、四、一、三
- 官國幣社祭神分靈ノ場合出願方……………明治四五、三、二、九
- 令示公布式規程……………明治四五、三、二、九

第二章 神職

- 支廳長支長委任事項……………大正一五、七、一、三
- 官吏服務紀律……………明治二〇、七、三〇、二五
- 官國幣社以下神社神職奉務規則……………大正二、四、二、一、六
- 官國幣社處務規則……………明治三六、二、一、七
- 神職ノ職務上ニ付注意方……………明治二六、九、二、八
- 宮司奉務ニ關スル件……………大正二、五、一、三
- 神職ハ神社所在地ニ住居ノ件……………明治三〇、六、二、八
- 官國幣社神職尋常試驗細則……………明治三五、六、一、二
- 官國幣社神職旅行及旅費ニ關スル規定……………昭和四、三、一、六
- 神職ノ旅行並經費節約ニ關スル件……………大正一三、八、二、二
- 年末賞與ニ關スル資料調査ノ件……………大正一四、一、一、三
- 宮司職印ヲ押用ノ件……………明治三〇、四、二、二
- 官國幣社囑託雇傭人調ノ件……………昭和七、一、一、八

- 官國幣社主典定員等ニ關スル細則……………明治三五、五、二
- 職員命免報告ノ件……………縣訓內乙五、六
- 優良神職配當ニ關スル件……………昭和五、一、二六
- 府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件……………大正一、四、二、三
- 府社縣社以下神社神職任用規則……………明治二七、二、二八
- 府社縣社以下神社神職職印調製ノ件……………縣令甲五、二、一八
- 縣社以下神社神職社務取扱心得……………明治三三、六、一六
- 縣社以下神社社司社掌推薦規程……………縣令甲三、七、五
- 社司社掌候補者推薦規程施行ニ關スル件……………大正二、五、二四
- 神職版歴書式及記載事項……………縣令甲三、七、〇
- 社司社掌試驗細則……………明治二七、八、二七
- 縣社以下神社神職俸給並旅費規則……………縣令甲三、五、二一
- 休暇賜與ニ關スル件……………大正一、五、九、一四
- 縣社以下神社神職服務ニ關スル件……………縣令甲三、七、二九
- 神職兼務ニ關スル件……………大正一、三、七、二七
- 神職常置ニ關スル件……………縣令甲三、三、二九
- 專任神職常置ヲ促スノ件……………大正一、〇、六、一六

- 現任神職ニシテ現職ノ儘町長就任ノ件……………昭和二、三、三
- 神官神職ノ服務ニ關スル件……………縣訓兵六三、七、五
- 神官神職居常國體ヲ講明シ國民道徳ノ振張督勵力……………大正一、二、一、三
- 神官神職ノ綱紀肅止ニ關スル件……………大正一、三、八、一六
- 地方改善ニ關スル告諭ノ趣旨徹底力……………縣令甲三、一、二、二
- 内國品使用ニ關スル件……………大正三、一、〇、一〇
- 神官ハ葬儀ニ關係セサルノ件……………明治一五、一、二、四
- 神職召集協議會開催ニ關スル件……………明治二九、一、〇、九
- 本縣所屬判任官判任待遇者ノ參贊並賀表差出方心得……………大正二、三、七、〇
- 官公職名ヲ以テスル往復文書ニ氏名ノ記載ヲ略スルノ件……………縣令甲四、一、一、一
- 職員忌服ニ關スル件……………大正一、五、七、一

第三章 服 制

- 神官神職服制……………大正元、一、二、七
- 神官神職服裝規則……………勅令 五、三
- 官國幣社以下神社遷座祭ニ於テ前行ノ所役ヲ務ムル者ノ服制ニ關スル件……………大正三、九、二、一
- 官國幣社以下神社幣帛供進使服制……………明治四四、四、二九

- 幣帛供進使ノ服制ニ關スル件……………明治四四、九、一、二
- 幣帛供進使隨員服制……………大正二、三、一、一
- 狩衣、淨衣等ヲ祭服代用ニ關スル件……………明治六、二、七
- 奏任官ノ待遇ヲ受クル神職他ノ神職兼務ノ場合ニ於ケル服裝ニ關スル件……………大正一、三、四、一、三
- 神職服裝整備ノ件……………昭和七、五、一、七

第四章 祭祀參拜

- 官國幣社以下神社祭祀令……………大正三、一、二、四
- 遷座式執行ニ關スル件……………勅令 一、〇、五、一〇
- 官國幣社以下神社祭式……………內達丁 八
- 官國幣社以下神社ニシテ官戰奉告ノ爲臨時大祭ヲ行ハムトスル場合ノ祭式等ニ關スル件……………大正三、八、一、七
- 官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件……………大正三、三、二、七
- 官國幣社以下神社遙拜及大殘次第……………內令 四
- 縣社以下神社祭典執行規程……………大正一、五、〇、二、九
- 郷社祈年新嘗祭委任ノ件……………縣令甲 一、一、八
- 官幣社以下神社大祭幣帛供進使……………縣訓兵 一、三、六、七
- 官幣社以下神社大祭幣帛供進使……………縣訓令甲 四、一、六

第五章 氏子及崇敬者

- 官幣社以下神社大祭幣帛供進使……………昭和八、一、二、二
- 官幣社以下神社三大祭幣帛供進使……………縣訓兵 五、九、九、七
- 府社縣社以下神社ノ神職幣帛供進ニ關スル件……………縣令 九、六
- 府社縣社村社ニ供進スヘキ神幣帛料ノ金額……………大正九、八、二、六
- 神職幣帛料領收書ノ件……………昭和五、九、一、〇
- 神職幣帛料ヲ供進スル神社指定ノ標準ニ關スル件……………縣訓兵 四、六、〇、三
- 神職幣帛料供進神社指定ニ關スル件……………明治三九、六、二、八
- 神職幣帛料ヲ供進スル神社指定……………內調 四、九、五
- 縣社以下神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀扇出ノ件……………大正三、一、二、四
- 官國幣社勅使奉幣使參向ノ節小學校生徒參拜ノ件……………明治一、一、三、一、八
- 產土神祈年新嘗祭日小學校兒童參拜ニ關スル件……………縣令 三、二、二、六
- 例祭日ヲ木曆ニ一定スヘキ件……………明治三九、一、〇、二、六
- 神社例祭ニ關スル件……………縣令甲 二、六、三、七

○町村分合等ニ依リ甲社ノ氏子乙氏ノ氏子ト相成節甲乙社神官及氏子連署届出方
 ○神社氏子ニ關スル件
 ○社寺總代人名簿備置ノ件
 ○社寺總代人選舉届出及願届書收入財產取調方
 ○社寺總代人選舉届出方ニ關スル件
 ○社寺總代人選舉ニ關スル件
 ○社寺總代人選舉及事務取扱概則
 ○社寺總代人ニ關スル心得
 ○社寺總代證明ノ件
 ○補欠選舉ニ當選シタル社寺總代人ノ任期ニ關スル件
 ○社寺總代人ニ關スル疑義回答
 ○官國幣社附屬各種團體表ノ件
 ○神社附屬講社ニ關スル件
 ○神宮大廳頒布ニ關スル件

明治一五、五、一
 内達乙 二、八
 明治一六、一〇、二
 縣布 五、七
 明治一四、九、七
 縣丙 二〇、五
 明治一四、七、二
 内達乙 三、三
 明治二四、一、二〇
 管甲 三、一〇
 明治二四、一、二〇
 内調 一〇、六三
 明治二九、九、二六
 縣令 四、二六
 明治二四、一、一六
 縣調令 三、六七
 大正一五、九、二八
 縣社兵 一、九二
 明治四三、七、二八
 縣内三 五〇、六〇
 大正七、一、一三
 縣學五八、九、八〇
 明治二九、一〇、二七
 縣内三 七〇、七〇
 昭和五、三、二七
 縣社兵 一、七二
 昭和五、一〇、一一
 縣社兵 四、八三
 空

第六章 曆、守札

○神宮大廳頒布ニ關スル件
 明治一、三、二三
 内達乙 三、〇
 空

第七章 財産、會計

○神宮大廳頒布普及方ノ件
 ○神宮大廳及曆頒布規程
 ○神宮大廳特別授與ニ關スル件
 ○守札ニ關スル件
 ○神社財産ニ關スル件
 ○神社財産ノ登録ニ關スル件
 ○神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件
 ○神社財産登録及管理並會計ニ關スル細則
 ○神社資金有價證券種類ニ關スル件
 ○官幣社會計並庶務ニ關スル事項
 ○官幣社會計並庶務ニ關スル諸様式制定ニ關スル件
 ○官幣社物品目區分ニ關スル件
 ○各社共通金請求及領收ニ關スル件
 ○共通金ノ剩餘返納ニ關スル件
 ○各社共通金支出稟請書差出時期ノ件

大正九、一、一二
 神司社 六、六
 昭和 二、七、二
 司廳 七、七
 昭和五、一、二二
 縣社兵 四九〇、八
 明治一五、一〇、一八
 内達乙 五、五
 空

明治四一、三、二三
 法律 一、二三
 明治四一、七、二〇
 勅令 一、七七
 明治四一、七、二〇
 内令 一、二〇
 明治四一、一〇、一
 縣令 六、七
 大正元、一、一六
 縣社 二、二五
 昭和 二、九、一四
 縣調令甲 三、九
 昭和 二、九
 縣社兵 六、三六
 昭和 二、九、一四
 縣社兵 六、三六
 昭和 七、一、一〇
 縣社兵 四、五二
 昭和 七、一〇、二七
 縣社兵 四、九五
 昭和 八、六、一四
 縣社兵 四〇、三二
 空

○官國幣社所有版權地所建物登録記載例
 ○官國幣社入金ヲ以テ皇典講究所へ寄贈セントスルモノ許可ヲ受クル件
 ○社寺財産原簿及金穀出納簿書式登錄記載例
 ○寄附者行賞取扱手續
 ○縣社以下神社入金ヲ以テ皇典講究所へ寄贈ノ場合許可ヲ受クル件
 ○社寺寶物古文書什器取捨規則
 ○戰利品取扱ニ關スル件
 ○社寺佛堂ノ明細帳修正ニ關スル心得
 ○明細帳ニ脱漏ノ社寺編入出願ノ簡證據書添付ノ件
 ○社寺寺院ノ物件處分ニ關スル件
 ○社寺財産、建物等處分ニ關スル注意方ノ件
 ○社寺財産處分ニ關スル件
 ○社寺財産處分ニ關スル件

明治二九、九、二
 縣調令 三、二九
 明治二九、一、一五
 縣調令 三、八九
 明治二九、一、二二
 縣調令 四、四二
 明治二九、九、一四
 縣調令 三、三〇
 大正一五、七、一〇
 縣調令甲 一、〇〇
 空

明治二九、九、二
 縣調令 三、八七
 明治二九、三、二二
 縣調令 九、四
 大正一四、四、二一
 縣社兵 七、三四
 明治四〇、一、二四
 縣調令 四、七
 明治二七、五、一三
 縣調令 一、七八
 明治三九、四、二
 縣内調 一、四〇
 明治四三、四、二〇
 縣内三 二、六〇
 大正元、一、一四
 縣學 七、一五
 大正二、一、一八
 縣學 五、三八
 空

第八章 境内及建物

○社寺物件處分方ニ關スル件
 ○社寺佛堂所有財産處分願處理ニ關スル件
 ○社寺附屬ノ不動産精密調査ノ件
 ○社寺所屬不動産所有名義書換手續履行ノ件
 ○社寺經費補助ニ關スル件
 ○社寺附屬地所建物其他物品抵當ニ關スル件
 ○社寺附屬ノ財産ヲ抵當トシ金穀借入等ニ關スル副申ノ件
 ○會計法適用神社指定ノ件
 ○縣社以下神社ニ境内地並建造物ノ山緒沿革書備置ノ件
 ○社寺建物改築等出願手續
 ○社寺筋塀ニ關スル件
 ○官國幣社營繕ニ關スル件
 ○官國幣社營繕ノ件
 ○官國幣社臨時營繕費支出要求手續
 ○官國幣社共通營繕費請求領收ニ關スル件

大正一三、一〇、一
 縣社兵 一、六二
 大正七、八、二七
 縣學 四、二七
 明治二九、九、一七
 縣調令 三、三四
 明治四四、三、二〇
 縣内三 一、五九
 大正 七、六、六
 縣學 三〇、三八
 明治 一、二、一八
 縣乙 二、四八
 明治 一、一〇、三一
 縣 達 八、二六
 大正 三、二、九
 縣告示 四、四等
 空

明治三二、七、一三
 縣調令 三、一五
 明治二九、二、四
 縣調令 四、六
 明治三五、六、二五
 縣内 一、三六
 明治三六、一、一四
 縣内 一、八、九
 大正一三、一、一三
 縣通牒
 明治三一、九、二六
 縣調令 三、一五
 大正二、五、二〇
 縣學 六、九七
 空

第一章 通

則

○和歌山縣皇典講究分所祭式教習ニ關スル規程……………二四三
○帝國京都奈良博物館社寺什寶受……………明治二八、一、二六…二四六
託規則……………宮達乙……………一
○國寶一覽表(和歌山縣)……………二四八
○年代表……………



第一章 通則

○官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、寄附金、神札等ニ關スル件

(大正二年四月二十一日 內務省令第六號)

大正三年九月內務省令第二二號、同十五年六月同第三三號、昭和二年三月同第四一號、同三年五月同第二〇號改正



官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、寄附金、神札等ニ關スル件左ノ通定

第一章 祭神、神社名、社格、明細帳

第一條 祭神ノ決定、變更又ハ訂正ヲ請ハムトスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ
第二條 別格官幣社靖國神社ノ祭神ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ緣故アル地方ノ招魂社ニ合祀スルコトヲ得
第三條 祭神ノ靈代ハ公衆ニ拜觀セシムルコトヲ得ス

當該神職ハ特別ノ事由アルトキニ限り官國幣社ニ在リテハ內務大臣、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ拜觀スルコトヲ得

第四條 神社名ノ變更ヲ請ハムトスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

前項ニ依ル地方長官ノ處分ニシテ神社名ヲ官名ニ改稱若ハ復稱シ又ハ延喜式內社、國史所載社其ノ他特別由緒アル神社ノ神社名ヲ變更セムトスルモノナルトキハ內務大臣ニ稟請スヘシ

第五條 招魂社ハ其ノ社名中ニ招魂社ナル文字ヲ用フヘキモノトス

第六條 社格ノ變更又ハ訂正ハ由緒其ノ他特別ノ事由アルニ非サレハ詮議セサルモノトス

社格ノ變更又ハ訂正ノ詮議ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ハ之ヲ內務大臣ニ具申スルコトヲ得

第七條 神社、建物アル遙拜所及官修墳墓ニ付テハ地方長官ハ別記様式ニ依リ其ノ明細帳ニ通テ調製シ一通ヲ內務大臣ニ進達スヘシ

第八條 神社、建物アル遙拜所ノ管理者及官修墳墓ノ監守者

ハ明細帳ノ様式ニ準シ調製セル明細書ヲ備付クヘシ

第九條 明細帳ニ脱漏ノ神社ハ其ノ編入ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得編入ノ許可ヲ受ケタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第十條 神社ハ明細帳ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ其ノ訂正ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十一條 北海道ヲ除クノ外祭神ノ決定、變更、訂正又ハ明細帳脱漏神社ノ編入ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ニ於テ内務大臣ニ稟請スヘシ但シ明細帳脱漏神社ノ編入ニシテ編入ト同時ニ之ヲ他ノ神社ニ合併セントスルモノナルトキハ官國幣社延喜式内社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ係ルモノヲ除ク外稟請ヲ要セス

第二章 境 内

祭十二條 新ニ境内地ヲ設定シ又ハ從來ノ境内地ヲ擴張セムトスルトキハ左ノ制限ニ超過スルコトヲ得但シ特別ノ緣故、土地ノ狀況等ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

官 國 幣 社	五 千 坪
府 縣 社	千 五 百 坪
鄉 社	千 坪
村 社	七 百 坪

モノトス

第十八條 官國幣社ノ本殿及其ノ周圍ノ垣、幣殿、拜殿、鳥居、神饌所、社務所又ハ府縣社以下ノ神社ノ本殿、幣殿、拜殿、鳥居ノ造修用材ニ必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ境内地ノ木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ神社ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除クノ外樹木ニ付テハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

一目通五尺以上一丈未満ノ樹木ノ一割
一目通一尺以上五尺未満ノ樹木ノ二割

前項ニ該當セサル建造物ト雖古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第十九條 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ムヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ受ケテ伐採スルコトヲ得

第二十條 民有借地境内地ノ木竹ニシテ地主ノ所有タル確證アルモノハ地主ヨリ神社ニ要求シ神社ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキニ限り之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十一條 境内地ノ林藪經營上必要ナル間伐ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十二條 境内地ノ林藪ニシテ五町歩以上ニ渉ルモノニ付

二

招 魂 社 千五百坪
其ノ他ノ神社 五百坪

第十三條 神社ニ於テ其ノ境内地ノ設定、増減又ハ模様替ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ官國幣社境内地ノ模様替ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十四條 境内地ニシテ古墳若ハ其ノ傳説又ハ特別ノ由緒アル地域ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス地方長官ニ於テ之ヲ許可セムトスルトキハ官國幣社境内地ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十五條 神社ハ地方長官ノ指揮ヲ受ケ境内ニ管轄地方廳名ノ制札ヲ建設スルコトヲ得

制札ニ記載スヘキ禁止事項ノ概目左ノ如シ
一 車馬ヲ乗入ルコト
一 魚鳥ヲ捕ルコト
一 竹木ヲ伐ルコト

第十六條 境内地ノ木竹ニシテ山緒アルモノ及風致ニ必要ナルモノハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第十七條 境内地ニ於テ枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケタルヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ノ許可ヲ受ケタル

テハ特ニ保護並施業ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ但シ五町歩以下ノモノト雖地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ニ於テ境内地ノ林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十四條 境内地ニ於テ土石、切芝又ハ樹根ノ採取ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ニ届出ツルモノトス

行政廳前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ由緒又ハ風致上必要ト認ムルトキハ其ノ採取ヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條 境内地ニ接續スル土地ニ火入ヲ爲サムトスル者ハ境内ニ對スル防火ノ設備ヲ爲シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 境内地ニハ國家ニ功勞アルモノ又ハ頭揚スヘキ事蹟アルモノニ非サレハ其ノ碑表又ハ形像ヲ建設スルコトヲ得ス

前項ノ碑表又ハ形像ハ建設ヲ竣ルト同時ニ無條件ニテ神社ノ所有ニ移スモノニ非サレハ神社ハ其ノ建設ヲ承認スルコト

三

トヲ得ス

前二項ノ規定ハ碑表又ハ形像建設取締ニ關スル他ノ規程ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條 境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其ノ神社以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

- 一 一時限リノ使用
 - 一 參拜者休息所等其ノ使用一年以内ニ止マルモノ
 - 一 公益ノ爲ニスル使用ニシテ境内地ノ目的ヲ損セサルモノ
- 前項ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ神社ノ承認ヲ得地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ一時限リ使用ハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス

第二十八條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ境内地ノ使用ヲ禁止シ若ハ停止シ又ハ建設物ノ改造撤却其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

- 一 制規ノ手續ヲ經サルトキ
- 一 期限ヲ經過シタルトキ
- 一 神社ノ爲メ必要アリト認メタルトキ
- 一 公益上必要アリト認メタルトキ
- 一 法令若ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

第二十九條 境内地ニ近接シ風致上必要ナル社有林ニ付テハ地方長官ニ於テ其ノ區域ヲ指定シ境内地ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得

拜所ノ建設並私祭神祠ヲ神社ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 官國幣社ニ於テ其ノ攝末社ノ指定又ハ廢止ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ具申スヘシ

第三十六條 神社ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ移轉先ノ社地及建物ノ圖面ヲ添ヘ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ移轉了了ラサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ年限ヲ延長スルコトヲ得

移轉了了リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第三十七條 神社及建物アル遙拜所ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ廢止又ハ合併了了リタルトキハ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條 道府縣ニ涉リ神社ヲ移轉シ又ハ合併セムトスルトキハ關係地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 地方長官ニ於テ前三條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ官國幣社、延喜式内社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第四十條 社殿亡失シタル後五年以内ニ再建セサル神社ハ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ年限ヲ延長スルコトヲ得

第三十條 本章ノ規定ハ建物アル遙拜所ニ之ヲ準用ス

第三章 創立、移轉、廢合

第三十一條 祭神ノ事蹟顯著ニシテ土地ノ情況又ハ緣故等特別ノ事由アルニ非サレハ神社ヲ創立スルコトヲ得ス

第三十二條 神社ヲ創立セムトスルトキハ氏子又ハ崇敬者トナルヘキ者五十人以上ノ連署ヲ以テ創立ノ事由ヲ具シ左記事項ニ關スル調書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 祭神及神社名
- 二 山 緒
- 三 社 殿
- 四 鎮座地及境内地
- 五 建設費及其ノ處辨方法
- 六 維持方法

第三十三條 神社創立ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ社殿ヲ建設セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ年限ヲ延長スルコトヲ得

建設了了リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第四章 參拜、寄附金、神札

第四十一條 神社ハ何等ノ名義ニ拘ラス參拜ノ爲メ料金を徴收スルコトヲ得ス

第四十二條 (削除)

第四十三條 神社又ハ神社ノ爲メニスル者ニ於テ寄附金ノ募集ヲ爲サムトスルトキハ其ノ目的、方法、金額、區域、期間及募集員ノ身元ヲ具シ神社所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタル上更ニ募集地地方長官東京府ニ在リテハ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

神社ノ爲メニ寄附金募集ヲ爲サムトスル者ハ豫メ神社ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

寄附金ノ募集ニ關シ神社ノ登載ヲ瀆シ其ノ他不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官東京府ニ在リテハハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ必要アル措置ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 (削除)

第四十五條 神社ニ於テ神札授與ノ爲出張所ヲ設ケタルトキハ出張所所在地地方長官ニ届出ツヘシ

第五章 罰 則

第四十六條 第二十五條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第二項ニ依ル命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十七條 神社ノ爲ニスル者ニ於テ第四十三條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第三項ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

第四十八條 本令施行前調製シタル明細帳ハ第七條ニ依リ調製シタルモノト看做ス

附 則

(大正十五年六月内務省令第三三號)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

従前ノ規定ニ依ル境内地、土石、切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲サムトスル許可ノ申請ニシテ本令施行ノ際仍其ノ許可ヲ得サルモノニ付テハ之ヲ本令ニ依ル届出ト看做ス

(別記)

第一號様式 (美濃野紙)

官國幣社明細帳

道府 國 市 郡 區 町 村 大字 字 鎮座

一 祭神 (神名) (座數)

配祀 (神名)

一 由緒

一 例祭 (月日)
一本殿 (建坪)
造營ノ沿革

一 境内 (坪數)
一 氏子 (戶數)

一 境内神社 (神社名)

一 祭神 (神名)

一 由緒

一 社殿 (種類)
造營ノ沿革

一 境内招魂社 (招魂社名)

一 祭神 (神名)

一 由緒

一 社殿 (種類)
境内遙拜所 (遙拜所名)

備考 一 (社格)(神社名)(神名)等括弧ノ箇所ニハ各々其ノ該當ノ事

配祀 (神名)

一 由緒

一 社殿 (種類)

一 境内 (坪數)

一 氏子 (戶數)

一 境内神社 (神社名)

一 祭神 (神名)

一 由緒

一 社殿 (種類)
境内招魂社 (招魂社名)

一 祭神 (神名)

一 由緒

一 社殿 (種類)
境内遙拜所 (遙拜所名)

備考 一 (社格)(神社名)(神名)等括弧ノ箇所ニハ各々其ノ該當ノ事

項ヲ記載スヘシ

一 祭神ニ柱以上ナルトキハ之ヲ竝記スヘシ

一 特別由緒アル祭典ハ其ノ名稱及月日ヲ「例祭」ノ次項ヘ附記スヘシ

一 幣殿、拜殿、神饌所、社務所、神庫其ノ他特ニ重要ナル建物ハ「本殿」ノ例ニ倣ヒテ記載スヘシ但シ「造營ノ沿革」ハ創建、改築、再築等特ニ著シキ事項ニ限リ記載スヘシ

一 本殿、幣殿、拜殿、神饌所、社務所、神庫其ノ他特ニ重要ナル建物ノ立圖、平圖及境内地並其ノ附近ノ平面圖ヲ添付スヘシ

一 境内神社、境内招魂社及境内遙拜所ニ付記載スヘキ事項中「種類」トアル箇所ニハ本殿、拜殿等建物ノ名稱ヲ記載スヘシ但シ境内神社ノ「造營ノ沿革」ノ記載方ハ第四項ノ例ニ依ル

一 境外ニ在ル奥宮若ハ攝末社ハ本社ニ準シ明細帳ヲ調製シ本社明細帳ニ添付スヘシ

第二號様式

府縣社以下神社明細帳 (美濃野紙)

道府 國 市 郡 區 町 村 大字 字 番地鎮座

一 祭神 (神名)

(社格) (神社名)

項ヲ記載スヘシ

一「社殿」ノ下「種類」トアル箇所ニハ本殿、幣殿、拜殿又ハ社務所等建物ノ名稱ヲ記載スヘシ

一氏子ナキ神社ニ在リテハ氏子ニ準スヘキ崇敬者戸數ヲ記載スヘシ

一明細帳ハ郡市區ニ別チテ編製シ目錄ヲ附スヘシ

第三號様式

招魂社明細帳(美濃野紙)

道府 縣 市 郡 區 町 村 大字 字 番地 領座

(官祭 招魂社名)

一由緒
一社殿 (種類)
一境内 (坪數)
一祭神

神名	舊藩名又ハ族籍身分	台記年月日 官私祭區別	戰死事故

第四號様式

遙拜所明細帳(美濃野紙)

道府 縣 市 郡 區 町 村 大字 字 番地

(遙拜所名)

一由緒
一建物 (種類)
一境内 (坪數)
第五號様式

官修墳墓明細帳(美濃野紙)

道府 縣 市 郡 區 町 村 大字 字 番地

(官修墳墓)

一設置ノ沿革
一域内 (坪數)

姓名	舊藩名	創立年月日	戰死事故

●社寺ニ關スル諸願届等
奥書ノ件

(明治十六年八月一日)
縣達第六百七十三號

戸長 役 場

社寺ニ關スル諸願届等差出候節ハ明治十四年九當縣丙第二百五號達ニ據リ篤ト調査ノ上左ノ書式ニ準シ奥書連署スヘク尤モ甲乙戸長役場ニ關係ノ分ハ甲乙戸長連署スヘシ此旨相達候事
前書ノ通届出候ニ付明治十四年九當縣丙第二百五號御達ニ據リ取調候處相違無之候間進達仕候也
年 月 日

何町戸長姓名印

●社寺ノ異動届出ニ關スル件

(明治三十年一月十九日)
縣訓令第三十號

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

神社寺院ノ異動ニ關シテハ其郡度神社ニ在テハ神職氏子信徒總代寺院ニ在テハ管長ノ添書ヲ以テ住職檀信徒總代ヨリ届出ヘキ管ノ處倒壊流失燒失等ノ爲メ社寺明細帳削除ヲ要スヘキモノモ該届出ナキヨリ其儘ニナリ居ル分モ間々有之ヤニ聞込候ニ付詳密取調果シテ神社寺院ノ建物倒壊流失燒失等有之候ハ、速ニ手續ヲ履行セシメ且ツ今後異動有之ニ當テハ其郡度遲滞ナク届出サシムヘシ

●神社遙拜所建設ノ件

(昭和二年十二月二十六日)
縣社兵第七一六三號回答

學務部長ヨリ西牟婁郡佐本村長宛

本月十四日附佐庶第八二六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記之通御承相成度此段及回答候也

記

一、遙拜所ハ可成設置セシメサル方針ニ有之候不得止シテ設置セサルヘカラサル特別ノ事由アルモノハ其ノ理由ヲ詳具シ遙拜所ヲ通シテ神社ヲ崇敬セムトスル者全員連署ヲ以テ其ノ氏神社神職及氏子總代ノ承認書相添エ知事ニ設置許可ヲ出願スルモノトス

前項願書ニハ凡ソ左記事項ヲ具申スルヲ要ス

一、遙拜所ヨリ氏神社及其ノ他ノ附近神社ニ至ル距離(其ノ

上ノ連署ヲ以テ出願スルモノトス

右

人民私邸内ニ自祭スル神祠 佛堂へ衆庶參拜差止ノ件

(明治十年一月十日
縣丙第八號)

小 區 長

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂ノ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様に姿ニ相成不都合ニ候條自今總テ參拜可差停尤其建物等更ニ信仰人共有之筋ヲ以テ尙參拜致度者モ候ハ、永續方法並神官僧侶ノ受持承諾書等相添可伺出旨今般教部省ヨリ被相達候條此旨相達候事

但從前願濟ノ分ト雖建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調可伺出旨是亦同省ヨリ被相達候付此段副達候也

人民私邸内ノ祖靈社へ衆 庶參拜禁止

(明治十六年九月二十九日
縣布第五十六號)

從來人民私邸内等ニ有之公許共有ニアラサル祖靈社へ衆庶參拜爲致向モ有之自然一般社寺同様に姿ニ相成不都合ニ候條自今參拜爲致候義不相成此旨布達候事

ル義ニ有之萬一如斯事實生スル場合ニ於テハ法律上處分セラ
ル、モノアルト否トニ拘ラス管理上其責ニ任スヘキモノナル
ニ依リ平素特ニ注意警戒ヲ加フヘシ

失火取締ニ關スル件

(明治四十五年五月一日
縣學第二八六六號通牒)

內務部長ヨリ官國幣社宮司宛

神社ニ於ケル失火取締方ニ就テハ曩ニ及御注意候次第モ有之
平素警戒ヲ怠ラサルコト、存候ヘトモ近年火災續出シ有數ノ
神社ニシテ類焼ノ災ニ罹リ古來由緒アル建物モ一朝ニシテ灰
燼ニ歸スル遺憾モ有之候條此際社殿建物ノ大小狀況ニ應シ經
費ノ許ス限リ唧筒消火器等ヲ購入シ万一ノ變ニ備フル様致度
又夜間宿直員ノ境内巡視等平素警衛方法ニ遺漏ナキハ勿論神
社附近ノ人家ニ對シテモ豫メ警告ヲ加ヘ置カレ度此段及通牒
候也

失火盜難取締ニ關スル件

(大正元年九月十日
縣學第六〇五六號三通牒)

郡 市 長

神社ノ失火盜難等取締ニ關シ依命左記及通牒候
一、神社ノ失火等取締ニ關シテハ曩ニ通牒ノ次第モ有之候處

見取圖添付ヲ要ス

一、遙拜所ヲ通シテ神社ヲ崇敬スル者ノ戶數
一、遙拜所設置後ニ於ケル氏神社ニ對スル氏子供進金負擔
豫定(從來各戶負擔額ニ對シ設置後増減ノ豫定等詳細記
載スルコト)

一、氏神社ノ大祭以下總テノ祭典日ニ於ケル祭典執行ノ方法
一、神符守札等ノ氏神社神札拜受方法豫定

一、其ノ他氏神社ト遙拜所ヲ通シ氏神社ヲ崇敬スル氏子ト
ノ連繫方法豫定アラハ記載ノコト

一、遙拜所境内ニ充ツル土地ノ反別坪數及其ノ所有者ト遙
拜所設置代表者トノ間ニ於ケル遙拜所境内トシテノ貸與
契約書

(稅務署土地臺帳ノ謄本添付ノコト)

一、注連杭、賽錢箱、祭壇等ノ遙拜所ニ對スル總テノ施設
計畫(形狀、大小寸法、構造ノ詳細設計ヲ說明シ其ノ說
計圖面並ニ夫等設備ノ境内配置見取圖添付ノコト)

一、遙拜所設置ニ關スル收支豫算書

一、設置後ノ維持方法

一、其ノ他特殊事項

一、遙拜所ノ内建物アルモノニ付テハ內務大臣ノ許可ヲ受ク
ルヲ要シ容易ニ許可セラレサルヘキ義ノ處敢テ出願セムト
スル者ハ大体前記建物無キ遙拜所ノ設置許可願ニ五十人以

神社昇格運動取締ニ關 スル件

(大正四年六月十八日
縣學第三六二二號通牒)

郡 市 長 宛

神社昇格ノ件ニ關シテハ申迄モナク大正二年四月內務省令第
六號第六條ノ規定ニ依リ當廳ノ具申ニ基キ詮議セラレヘキ筋
ノモノニシテ之カ詮議上必要ナル調査事項ニ付テハ凡テ當廳
ヨリ其筋へ申出ヘキハ手續上當然ノ義ニ有之候然ルニ昨今神
社昇格ヲ出願スルニ際シ神職及氏子崇敬者總代等神社關係ノ
者自儘ニ出京ノ上昇格運動ヲ爲ス者往々有之候趣及間候右ハ
單リ規律上穩當ナラサルノミナラス日子及費用ヲ徒消スルカ
爲累ヲ神社ニ及ホスコト可有之洵ニ遺憾ノ義ニ存候就テハ斯
カル場合ニハ篤ト御注意相成豫メ之カ運動阻止ノ方法ヲ講シ
候様致度依命此段及通牒候也

神社出火ニ關スル注意

(明治三十一年六月十五日
縣訓令第六十八號)

官 國 幣 社 神 職

近來他府縣ニ於テ神社ヨリ出火シテ鳥有ニ歸セシメタルモノ
往々有之是レ一ハ管理不行届ノ致ス處ニシテ不都合ヲ免レサ

是等ニ關シ別紙ノ通各警察署長へ通牒相成候ニ付テハ神職及當事者ヲ督シ寶物貴重品ノ格護ヲ嚴密ニスルハ勿論成ルヘク宿直員ヲ置キ境内地建物ノ保管取締ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度候

(別紙)

(大正元年九月十日)
(學第六〇五六號二通牒)

各警察署長、同分署長宛

神社ノ失火盜難等取締ニ關シ依命左記及通牒候
一、神社ノ失火盜難其他境内地等取締ニ關シテハ夫々規程モ有之神社管理者ニ於テ平素注意ヲ加ヘシメ居リ候ヘトモ頃日は等ノ災厄ニ罹レル神社モ有之ノミナラス地方ニヨリテハ往々神社榜示ノ禁條ヲ犯シ境内樹木ヲ損傷シ或ハ濫リニ社殿建物ニ浸入シ或ハ境内建物ノ清淨ヲ穢ス等神社ノ風致尊嚴ヲ害スル行爲ヲナスモノ不少是等ニ關シテハ今後一層管理ノ嚴密ヲ期セシムヘキ筈ニ有之候ヘトモ中ニハ神職欠員中ノ神社モ有之旁所在警察官ノ警邏ニ際シテハ此邊充分ノ注意ヲ拂ヒ特ニ夜間ノ巡察ニ注意シ管理者ノ保護取締ト相俟テ警衛ノ周到ヲ期シ候様致度候

支廳長市長委任事項

(大正十五年七月一日)
(縣令第五百八號)

沿革 大正一五年七月縣令第一二二號、同年一〇月同第一三九號、昭和六年三月同第三號改正

- 支廳長、市長委任事項左ノ通定ノ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第一條 左ニ掲クル事項ハ支廳長及市長ニ其ノ處分ヲ委任ス
 - 一、改名復姓願ニ關スル事
 - 二、(削 除)
 - 三、國寶以外ノ社寺什物取締ニ關スル件
 - 四、縣社以下神社寺院臨時神祭法會届受理ニ關スル事
 - 五、縣社以下神社神職ニ係ル旅行願ヲ許可シ除服出仕ヲ命シ及諸届受理ニ關スル事
 - 六、部落以上ニ涉ル氏子替届ニ關スル事
 - 七、縣社以下神社寺院境内地及境外地枯損障害竹木ノ伐採ニ關スル事
 - 八、古社寺保存金預入又ハ引出ノ場合其ノ請求書ニ副申ノ事
 - 九、保安林枯損障害木伐採ニ關スル事
- 第二條 左ニ掲クル事項ハ支廳長ニ其ノ處分ヲ委任ス
- 一、縣稅遊興稅ニ依ル督促狀發付滯納處分ニ關スル事

官國幣社祭神分靈ノ場
合出願方

(明治三十二年四月十四日)
(縣調令第七十三號)

官國幣社社務所

官國幣社祭神分靈之義ハ濫リニ授與不相成候義ニ付若シ特別ノ理由アリ分靈ヲ授與セントスル場合ハ當廳へ出願スヘシ

令示公布式規程

(明治四十五年三月二十九日)
(縣令第十十三號)

沿革 昭和二年九月縣令第五五號改正

本縣令示公布式規程左ノ通相定ム

令示公布規程

- 第一條 縣ノ令示ハ和歌山縣報ニ登載スルヲ以テ公布トス
- 第二條 支廳ノ令示ハ所轄町村役場ニ配付シ及支廳揭示場ニ揭示スルヲ以テ公布トス

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行ス
明治四十一年縣令第十六號公文公布式規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

二、營業稅法施行規則第二條第二項該當者ノ調査通報ニ關スル事

三、縣稅ノ賦課徵收ニ係ル諸報告受理ニ關スル事

四、(削 除)

五、(削 除)

六、木材管流ニ關スル事

七、町村農會設立ニ關スル事

八、町村農會ニ加入ノ必要ナシト認ムル者ニ關スル事

九、町村農會收支豫算、經費分賦收入方法借入金會則ノ變更ニ關スル事

一〇、會員外ヨリ町村農會長及副會長選任ニ關スル事

一一、町村農會ノ決議又ハ役員ノ行爲カ法令若クハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若クハ害スルノ虞アリト認ムルトキ之カ決議ヲ取消シ役員ヲ解任シ議員豫備議員若ハ總代ノ改選ヲ命シ農會ノ事業ヲ停止シ又ハ其ノ解散命令ニ關スル事

一二、町村農會ノ解散合併分割ニ關スル事

一三、町村農會解散シタルトキノ清算方法財產處分清算人ノ選任解任ニ關スル事

一四、郡農會特別議員任命ニ關スル事

一五、郡農會長町村農會長止當ノ事由ナクシテ總會ノ招集ヲ爲サ、ルトキ之カ招集並會員又ハ議員若ハ特別議員ヲ

指定シテ總會招集ニ關スル事

一六、町村農會ノ決算報告清算結了届役員ノ選任解任又ハ清算人ノ就任退任届處理ニ關スル事

第三條 左ニ掲クル事項ハ支廳長又ハ市長ヨリ直ニ當廳ニ報告スヘシ

- 一、小學校代用教員ノ懲戒處分
- 二、縣社以下神社寺院境内枯損障害竹木伐採願ノ處分
- 三、縣稅ノ賦課徵收ニ係ル諸報告集計
- 四、前條第七號第十一號第十二號乃至第十五號ノ處分

附 則

大正二年縣令第二十三號郡市長委任事項並明治四十五年訓令第二十四號郡市長處分後報告事項ハ發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二章 神

職

第二章 神

職

●官吏服務規律

(明治二十年七月三十日勅令第三十九號)

朕官吏服務規律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ 天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一 官廳ノ工事ヲ受負フ者

一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業業者

一 官廳ノ用品ヲ調達スル者

一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官國幣社以下神社神職奉務規則左ノ通定メ公布ノ日ヨリ施行ス

官國幣社以下神社神職奉務規則

- 第一條 神職ハ國家ノ禮典ニ則リ國家ノ宗祀ニ從フヘキ職司ナルヲ以テ平素國典ヲ修メ國體ヲ辨シ操行ヲ正シクシテ其ノ本務ヲ盡スヘシ
- 第二條 祭祀ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬ヲ旨トシ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ
- 第三條 祭典ハ制規ニ據リ之ヲ行ヒ非常ノ事故アル場合ノ外濫ニ其ノ次第ヲ變更シ又ハ其ノ時間ヲ伸縮スヘカラス但シ古來ノ儀式ニ違ヒ神社慣行ノ神賑等ハ適宜之ヲ行フコトヲ得
- 第四條 臨時祭ヲ行ハムトスルトキハ所轄警察官署ニ通知シ官國幣社ニ在リテハ更ニ地方長官ニ申報スヘシ
- 第五條 神札ハ氏子又ハ宗敬者以外ノ者ニ之ヲ配授スルコトヲ得ス但シ其ノ請求ニ依リ之ヲ授與スルヲ妨ケス
- 第六條 神職ハ己ムヲ得サル場合ノ外其ノ奉仕スル神社所在地ノ市町村内ニ居住スヘシ
- 第七條 神職ハ社殿及境内ノ清潔修理ニ注意シ神社ノ尊嚴ヲ保持スルニ努ムヘシ
- 第八條 火災盜難等ノ豫防ニ付テハ周到嚴密ヲ期シ豫メ取締方法ヲ定メ常ニ警戒注意ヲ爲スヘシ

官國幣社以下神社神職奉務規則

(大正二年四月二十一日) 內務省訓令第九號 官國幣社以下神社神職

- 第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス
- 第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス
- 第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ
- 第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乗船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事情ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス
- 第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

官國幣社處務規則

(明治三十六年十一月二十一日) 縣訓令乙第八十八號 通牒

沿革 昭和四年三月訓令甲第一〇號改正

官國幣社社務所

官國幣社處務規則左ノ通相定ム

官國幣社處務規則

- 第一條 社務ハ宮司ニ於テ各擔任者ヲ指名シ之ヲ處理セシムヘシ
- 社務繁多ナル神社ニ在テハ分課ヲ設クヘシ處務細則ハ知事ノ認可ヲ得テ宮司之ヲ定ムヘシ
- 第二條 社務ハ擔任者ニ於テ速ニ處分見込取調ヘ回議ニ附シ宮司ノ決裁ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス
- 第三條 宮司ハ彌宣以下ニ缺員アルトキ若クハ缺員ナキモ社務ニ必要ノトキハ其給額及姓名(本人履歷書添付)ヲ具狀

- シ知事ノ認可ヲ得テ雇員ヲ使用スルコトヲ得社入金ヲ以テ雇員ヲ使用スルトキ亦同シ
- 但祭典等ノ節一時雇員ヲ使用スルハ本項ノ限りニアラス
- 第四條 職員出勤ノ節ハ出勤簿ニ捺印スヘシ疫病又ハ事故アリテ出勤シ難キトキハ事由ヲ具シ宮司ニ届出ツヘシ
- 病氣引籠五日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス
- 第五條 忌服ヲ受ケタルトキハ判任待遇以上ノ職員ニアリテハ知事及宮司ヘ其他ニ在テハ宮司ニ届出ヘシ
- 除服出仕ハ判任待遇以上ノ職員ニ就テハ知事其ノ他ニ付テハ宮司之ヲ命スルモノトス職員死亡セルトキ亦第一項ニ同シ
- 第六條 職員ノ奉務表ハ別表雛形ニ依リ毎翌月十日迄ニ知事ニ報告スヘシ
- 第七條 宮司ノ職員及會計主任ノ印鑑ハ內務省及當廳ヘ届出置クヘシ
- 第八條 重要ナル印章ハ宮司ニ於テ嚴重ニ保管スヘシ
- 第九條 神殿倉庫等ノ鍵ハ宮司ニ於テ封印ヲ施シ置クヘシ但宮司ニ於テ自カラ保管スルモノハ此限リニアラス
- 第十條 社務所ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

祭神記 由緒記

體シ怠慢ノ所爲無之權訓示スヘシ

●宮司奉務ニ關スル件

(大正二年五月十三日)
縣學第二五〇一號通牒

內務部長ヨリ各宮司

貴職ノ出缺勤ニ就テハ別ニ明定セル規程無之候ヘトモ日曜日等ノ休日又ハ疾病旅行其ノ他正當ノ事由アルニアラサレハ日々ノ奉務ヲ缺クヲ得ス其ノ邊既ニ御了知ノ上恪勤勵精セラレツ、アルコト、相信シ候然ルニ往々實際ノ出缺勤ト毎月報告奉務表ノ日數ト相違セル向アリ自然格別ノ事由ナク奉務ヲ缺クノ日モ不尠ヤニ認メラル、ハ最モ遺憾トスル所ニ有之候最近神社ニ關スル法令改正ノ趣旨モ有之奉務上一層努力ヲ要スルコト、相成候次第ニ付今後更ニ注意ヲ厚フシ御勵精相成度爲念依命此如及通牒候

追テ出勤ノ節ハ出勤簿ニ捺印シ事故ニ依リ奉務ヲ缺ク場合ハ其ノ事由ヲ明記シ置カレ度申添候

●神職ハ神社所在地ニ住居ノ件

(明治三十年六月二十八日)
縣訓令第二百七十號

官國幣社事務所

官國幣社神職ハ其奉仕スル神社所在地ノ市町村ニ住居スヘシ

若神社所在地外ニ住居セント欲スルトキハ事情ヲ詳具シ本縣知事ノ認可ヲ乞フヘシ
但シ明治二十年四月當縣訓令第六十號ハ取消ス

●官國幣社神職尋常試驗細則

(明治三十五年六月十二日)
縣告示第五百五十八號

當縣官國幣社神職尋常試驗細則別紙ノ通相定候旨同委員長ヨリ報告アリタリ

(別紙)

官國幣社神職尋常試驗細則

- 第一條 官國幣社神職尋常試驗ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ニ依リタル願書ニ履歷書等ヲ添ヘ試驗期日二十日前迄ニ當廳ニ到達スル様差出スヘシ
- 第二條 年齡二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ハ神社ノ試驗ヲ受クルコトヲ得
 - 一 重罪犯罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 定役ニ服スル輕罪ヲ犯シタル者
 - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散者若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者

第九條 試驗ヲ別チテ筆記試驗口述試驗トス筆記試驗ニ合格シタルモノニアラサレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

筆記試驗終リタルトキハ翌日受驗人控所ヘ合格者ノ姓名ヲ揭示スヘシ

第十條 口述試驗ハ試驗委員ノ列席ヲ以テ受驗人一名毎ニ試問シ即時答辯ヲナサシムヘシ

第十一條 受驗人ハ答案毎ニ番號ノミヲ記シ姓名ヲ掲クヘカラス

答案ハ楷書又ハ行書ニテ明瞭ニ記載スヘシ

第十二條 受驗人ハ其ノ試驗中ハ總テ試驗委員ノ指揮ニ從ヒ靜肅ニスヘシ若シ其ノ指揮ニ從ハサルカ又ハ試驗委員ニ於テ他ノ妨碍トナルヘキ見込アルモノハ即時退場ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 試驗人ハ試驗問題ニ付試驗委員ニ質問スルコトヲ得ス

第十四條 試驗ハ筆記試驗ト口述試驗ヲ區別シテ其合格不合格ヲ定ムルモノトス

筆記口述試驗トモ各科目ノ定點數ヲ十點トシ其ノ得點平均六點以上ヲ合格トシ其ノ未滿ヲ不合格トス一科目ノ得點四點以下ノモノハ不合格トス

第十五條 名科目ノ成績ハ試驗委員總員ノ評定スル所ニ依ル可否相半スルトキハ試驗委員長之ヲ決定スヘシ

四 禁治產者準禁治產者

五 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條 第一條ノ出願者ハ身分職業年齡及兵役ニ關スル事項及第二條ノ各號ニ抵觸セサルヤ否ノ市町村長ノ證明書ヲ履歷書ニ添付スヘシ

第四條 尋常試驗科目左ノ如シ

一 祭式

二 倫理

三 國文

四 歴史

五 法制

六 算術

(祝詞體)
(公文體)
(現行神)
(社法令)

第五條 試驗期日及場所ハ豫メ官報公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條 試驗委員ハ受驗人名簿ヲ調製シ願書到着ノ順序ニヨリ各受驗人ノ番號ヲ定メ之ヲ試驗當日受驗人ニ告知スヘシ

第七條 受驗人試驗室ニ入ルトキハ試驗委員ヨリ告知ヲ受ケタル番號順ニヨリ着席スヘシ

受驗人ハ筆紙墨等必要品ノ外書類其他ノ物品ヲ携帶スルコトヲ許サス

第八條 受驗人ハ羽織袴又ハ洋服ヲ着用スヘシ

第十六條 試驗委員長ハ試驗ヲ終リタル後五日以内ニ試驗成績表ヲ調製シ合格證書ヲ付與ス
第十七條 受験人試驗ノ日時ニ出席セス既ニ出席シタルモ試験時間中退室シタルトキハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
第一號書式 (用紙美濃紙)

試驗 願
族籍戸主又ハ何某長二三男
兄弟等ノ別職業
氏 名
生年月日
私儀官國幣社神職尋常試驗相受度別紙履歷書等相添此段奉願候也
年 月 日

官國幣社神職尋常試驗委員長宛
前書之通相違無之候也
官國幣社神職尋常試驗委員長宛
前書之通相違無之候也
年 月 日

履 歷
市町村長 氏 名 印
書 (用紙美濃紙)
何府縣華士族平民 氏 名 印

ニ從事シ何年何月辭職免官又ハ轉任以上ノ辭令左ノ如シ
辭令全文ヲ掲ク
一何年何月ヨリ何地何會社ニ雇ハレ(俸給月何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解雇其間俸給ノ増加何回最終俸給月何圓
一何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス
一何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ著譯書名ヲ掲ク但洋書ハ其原名ヲモ記スヘシ
賞 罰
一何年何月何地ニ於テ何々事由ノ爲メ賞ヲ受ク其ノ辭令左ノ如シ
辭令全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ詳記スヘシ
一何年何月何地ニ於テ何々事由ノ爲メ罰ヲ受ク
辭令アルモノハ各其ノ全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ詳記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要領ヲ記スヘシ
總テ罰ハ其ノ受罰ノ日數過料罰金ノ額等ヲ記スヘシ
破産等ノ有無
一何年何月何地ニ於テ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモ何年何月何日復權ス(破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受

本 籍
一何府縣何國何都市何町村何番地戸主又ハ何某男弟伯叔父等
現 住 所
一何府縣何國何都市何町村何番地(何某方寄留)
學 事
一何年何月ヨリ何地某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ學科大略何々
一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其ノ證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其學科ハ何々
一何年何月何地何學校何々ニ於テ何々ノ試驗ヲ受ケ及第ス其ノ證書若クハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ試驗學科ハ何々
職 業
一何年何月何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月解職其ノ間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス以上辭令左ノ如シ
此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲記スヘシ又私立學校等ニテ辭令ノナキモノハ之ヲ省キ其ノ俸給等ヲ本文ニ詳記スヘシ
一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月マテ何々ノ事務

ケタルコトナシ)
一何年何月何日身代限リノ處分ヲ受ケタルモ何年何月何日債務ノ辨償ヲ終フ(身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ)
一何年何月何地ニ於テ禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルモ何年何月何日何々ノ申請ニ據リ解除セラレタル等其ノ要領ヲ記載スヘシ(禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ)
右ノ處分ニ付裁判所ノ申渡ヲ詳記スヘシ
右ノ通相違無之候也
年 月 日
右
姓 名 印
履歷書ハ楷書又ハ行書ニテ明瞭ニ認ムヘシ

●官幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程

(昭和四年三月十日)
(縣訓令甲第十六號)
沿革 昭和五年八月訓令甲第三〇號改正
官幣社々務所
官幣社神職旅行旅費ニ關スル規程左ノ通相定ム
官幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程

第一條 官幣社神職ノ出張ハ宮司ニ在リテハ知事ノ許可ヲ受ケ彌宣主典ニ在リテハ宮司之ヲ命シタル上知事ニ届出ツヘシ但シ一日内ニ往復スル出張ニ付テハ此ノ限リニアラス私事ノ旅行ハ宮司ニ在リテハ知事ノ許可ヲ受ケ彌宣主典ニ在リテハ宮司ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲ケル場合ハ宮司ニ付テハ知事ニ届出ツヘシ

- 一、賜暇中私事旅行
- 一、忌引中歸省
- 一、父母ノ病氣看護歸省

第二條 前條ノ許可申請届書ニハ事由日數地名等ヲ詳記シ其ノ出張ニ係ルモノハ尙旅費豫算並現存額及其ノ所要額「内譯明記ノコト」ヲ詳具スヘシ

第三條 宮司彌宣及主典ノ旅費及雇員ノ旅費ハ別表ノ額ニ依ル

特別ノ事情アリテ知事ノ認可ヲ經タルトキハ前項ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

宮司赴任旅費ハ明治四十四年一月内務省訓令第九號ニ依ル車馬賃、日常、宿泊料及赴任手當定額ニヨリ夫々算出シタル合計額ニ付壹割五分（錢位未滿ハ切捨ツ）ヲ減額支給ス前項ノ規定ハ家族移轉料ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第四條 彌宣主典赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日常五分分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

勤任待遇 ヲ受ケル	宮司		彌宣		主典		雇員	
	縣内	縣外	縣内	縣外	縣内	縣外	縣内	縣外
一、〇〇圓	一、〇〇圓	八〇圓	七五圓	六〇圓	四五圓	四〇圓	四〇圓	四〇圓
五、五〇圓	五、五〇圓	四、五〇圓	四、五〇圓	三、五〇圓	二、〇〇圓	二、〇〇圓	一、三〇圓	一、三〇圓
八、五〇圓	八、五〇圓	七、五〇圓	六、五〇圓	五、五〇圓	四、〇〇圓	三、〇〇圓	二、五〇圓	二、五〇圓
等運賃、二階ノハ其ノ上級、等級區分ナキモノハ其乘車ニ要スル運賃	右同斷	右同斷	右同斷	右同斷	二等運賃其ノ他	二等運賃其ノ他	三等運賃	三等運賃
一八〇圓	一三五圓							

●神職ノ旅行並經費節約ニ關スル件

(大正十三年八月二十二日)
縣社兵第一三九一號通牒

内務部長ヨリ各官幣社宮司宛

近時神職ノ旅行ニ際シ正規ノ手續ヲ經スシテ旅行シ或ハ其ノ

但シ移轉料並縣内赴任手當ハ左ノ區分ニ依リ支給スルモノトス

移轉料

二百里以上百圓、二百里未滿八拾圓、百里未滿參拾圓、一里未滿拾五圓
但シ縣内赴任ノ場合家族移轉料ハ支給セス
縣内赴任手當

五十里以上日常五日宿泊料五夜分、五十里未滿日常四日宿泊料四夜分、三十里未滿日常三日宿泊料三夜分、十里未滿日常一日宿泊料一夜分

第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ本令ニ規定セルモノ、外明治四十四年一月内務省訓令第九號官幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス明治四十四年二月十八日和歌山縣訓令第八號官幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程及大正十四年十一月六日和歌山縣訓令乙第一四一號官幣社彌宣以下判任待遇神職赴任旅費規程ハ昭和四年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

別表

區別	縣内外	車馬賃日	當宿泊料	鐵道賃船賃	移轉料
	一里	二付一日	二付一夜	二付	

手續ヲ經ルモ旅行間際ニ之ヲ行フモノ有之職務上甚タ遺憾ニ被存候條自今不都合無之權充分御留意相成度尙又神社費ノ運用ニ就テハ一般財政ノ緊縮ニ伴ヒ既ニ相當御考慮ヲ拂ハレ居候事トハ存候ヘ共努メテ冗費ヲ節約シ基本財産ノ造成ヲ圖ルヘク御注意相成度此段及通牒候也

●年末賞與ニ關スル資料調査ノ件

(大正十四年十一月三十日)
縣社兵第一六七一號通牒

内務部長ヨリ官幣社宮司宛

貴社職員ニ對スル年末慰勞金給與ノ資料ト致度候條十一月末日現在ヲ以テ左記事項取調來ル十二月十日迄ニ失期ナク當廳ヘ到達スル様御回報相成度候尙爾今每年十一月末日現在ヲ以テ本文御調査ノ上翌十二月五日限り御報告相成度此段及通牒候也

記

出勤日數	出張日數	賜暇日數	缺勤日數	忌引日數	勤務成績	職名

度候

●府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件

(明治二十七年二月二十八日勅令第二十二號)

沿革 明治三十三年十一月勅令第三九八號三十五年二月第三二號四十二年九月第三四九號、大正二年二月第七號、四年十一月第二〇〇號、九年一月第二號、一五年六月第二四〇號、昭和三年五月第八十一號改正

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及郷社ニ左ノ神職ヲ置ク

社司 一人

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ議定シ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ議定シ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

ス

第七條 社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス

第七條ノ二 社司又ハ村社以下神社ノ上席社掌ニシテ二十年以上判任又ハ判任待遇以上ノ神官神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ道府縣各二人ヲ限り特ニ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

特別ノ事情アル道府縣ニ在リテハ特ニ前項ノ員數ヲ五人迄増スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ奏任待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ハ通ジテ百二十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

附 則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タルモノハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

●府社縣社以下神社神職任用規則

(明治三十五年二月十八日內務省令第四號)

沿革 明治四十二年七月內務省令第一六號、四十三年六月第二五號、大正元年十一月第三號、十年二月第二號、昭和二年四月

二八

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及郷社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ從事ス

第五條 村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 社司及社掌ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ニ於テ氏子總代又ハ崇敬者總代ノ推薦シタル候補者中ヨリ之ヲ補ス但シ氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ候補者ヲ推薦セサルトキ又ハ推薦再回ニ及フモ候補者其ノ任ニ適セスト認メタルトキハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ニ於テ適任者ヲ擧ケテ其ノ職ニ補スヘシ

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第六條ノ二 神社事務ノ管理ニ付テハ府社縣社ノ社司ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事朝鮮總督府道知事臺灣總督府州知事、郷社ノ社司及村社以下神社ノ社掌ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事朝鮮總督府道知事臺灣總督府州知事臺灣總督府廳長樺太廳支廳長北海道廳支廳長府縣支廳長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス

月第一九號改正

府社縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

府社縣社以下神社神職任用規則

第一條 年齡二十年以上ノ男子ニシテ社司社掌試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

官國幣社神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職及神職タリシ者ハ試驗ヲ要セス社司社掌ニ補スルコトヲ得

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ社司社掌ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散者ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 禁治產者準禁治產者
- 四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

- 第三條 地方廳ニ社司社掌試驗委員長一名及社司社掌試驗委員五名ヲ置キ社司社掌ノ試驗ヲ行ハシム
- 第四條 社司社掌試驗委員長及社司社掌試驗委員ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ選任スヘシ
- 第五條 社司社掌試驗委員ハ此規則ニ依リ試驗ヲ施行シ試驗委員長ヨリ其ノ成績ヲ北海道廳長官府縣

二九

知事ニ具申スヘシ

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ

注
本規則ニ
依ル試験
ハ本縣ニ
於テハ施
行致シ居
ラス

第七條 試験ヲ施行スルトキハ豫メ其ノ試験期日及場所等ハ官報公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八條 社司社掌ノ試験科目ハ左ノ如シ

一 祭式

二 倫理

三 國文 作文ハ祝詞體公文體

四 國史

五 法制 現行神社法令

六 算術

第九條 試験問題ハ社司社掌試験委員之ヲ定ム

第十條 此規則施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 左ニ掲クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試験ヲ要セス社司社掌試験委員ノ詮衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一 官國幣社及神部署神職任用令第九條一號二號三號五號ニ掲クル者

二 皇典、講究所ニ於テ内務大臣ノ認ミヲ得テ定メタル規

則ニ依リ學階ヲ附與シタル者
三 判任待遇以上ノ職ニ在リシ者ニシテ祝詞作文祭式ヲ修メタル者
四 内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業者
五 神繩縣ニ在リテハ大夫、祝部、權祝部及宮童ノ職ニ在リシ者又ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタル者
第十二條 神社ニ神職ノ國員アルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ三十日以内ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ但シ現ニ其ノ管内ニ奉職スル者ニ在テハ履歷書又資格證明書ヲ省クコトヲ得
北海道廳長官、府縣知事ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ此場合ニ於テハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ前項ノ例ニ依リ之カ推薦ヲ爲スヘシ
第十三條、第十四條 (削除)

附 則

第十五條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ施行ス

第十六條 本令施行前ヨリ現ニ府縣以下神社ノ神職タル者ハ本令ノ施行ニ依リ神職タルノ資格ヲ失フコトナシ

第十七條 明治二十八年内務省令第十號同年内務省訓令第六五六號及同年内務省訓令第十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

府縣社以下神社神職職印
調製ノ件

(明治三十年四月十三日)
縣社甲第七號通牒

今般官國幣社神職職印ニ關シ別紙ノ通訓令相成候ニ付テハ自今府縣社以下神職ト雖モ其職務上調製スヘキ書面ニハ(明治八年太政官第百十號達)ニ準シ職印ヲ押用シ差支無之儀ニ候條依命此段及通牒候也
(別紙略)

縣社以下神社神職社務
取扱心得

(明治三十三年六月十六日)
縣訓令第七十五號

沿革 明治三十五年四月訓令甲第二三號、同四十五年三月訓令第八號、大正十五年七月訓令甲第九五號改正

郡 役 所、市 役 所
町村役場 縣下神社々務所

縣社以下神社神職社務取扱心得左ノ通相定ム

縣社以下神社神職社務取扱心得

第一條 縣郷社ノ社司ハ一切ノ社務ヲ擔任ス

但社掌ヲシテ便宜分掌セシムルコトヲ得

第二條 村社以下ノ社掌ハ一切ノ社務ヲ擔任スルモノトス

第三條 社務ニ必要アルトキハ備員ヲ置キ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 神社兼務ノ神社ニハ可成備員(社守)ヲ置キ境内ノ掃除等取締ヲ爲サシムルモノトス

第五條 備員ヲ置キタルトキハ本人ノ族籍姓名等速ニ届出ヘシ

但備雇シタルトキ亦同シ

第六條 大祭又ハ公式祭ノ場合ハ最寄神職相互ニ助祭スルモノトス

第七條 社務所ニ事務表誌ヲ備ヘ奉務一切ノ事項ヲ記入スヘシ

第八條 社殿始建造物ニ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修繕ノ手續ヲ爲スモノトス但小破修繕ハ出願ヲ要セスト雖モ改築又ハ舊形ノ變換及大修繕ハ圖面並目論見書及費金ノ用途等詳具シ必ス出願許可ヲ乞フモノトス

第九條 境内樹木ニ枯損ヲ呈シタルトキハ速ニ採伐出願、手續ヲ爲スモノトス

第十條 境内竹木賣却代金ハ苗木植繼費並修繕費充トシテ別ニ蓄積スルモノトス但支出ヲ要スルトキハ其理由ヲ詳具シ願出ルモノトス

●縣社以下神社社司社掌 推薦規程

(大正二年五月二十四日
縣令第三十七號)

沿革 大正十五年七月縣令第一〇五號改正

縣社以下神社社司社掌候補者推薦規程左ノ通之ヲ定ム

縣社以下神社社司社掌推薦規程

- 第一條 社司社掌候補者ヲ推薦セントスルトキハ其ノ俸給又ハ兼務手當支給額ヲ定メ推薦書(第一號書式)ニ本人履歷書(第二號書式)及本籍地市町村長ノ證明書(第三號書式)並ニ兼務者ノ推薦ニ在リテハ本務神社ノ承諾書(第四號書式)ヲ添ヘ知事ニ差出スヘシ但兼務者ノ推薦ニ在リテハ本籍地市町村長ノ證明書ヲ省クコトヲ得
- 第二條 社司社掌缺員ノ神社ニシテ三十日以内ニ其ノ候補者ヲ推薦シ難キトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ期間内ニ事由ヲ詳具シ推薦見込期間ヲ定メ知事ニ届出ツヘシ
- 第三條 氏子總代若ハ崇敬者總代ノ推薦ニ依ラスシテ社司社掌ニ補任セラレタルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ十五日以内ニ其ノ俸給又ハ兼務手當支給額ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 本令ニ依リ差出スヘキ書類ハ支應管轄區域内ニ在リ

附 則

第十八條 従前發布シタル訓令達等ニシテ本訓令ニ抵触スルモノハ取消ス

第十七條 當廳へ差出スヘキ願何届書ハ支應管轄區域内ニ在リテハ町村役場及支廳ヲ其ノ他ニ在リテハ町村役場又ハ市町村ヲ經山スヘシ

第十五條 新ニ社司社掌ニ補セラレタルモノハ十日以内ニ履歷書ヲ差出スモノトス

第十六條 履歷書ニ記載スヘキ事項ノ生シタルトキハ其都度届出ヘシ

第十四條 管内外ヲ問ハス七日以上ニ渉ル旅行ニシテ官廳ヨリ召集セラレタル場合ノ外ハ出願許可ヲ乞ヒ六日以内ノ旅行ハ其理由ヲ詳記シ届出ルモノトス

第十三條 (廢止)

第十一條 社殿始建造物及境内竹木ニ非常ノ災害ヲ被リタルトキハ其實況ヲ詳具シ直ニ届出ルモノトス

第十二條 神職中又ハ疫病ノ爲メ社務ニ服シ難キトキハ最寄神職ニ奉仕ヲ依囑スルモノトス

テハ町村役場及支廳ヲ其ノ他ニ在リテハ町村役場又ハ市役所ヲ經山スヘシ

附 則

第五條 本令施行ノ際現ニ社司、社掌ノ缺員アル神社ニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書 式

(第一號)

社司(社掌)候補者推薦者

族 籍

職 業

氏 名

俸給(兼務手當)年(月)額金何圓

支給方法 毎月何日月割支給又ハ年二期(何月何月)半額

ツ、支給等俸給支給ノ方法ヲ簡明ニ記載スヘシ

常神社々司(社掌)候補者前記ノ通推薦候也

年 月 日

何郡何市何町村大字

社 格 神 社 名

右氏子(崇敬者)總代

(第二號)

縣知事宛

履 歷 書

生年月日

族 籍

本籍地

現住所

氏 名
氏 名
氏 名

學 業

(免許狀、學階證、證明書等ハ本欄ニ記載其ノ證狀寫ハ別紙トシテ必ス添付スヘシ)

年 月 事

項 學校名其他

職 業

年 月 事

任 免 辭 令 其 他 郡 公 衙 名 其 他

賞 罰

年 月 事

項 學校官公衙其他

右相違無之候也	

右相違無之候也

右

氏

名

(第三號)

證

明

書

本籍地
族籍

氏

生年月名

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者

三 禁治産者準禁治産者

四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

右者前記各號ニ該當スル者ニアラス
右證明ス

年 月 日

記

一 客年十一月府縣社以下神社神職任用規則(内務省令)ノ改正ニ依リ神職ノ缺員アルトキハ知事ノ命令ヲ俟タス氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ三十日以内ニ候補者ヲ推薦セサルヘカラサルコト、相成候ニ付テハ豫メ其旨周知セシメ等閑ニ流レシムルカ如キコト無之様留意アリタシ

二 若シ前項期間内ニ候補者ヲ推薦シ難キモノアルトキハ必ス本規程(縣令、縣社以下神社推薦規程)第二條ニ依リ計劃ヲ立テ届出シメラレタシ

三 現ニ社司社掌ノ缺員アル神社尙少カラス是等ニ對シテハ無漏此ノ機ヲ以テ候補者ノ推薦ヲ勸奨シ其ノ止ムヲ得サル事由アルモノニ對シテハ本規程附則第五條ノ届出ヲ勵行セシメラレタシ

四 候補者推薦書進達ノ際ハ必ス其ノ性行及適否ヲ省察シ尙兼務者ニ在リテハ相互神社ノ距離及奉仕社務ノ關係等詳查ノ上意見ヲ具シ進達アリタシ

五 明治三十五年三月十一日縣訓令甲第十四號縣社以下神社神職候補者推薦書差出手續ハ本令ニ依リ消滅ノ義ハ承知アリタシ

(第四號)

承 諾 書

市

長

村

長

當神社々司(社掌)ヲシテ(何神社)社司(社掌)ヲ兼務セシメラル、モ當社奉仕社務上支障無之被存候依テ兼務承認候也

年 月 日

所在地

社格神社

氏子(崇敬者)總代

氏

氏

氏

社司(社掌)

氏

名

名

名

名

● 社司社掌候補者推薦規程
施行ニ關スル件

(大正二年五月二十四日)
(縣學第三一七〇號依命通牒)
内務部長ヨリ各郡市長宛

本月二十四日縣令第三七號社司社掌候補者推薦規程施行ニ關シ依命左記及通牒候

● 神職履歷書式及記載事項

(明治二十七年八月二十七日)
(縣訓令第三百二十三號)

縣社以下神社ノ神職履歷書式及記載事項別紙ノ通相定メ候條該書式ニ依リ來ル九月中差出サシメ取纏メ進達スヘシ
但新補又ハ轉職ノ者ハ三日以内ニ差出サシメ將タ已ニ履歷書差出シタル後記載事項第十二以下ノ事アルトキハ即日届出サシムヘシ
(別紙)(用紙美濃野紙)

某郡某町大字某某神社社司 氏 名印
何府縣華(士)族平民 舊何藩 舊氏名

年號干支月日何國何郡何町村(現時ノ大字名)ニ於テ生ル

本籍 何府縣何郡市何町村(大字)何番地
現住所 同上

年號干支月日	任 免 賞 罰 事 故	官 銜
明治 年 月 日	任某官(某職)被仰付候事	某省
同 年 月 日	何々ニ付爲慰勞金何圓下賜候事	同上

同	年	月	日	叙勳何等	賞勳局
同	年	月	日	某神社祠官選舉認可	某縣
同	年	月	日	某神社祠官兼務認可	同上
同	年	月	日	補某神社祠官	同上
同	年	月	日	某職被廢	

以上此體ニ倣ヒ楷書ニテ正シク認ムヘシ
但官廳廢置及ヒ官制官等改正等ハ朱ヲ以テ記載スヘシ
履歷書記載事項

- 一 官職任免、非職、復職、某神社祠官選舉認可又ハ社司補免
- 二 官等、俸給
- 三 分課、在勤、委員、其他命令、委任
- 四 出納官吏ノ類
- 五 出張、巡回、並ニ外國派遣、歸朝
- 六 戰役從軍
- 七 官公私立學校職員
- 八 恩給、退官賜金
- 九 賞典、賞與、懲戒
- 十 叙爵、叙位、叙勳、從軍記章、外國勳章、記章佩用免許

- 前項ノ試験期日及場所ハ其時々告示ス
- 第二條 年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得
 - 一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復権シタルモノハ此限リニアラス
 - 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
 - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復権ノ決定スルニ至ル迄ノ者
 - 四 禁治產者準禁治產者
 - 五 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者
- 第三條 第一條ノ出願者ハ身分職業年齡並兵役ニ關スル事項又ハ第二條ノ各號ニ抵觸セサルヤ否市町村長ノ證明書ヲ履歷書ニ添付スヘシ
- 第四條 社司社掌ノ試験科目左ノ如シ
 - 一 祭式
 - 二 倫理
 - 三 國文
 - 四 作文(祝詞)
 - 五 法制(現行神社法令)
- 第五條 試験委員長ハ受験人名籍ヲ調製シ願書到着ノ順序ニヨリ各受験人ノ番號ヲ定メ之ヲ試験當日受験人ニ告知スヘシ

- 十一 官廳廢置、官制、官等改正、及之ニ關スル訓達
 - 十二 文官試験合格證書、皇典講究所試験證書
 - 十三 學校卒業證書、教員免許狀
 - 十四 官費留學、入學、卒業、内外學位
 - 十五 刑罰ヲ受ケタルモノハ其宣告
 - 十六 破産、家資分産若クハ身代限ノ處分及其復権若クハ債務辨償
 - 十七 改氏名、養子、復籍等身分ニ關スル異動
 - 十八 本籍、現住所ノ移轉
- 此他必要トスル事項

●社司社掌試験細則

(明治三十五年五月二十一日)
縣告示第百三十五號

沿革 大正一五年七月告示第二六一號改正
社司社掌試験細則左ノ通相定ム
但明治二十九年九月當縣告示第百三號ハ廢止ス

社司社掌試験細則

- 第一條 社司社掌ノ試験ヲ受ケントスルモノハ別紙書式ニヨリ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ支廳管轄區域内ニ在リテハ所屬町村役場及支廳ヲ其ノ他ニ在リテハ所屬町村役場又ハ市役所ヲ經テ試験期日二十日前迄ニ當廳ヘ到達スル様差出スヘシ
- 第六條 受験人試験室ニ入ルトキハ試験委員長ヨリ告知ヲ受ケタル番號順ニヨリ着席スヘシ受験人ハ筆墨等必需品ノ外書類其ノ他ノ物品ヲ携帶スルヲ許サス
- 第七條 受験人ハ羽織袴又ハ洋服ヲ着用スヘシ
- 第八條 試験ヲ分チテ筆記試験口述試験トス筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 筆記試験終リタルトキハ翌日受験人控所ヘ合格者ノ姓名ヲ揭示スヘシ
- 第九條 口述試験ハ試験委員ノ列席ヲ以テ受験人一名毎ニ試問シ即時答辯ヲナサシムヘシ
- 第十條 受験人ハ答案ニ每紙番號ヲ記シ姓名ヲ掲クヘカラス答案ハ楷書又ハ行書ニテ明瞭ニ記載スヘシ
- 第十一條 受験人ハ其ノ試験中ハ總テ試験委員ノ指揮ニ從ヒ靜肅ヲ旨トスヘシ若シ其指揮ニ從ハサルカ又ハ試験委員ニ於テ他ノ妨碍トナルヘキ見込アルモノハ即時退場ヲ命スルモノトス
- 第十二條 受験人ハ試験問題ニ付試験委員ニ質問スルコトヲ得ス
- 第十三條 試験ハ筆記試験ト口述試験ヲ區別シテ其ノ合格不合格ヲ定ムルモノトス筆記口述試験トモ各科目ノ定點數ヲ十點トシ其得點平均六點以上ヲ合格トシ其未滿ヲ不合格トス又一科目ノ得點四點以下ノモノハ不合格トス

第十四條 各科目ノ成績ハ試験委員總員ノ評定スル所ニ依ル可否相半スルトキハ試験委員長之ヲ決スヘシ

第十五條 試験委員長ハ試験ヲ終リタル後五日以内ニ試験成績表ヲ調製シ合格證書ヲ下付スヘシ

第十六條 受験人試験ノ日時ニ出席セス既ニ出席シタルモ試験時間中退室シタルトキハ常期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

試驗願書式

族籍戸主又ハ何某嗣子二三男
兄弟等ノ別
職 業 氏 名

私備社司社掌試驗相受度別紙履歷書ヲ添ヘ此段奉願候也
現住所 氏 名 印

年 月 日 氏 名 印
社司社掌試驗委員長氏名殿
前書ノ通相違無之候也
履 歷 書 式 (用紙美濃紙)
市町村長名印
何府縣華士族平民 氏 名
生 年 月 日

本 籍

務ニ從事シ何年何月辭職免官又ハ轉任以上ノ辭令左ノ如シ

辭令全文ヲ掲ク

一何年何月ヨリ何地何會社ニ雇ハレ(俸給月何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解雇其間俸給ノ増加何回最終俸給月何圓

一何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

一何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ

著譯書名ヲ掲ク但洋書ハ其原名ヲモ記スヘシ

賞 罰

一何年何月何地ニ於テ何々事由ノ爲メ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ

辭令全文ヲ掲ク辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ詳記スヘシ

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲メ罰ヲ受ク

辭令アルモノハ各其全文ヲ掲ク辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ詳記シ又裁判所ノ宣告書ハ其要領ヲ記スヘシ

總テ罰ハ其受罰ノ日數過料罰金ノ額等ヲ記スヘシ

破産等ノ有無

一何年何月何地ニ於テ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ

一何府縣何國何郡市何町村何番地戸主又ハ何某男弟伯叔父等

現住所

一何府縣何國何郡市何町村何番地(何某方)寄留

學 事

一何年何月ヨリ何地某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ學科大略何々

一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ

修業何年何月間ニシテ其學科ハ何々

一何年何月何地何學校何々ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其證書若クハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ

職 業

一何年何月何地官公私立何學校何學科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月解職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス

以上ノ辭令左ノ如シ

此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲記スヘシ又私立學校等ニテ辭令ノナキモノハ之ヲ省キ其俸給等ヲ本文ニ詳記スヘシ

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月マテ何々ノ事

タルモ何年何月何日復權ス(破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ)

一何年何月何日身代限りノ處分ヲ受ケタルモ何年何月何日債務ノ辨償ヲ終フ(身代限りノ處分ヲ受ケタルコトナシ)

一何年何月何日何地ニ於テ禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルモ何年何月何日何々ノ申請ニ依リ解除セラレタル等其要領ヲ記スヘシ(禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ)

△右ノ處分ニ付裁判所ノ申請ヲ詳記スヘシ

右之通相違無之候

右

姓 名 印

履歷書ハ楷書又ハ行書ニテ明瞭ニ認ムヘシ又△印ノ所ハ朱ニテ認ムヘシ

●縣社以下神社神職俸給
並旅費規則

(大正十五年九月十四日)
縣令第三百三十五號

縣社以下神社神職俸給並旅費規則別紙ノ通相定ム

縣社以下神社神職俸給並旅費規則

第一章 俸給

第一條 縣社以下神社神職ニハ其ノ神社ヨリ俸給ヲ支給ス
 神社ニシテ兼務神職ヲ置キタルトキハ其ノ神職ニ對シ手當
 ヲ支給スヘシ但シ兼務神社ニ在リテハ本務神社ト協定ノ上
 俸給額ヲ分割支給スルコトヲ得

第二條 社司社掌ノ俸給ハ之ヲ月俸トシ別表甲號ノ額ニ依ル
 俸給ハ五級俸未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定
 メ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ
 得ス

第三條 神職ニシテ一級俸ヲ受ケ五年以上ニ及ヒ成績優等ナ
 ル者ニハ特ニ月額參拾圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第四條 神職ノ俸給若ハ兼務手當ヲ増級セムトスルトキハ當
 該神社ニ於テ氏子總代連署ノ上知事ニ具申スヘシ

第五條 俸給支給ノ方法ハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル但シ特
 別ノ事情アル神社ニ在リテハ知事ノ認可ヲ得テ別ニ支給方
 法ヲ定ムルコトヲ得

第六條 神職ハ社務ノ狀況ニ依リ神職及雇員ニ對シ慰勞金ヲ
 給スルコトヲ得

第二章 旅費

第七條 神職社務ノ爲旅行シタルトキハ其ノ神社ヨリ別表乙
 號ノ旅費ヲ支給ス但旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則旅費支

備考 汽車汽船ニシテ二等車室ノ設ナキモノニアリテハ三等車費ヲ
 支給スルモノトス

官國幣社神職ニ對シテモ事務ノ繁閑ヲ計リ一年ヲ通シテ二十
 日以内ノ休暇ヲ賜フコト、相成候付テハ左記事項御含ノ上休
 暇並ニ旅行可然候

- 一、休暇ノ賜與ニ付テハ別ニ時期ヲ定メス各自ノ願出ニ依ル
 モノナルモ各自ノ願出ハ社務上差支ナキ範圍ニ依ル事
- 二、休暇ヲ得ントスル場合ハ宮司ニアリテハ知事ニ其ノ他ノ
 職員ニ在リテハ宮司ニ願出テ許可ヲ受クル事其ノ時旅行
 セントスル者ハ併而許可ヲ受クル事
- 三、休暇ノ許可手續ハ從來ノ賜暇ノ例ニ依リ取扱フ事
- 四、缺勤三十日以上ニ及フモノハ休暇ヲ與ヘサル事
- 五、缺勤十五日以上三十日未滿ノモノニ付テハ適宜休暇日數
 ニ裁量ヲ加フルコトアルヘシ
- 六、嘱託員、雇員等ニ對シテハ判任官待遇者ニ準シ休暇ヲ與
 フルコト

給ノ例ニ依ル

附 則

第八條 本令ハ大正十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第九條 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現
 ニ受クル本俸及臨時手當ノ合算額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相
 當ノ級俸ナキトキハ其金額ノ俸給ヲ受クルモノトス但第二
 條但書ニ依ル各所定ノ最低額未滿ナルトキハ大正十六年三
 月盡日迄現俸給額ニ止ムルコトヲ得

第十條 大正八年一月縣令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢
 止ス

社掌	社司	別表(甲號)									
		一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
縣内	縣外	100圓	85圓	75圓	65圓	60圓	55圓	50圓	45圓	40圓	35圓
縣内	縣外	110圓	95圓	85圓	75圓	70圓	65圓	60圓	55圓	50圓	45圓

社掌	社司	別表(乙號)			
		鐵道賃	船賃	車馬賃	日當
縣内	縣外	(費實等二)	(費實等二)	一里ニ付	日當ニ付
縣内	縣外	40圓	50圓	四〇	一、四〇
縣内	縣外	50圓	60圓	五〇	一、八〇
縣内	縣外	40圓	50圓	四〇	一、五〇
縣内	縣外	50圓	60圓	五〇	二、〇〇
縣内	縣外	40圓	50圓	四〇	三、〇〇
縣内	縣外	50圓	60圓	五〇	三、五〇
縣内	縣外	40圓	50圓	四〇	二、八〇
縣内	縣外	50圓	60圓	五〇	三、三〇

縣社以下神社神職服務ニ
 關スル件

縣社ハ祭典、祝日等ニ關シ國クヘカラサル儀式アリ且社頭管
 理上ニ付テモ亦各般ノ要務アリ而テ此内外一切ノ社務併セ掌
 ルハ神職タルモノ、責務ニ付祠官祠掌ニ於テ各神社ノ古例儀
 式ニ基キ祭典ハ勿論其要務ニ從事スヘキ義ニ有之候條一同此
 趣旨テ體シ怠慢ノ所爲無之様責務ヲ盡スヘシ

神職兼務ニ關スル件

現今ノ實況ニ徴スレハ神社數ニ比シ神職員數寡少ナルヲ以テ
 今直ニ一般神職ノ兼務ヲ廢スルハ極メテ困難ノ儀ト思考セラ
 レ候ヘ共近來神社ノ維持方法神職ノ養成等漸次整備ノ域ニ進
 ミ殊ニ府縣社以下神社ニ關スル神職俸給規程ノ如キモ數縣ヲ
 除クノ外多數ノ府縣ニ於テハ夙ニ其ノ規程ヲ設ケ俸給支給ノ
 實施ヲ見ルニ至リ又神職ノ兼務制限ニ關スル規程ヲ設ケタル
 地方モ不尠ニシテ神社奉仕上兼務ノ好マシカラサルコトハ
 今更言ヲ俟タサル所ニ有之今回ノ御即位並大嘗祭當日ノ大中

祭ヲ行フ場合ノ如キ最支障ヲ見ルコト不諱ト存候就テハ官國幣社ノ神職ハ此際力メテ兼務ヲ止メシメ府縣社以下神社ノ神職ニ在リテハ其ノ兼務ノ不得已場合ニ於テモ猶一定ノ制限ヲ附シ神職ヲシテ專念奉仕ノ任ヲ全フセシメ候様御配慮相成度尤モ右ハ各社ノ經濟事情等ニ依ルヘキ儀ニ付篤ト實況御取調ノ上神社ノ維持方法ノ充實ヲ期スルト共ニ兼務制限ノ件實行ニ著手セラレ候様致度ト存候

追而右神職ノ兼務制限ニ關スル規程ノ設ケアルモノ又ハ新ニ設ケラレタルモノアル時ハ直チニ御報告相願度

●神職常置ニ關スル件

(大正四年六月二十一日 縣學第三六五七號依命通牒)

內務部長ヨリ各郡長宛

各神社ニ神職ヲ置キ兼務ヲ廢止スルコトニ關シテハ屢々訓示相成候處現今ノ實況ニ徴スルニ一人ニシテ數社ヲ兼務スルモノ有之候ノミナラス甚シキニ至リテハ未タ神職ヲ置カサル神社有之候ハ神明ニ對シ誠ニ恐懼ノ至リニ存候今ヤ神社ノ維持方法神職養成等モ漸次整備ノ域ニ進ミ神職タラントスル者モ増加シツツアルニ際シ神職ヲ常置シ兼務ヲ廢スルハ餘リ困難ナラサル儀ト被存候殊ニ來ル十一月御舉行ノ御即位大嘗祭當日大中祭ヲ行ハセラルル場合ノ如キ最モ支障ヲ生スルコト不

●專任神職常置ヲ促スノ件

(大正十年六月六日 縣社兵第一二五號依命通牒)

內務部長ヨリ各郡市長宛

神社ニハ神職ヲ常置シ敬神思想ノ向上ニ努メ社務ノ運用ヲ十全ナラシムヘキ義ニ有之候處近時往々ニシテ兼務ノ社掌ヲ推薦スルモノアリ專任者ヲ置クニ顧慮セサルハ甚タ遺憾トスル所ニシテ神社行政上局ニアルモノノ深ク注意セサルヘカラサルコト、存候殊ニ縣下町村ノ中ニハ今尙全ク專任ノ神職ナク他町村ヨリノ兼務ヲ以テ満足セル向有之是等ハ要スルニ其ノ町村ノ敬神思想ニ乏シキヲ示スモノニシテ將來一層ノ監督指導ヲ要スル所ト認メ候ニ付此際斯カル町村ニハ速ニ專任神職ノ推薦ヲ促勵シ漸次各神社ニ常置ヲ見ル如ク進メラレ度依命及通牒候也

追而將來他町村ヨリノ兼務ハ之ヲ承認セス且ツ同村內ト雖三社(本務社共)以上ハ之ヲ兼務セシメサル方針ニ付若シ本項ニ該當スルモノアルトキハ機ヲ見テ右方針ニ改メラレ候様致度尙現任神職中學校教員、役場吏員、銀行會社員、郵便局事務員等他ニ職務ヲ奉セルモノハ漸次神職專任ニ改メラレ度申添候

諒ト存候就テハ左記各項ヲ斟酌シ神社ノ維持方法ノ充實ヲ期スルト共ニ來ル十月十日ヲ期シ村社以上ニシテ神職缺員ノ神社ニ在リテハ此際神職ヲ常置セシメ奉仕ノ實ヲ舉ケシメラレ候様致度依命此段及通牒候也

記

- 一、一町村一社ノ神社ニ在リテハ必ス專任神職ヲ置クコト
 - 一、一町村ニ數社アル町村ニシテ不得止場合ニ在リテハ其町村內ノ一神社ニ專任神職ヲ置キ他ヲ兼務セシムルモ差支ナシ
 - 一、兼務神社全部他町村ナルトキハ二社以上許サザルコト
 - 一、他町村ノ神社ヲ三社以上兼務シツツアル者ハ此際二社兼務ニ制限スルコト
 - 一、現在兼務シツツアル神職ニシテ前各項ニ抵觸スル者ハ此際兼務ヲ制限シ解職セシメ新ニ候補者ヲ推薦セシムルコト
 - 一、本件實行ノ際ニ於テ現ニ受クル手當額本務百八拾圓以下兼務九拾圓以下ナル者アルトキハ右手當額以上ニ増給セシムルコト新ニ補命セントスル者ニ對スル手當額亦同シ但神饌幣帛料供進指定以下ノ神社ニ在リテハ從前ノ手當額ヲ給スルモ差支ナシ
- 以上

●現任神職ニシテ現職ノ儘町長就任ノ件

(昭和二年三月三日 內務省形社第二號)

內務省神社局長ヨリ山形縣知事宛回答

現任神職ニシテ現職ノ儘町長就任ノ件
本年二月三日附ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處右ハ神職ノ職司上兼務セシメサル方針ニ有之候條御諒相成度
昭和二年二月三日 山形縣知事

內務省神社局長宛

●現任神職ニシテ現職ノ儘町長就任ノ件

管下東置郡小松町村社皇大神社社掌藤田國秀ヨリ現職ノ儘小松町長ニ就任ノ儀申請ノ處本人ハ代々奉仕ノ家柄ニシテ國學院大學出身者ニモ有之神社ト自宅トハ隣接セル關係上奉仕ニハ何等不都合無之且ツ奉務規則ニモ何等明示セラレサルニ付社務ニ差支無キ限り許可可然トモ被存候得共一應御意見承知致度此段及照會候也
追テ本人ハ大正十三年四月八日付奏任官ヲ以テ待遇セラレタル者ニ有之候條申添候

●神官神職ノ服務ニ關スル件

(昭和二十一年九月一日)
縣社兵第六三七五號ノ一通牒)

學務部長ヨリ各官幣社縣社
以下神社神職宛

曩ニ衆議院議員選舉法改正ノ結果神職ニ對シ被選舉權ヲ附與セラレタルニ鑑ミ今回明治二十七年二月内務省訓令第五號廢止相成候處今後ト雖神職ハ特ニ其ノ職責ニ鑑ミ其ノ身分ニ省ミ苟モ選舉運動ニ關與スルカ爲其ノ本務ヲ忽ニシ或ハ左ノ非議ヲ招クカ如キコト無之様尙又地方制度改正ノ結果神職カ議員ヲ兼ヌルコトヲ得ルコト、ナリタルモ之カ爲其ノ本務ニ支障ヲ來スカ如キコトアルヘカラサルハ勿論ノ義ニ有之旨特ニ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第有之候條右御諒承ノ上萬遺策ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

參考二十七年内務省訓令第五號

衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總テ政論ヲ容喙シ朋黨ニ加盟シ選舉ノ競争ニ關與スヘカラス一意事務ニ從事セシムヘシ

●神官神職居常國體ヲ講明シ 國民道德ノ振張督勵方

左記事項注意越候條趣旨ノ徹底ニ努力相成度此段及通牒候也

左記

神官神職ハ國家ノ宗祀ニ從ヒ彝倫ノ標準タルヘキ職司ニ在ルヲ以テ特ニ訓令ノ趣旨ヲ體シ其ノ本務ニ盡瘁シテ汎ク一般國民ノ儀範タルノ實アラシムルヲ要ス
惟フニ我國體ノ大義ニ依リテ國民ノ覺醒ヲ促シ由テ以テ剛健摯實ナル國民精神ヲ作興スルハ現下特ニ其ノ必要ヲ感スル所ナリ然ルニ祀職ニ在ル者ハ固ヨリ居住建國ノ精神ニ則リ惓誠恭敬ヲ致シテ祖宗先賢ニ奉事シ國家人民ノ福祉ヲ招徠スルヲ以テ任トスヘキ者ナレハ各自深ク祭祀ノ本義ヲ體シテ其ノ修養ニ勵メ奉仕ノ途ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ自ラ民心ヲ感孚シテ其ノ歸嚮ヲ明カナラシメ以テ敬虔ノ俗ヲ馴致スルニ資セシメラルヘシ
祭祀ヲ肅シ三社頭ノ設備ニ意ヲ用フルハ固ヨリ其ノ所ナリト雖モ往々祀典ノ形式ニ拘ハリ徒ニ外觀ノ飾設ニ没頭スルカ如キハ本末輕重ヲ辨セス職務ノ眞諦ヲ闡却セルモノト謂ハサルヘカラス殊ニ神社ノ設備ハ簡素ニシテ崇高ナルヲ旨トシ且其ノ規模ハ常ニ民力ト相當スルモノヲラシメラルヘシ濫ニ壯麗ヲ競ヒテ不急ノ工ヲ起シ負擔ノ過重ヲ顧ミサル如キハ寧ろ大ニ慎ムヘキ所ニ屬ス現今祀職ニ在ル者ニシテ奉務精神ノ充溢流露スル所進テ各種ノ社會施設ニ關與スル者少カラサルハ固ヨリ喜ブベキ事ナリト雖モ之カ爲往々ニ

四四

(大正十二年十一月十三日)
內務省發社第三號)

神官大宮司 各地方長官

國民的信念ノ漸養ニ關シ本日地方長官會議ニ於テ大臣ヨリ訓示ノ次第モ有之候處右ハ申ス迄モナク教化ノ根源ヲ我邦立國ノ大義ニ求メ由テ以テ醇厚剛健ナル國民ノ資質ヲ陶冶シ 詔書ニ宣セ給ヘル振作更張ノ實効ヲ收メントスルノ趣旨ニ有之宜シク國史ノ成果ニ稽ヘ祖宗先人ノ功業東澤ヲ念ヒ上下發奮協力シテ其ノ實行ニ勉ムヘク殊ニ神官神職ハ居常國體ヲ講明シ國民道德ノ振張ヲ以テ任トセルモノ此際一層其ノ責任ノ重大ナルヲ自覺シ實踐躬行國民ノ儀範トナリ挺身其ノ事ニ盡瘁シテ匪躬ノ誠ヲ效サシムル様督勵ヲ加ヘラルヘシ現下ノ世態ヲ按スルニ崇高敬虔ナル國民的信念ヲ漸養シ更始一新以テ精神の復興ノ實ヲ擧ケンコト今日最モ其ノ切要ヲ感スルモノト被存候條以上實施ニ關シテハ特ニ周到ナル御配意相成様致度

●神官神職ノ綱紀肅正ニ 關スル件

(大正十三年八月十六日)
縣社兵第一三六一號通牒)

官紀振肅ニ關シ六月二十四日官報號外ヲ以テ内閣總理大臣ヨリ訓令相成候處特ニ今回神社神職ノ綱紀肅正ニ付其ノ筋ヨリ

シテ其ノ本務ヲ怠リ或ハ累ヲ神社ニ及ホスカ如キハ亦嚴ニ之ヲ戒ムヘシ其ノ他操守ヲ嚴正ニシ處務ヲ整備スル等是レ亦神官神職ノ服務上最モ意ヲ注クヘキ所ナルヲ以テ苟モ世ノ非議ヲ招キ威信ヲ損スルカ如キ事ナカラシムル様特ニ之カ監督指導ニ勉メラルヘシ
要スルニ神官神職ノ職責ヲ完フスルト否トハ其ノ關繫スル所極メテ大ナルモノアルヲ以テ一層力ヲ修養ニ致サシメ益々其ノ職務ニ精勵シテ本領ヲ發揮セシメ率先シテ一般綱紀ノ肅正ニ資セシムル様督勵相成度依命此段及通牒候也

●地方改善ニ關スル告諭ノ 趣旨徹底方

(大正十二年二月二十二日)
縣社兵第二八〇號通牒)

內務部長ヨリ官幣社宮司縣郷社々司
村社以下社掌、各郡市神職支會長宛
本月七日付ヲ以テ地方改善ニ關シ別紙ノ通り本縣知事ヨリ告諭ヲ廢セラレ候處右ハ畏クモ昨冬 皇太子殿下本縣ニ行啓アラセラレ各方面ニ亘リ御獎勵ヲ賜ヒ特ニ部落ノ代表者並同功勞者ヲ御泊所ニ召サレ御下問ヲ給ヒ以テ縣民ニ對シ一視同仁ノ範ヲ示サセ給ヒタルハ寔ニ恐懼感激ニ堪ヘサル處ニシテ今回ノ告諭モ一ニ縣民ヲシテ優渥ナル聖旨ヲ感銘シ速ニ陋習ヲ

四五

打破シテ台慮ニ副ヒ奉ラシメンカ爲ニ外ナラス候就テハ各位ニ於テモ之カ趣旨ノ徹底ニ腐心セラル、處アルヘシト信シ候ヘ共從來ノ事例トシテ部落民ハ神社ノ氏子區域ヨリ全然除外セラレ爲ニ神社ト何等ノ關係ヲ有セス自然敬神崇祖ノ美風ヲ助長スルノ機會ナク延テ一般氏子間ト齟齬ヲ醸成スルノ惡弊尠カラス候斯クテハ御鑒旨ニ悖リ且各種ノ方面ニ影響ヲ及ホシ甚ダ遺憾ニ不堪次第ニ付自今町村其他氏子崇敬者等各方面ト相提携呼應シ舊來ノ陋習打破ニ深甚ノ注意ヲ拂ハレ度例令ハ部落民ニシテ神社ノ氏子タラントシ又ハ氏子區域ニ編入ヲ希望スル向ニ對シテハ喜ンテ之ヲ迎ヘ且ツ一步進ンテハ氏子ニ加入セシムルノ手段ヲ講シ神輿ノ渡御等其他神社ノ祭事ニ際シテモ何等差別ナク參加セシメ敬神思想ノ助長漸養ニ努ム一般氏子ト益々接觸和合ノ措置ヲ講シ以テ共同階和ノ實ヲ擧ケ告諭ノ趣旨徹底ニ勉メ進テ台慮ニ副ヒ奉ルヘキ様一段ノ御考慮ト御盡瘁相成度此段依命及通牒候也

恭シク惟ミルニ昨冬

皇太子殿下畏クモ 鶴駕ヲ本縣ニ進メ親シク縣勢民情ヲ臺鑑アラセ給フヤ縣民齊シク盛徳ヲ瞻仰シ遠近洽ク恩光ニ感激シ民風著シク緊張ノ實ヲ示セリ此ノ時ニ方リ更ニ體感ヲ深クシ至誠ヲ披キ縣民互ニ一心戮力苟クモ從來ノ因襲ニシテ誤レルモノアラハ速ニ之ヲ改メ階和融睦以テ人道ノ偉倫

右告諭ス

大正十二年二月七日

和歌山縣知事

●内國品使用ニ關スル件

(大正十三年十月十日) 縣學第四七七號ノ一依命通牒

內務部長ヨリ各郡市長官國幣社宮司宛

今回 皇室ニ於カセラレテハ上ハ内廷ノ御調度ヨリ下ハ省中ノ日用品ニ至ルマテ凡百ノ物資自今主トシテ内國品ヲ使用セシメ國家經濟ニ裨益スヘキ旨宮内各部當局者ニ對シ懇切ニ訓示セララルル所有之候就テハ其ノ厚キ
 思召ヲ奉體シ官國幣社以下一般神社神職ニ於テモ自今内國品ヲ使用スヘキハ勿論ニ候得共更ニ其ノ神饌ニ供スル物品ニ付テハ主トシテ其ノ地方產出ノモノヲ用ユルコトトシ特殊ナル團體ノ製作ニ係ル物品ヲ使用シ又ハ團體内ニ於ケル特ニ優良品ヲ採擇スル等專ラ其ノ地方產業ノ獎勵發達ニ資セシムル様充分御注意相成度又既ニ如上ノ主旨ヲ實行シ一般ノ參考トナルヘキ實例モ有之候ハハ詳細御回報相成候様致度候

●神官ハ葬儀ニ關係セサルノ件

殿下ノ聖旨ト違ク相悖ルノ結果ヲ見ルニ至ラム恐レテモ尙恐レ憤ミテモ尙憤ムヘキハ實ニ此ノ一事ニ在リ
 要スルニ縣民一般ハ皆其ノ心ヲ一ニシ和衷協同相互救援以テ共存共樂ノ途ヲ講スヘキコト固ヨリ當サニ然ラサルヘカラスト雖特ニ陋習打破ヲ徹底シ誤レル差別觀念ヲ脱却スルハ 聖旨 台慮ニ副ヒ奉ル急務中ノ急務ニシテ而シテ之ヲ進メ之ヲ行フノ時期方ニ此ノ時ニ存ス
 希クハ縣民齊シク思フ致シ之ヲ實現スル途ニ於テ苟クモ遺策ナカラムコトヲ

(明治十五年一月二十四日)
内務省達乙第七號

府 縣

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相違候事

但府縣社以下(神官)ハ當分従前之通

明治十五年一月二十四日

内務省達丁第一號

神宮並官國幣社神官

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相違候事

但府縣社以下(神官)ハ當分従前之通

●神職召集協議會開催ニ
關スル件

(明治二十九年十月九日)
縣訓令第三百六十號

郡 市 役 所

所轄内ノ縣社以下神社ノ神職監督ノ爲メ諮問又ハ協議等必要ノ場合ニ於テハ便宜ノ地ニ召集シ神職奉務規則ノ趣旨ニ基キ奉務上諸般ノ事務協議セシムヘシ
但召集ノトキハ日時場所等前以テ當廳ニ届出ヘシ

●本縣所屬判任官判任待遇者ノ參賀並賀表差出方心得

(大正二年十二月二十一日)
縣訓令第三七〇號

本縣所屬判任官判任待遇職員一般

本年十二月宮内省告示第三十一號ニ依リ本縣所屬職員ノ新年紀元節天長節明治節ニ於ケル參賀並賀表差出方左ノ通心得ヘシ

- 一、判任官及判任待遇職員ニシテ和歌山市及其ノ附近ノ地ニ在職スルモノハ當廳ヘ參賀スヘシ和歌山市及其附近以外ノ地ニ在職スルモノト雖參廳ニ便宜ノ地ニ滞在スルトキ亦同シ
- 一、前項ノ參賀スヘキ者旅行又ハ疾病ノ爲若ハ服務ノ都合ニ依リ參賀シ難キモノハ賀表ヲ當廳ニ差出スヘシ但忌引又ハ交通遮斷地域内ニアルトキハ之ヲ差出スニ及ハス
- 一、賀表ハ左ノ様式ニ依リ知事官房ニ宛テ送付スヘシ
- 一、當廳ヘ參賀スヘキ者ニシテ位勳功學位爵ヲ有スルモノハ別ニ官内省告示ニ依リ賀表ヲ新年紀元節天長節明治節ニアリテハ宮内省式部職ニ捧呈スヘキモノトス尤モ此ノ場合賀表ニ判任官又ハ判任待遇ノ官職ヲ記載スヘカラス

●官公職名ヲ以テスル往復文書ニ氏名ノ記載ヲ略スルノ件

(大正十五年七月一日)
縣訓令甲第四十一號

廳 中 一 般	支 廳
警 察 署	公 立 學 校
公 立 圖 書 館	公 立 幼 稚 園
水 産 試 驗 場	農 事 試 驗 場
地 方 測 候 所	商 品 陳 列 所
蠶 業 取 締 所	蠶 業 試 驗 場
仙 溪 學 園	穀 物 檢 査 所
市 役 所	町 村 役 場
官 幣 社 社 務 所	縣 社 以 下 神 社 社 務 所

當縣下當廳所屬ノ各機關並管轄内各公署役場學校等ノ間ニ於テ官公職名ヲ以テスル普通往復文書ニハ官公職名ノミヲ記シ發受雙方ノ氏名ヲ省略スルモ妨ケス又一般人ヨリ差出ス書類ノ宛名ニアリテモ同様省略セシメ差支ナキ義ト心得ヘシ
明治四十五年三月訓令第七號ハ之ヲ廢止ス

●職員忌服ニ關スル心得

(大正十五年七月一日)
縣訓令甲第四百一號

一、連名ヲ以テスルモ妨ケナシ
一、料紙ハ大廣奉書トス但美濃紙ヲ代用スルモ妨ナシ

賀表様式

横ニツ折	折目	謹ミテ 新年ヲ賀シ奉ル (紀元節) (天長節) (明治節)	折目	年月日	官位勳功爵氏名	折目
------	----	---	----	-----	---------	----

第三章 服

制

第三章 服制

●神官神職服制

(大正元年十二月七日
勅令第五十三號)

沿革 大正九年一月勅令第四號改正

朕神官神職服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神官神職服制

神官神職服制別表ノ通定ム

附 則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別裝)

神官神職服制表

衣		冠 垂掛 掛緒紙 縹	皇 族	勅任官及 同待遇	奏任官及 同待遇	判任官及 同待遇
袍	縫腋					
夏 黒綾 紋雲鶴	冬 黒綾 裏同色絹 紋雲鶴	黒羅 紋小菱	皇 族	勅任官及 同待遇	奏任官及 同待遇	判任官及 同待遇
黒綾 紋輪ナ	黒綾 裏同色平絹 紋輪ナ	同	同	同	同	同
赤綾 紋同上	赤綾 裏同色平絹 紋同上	同	同	同	同	同
緑綾 無紋	緑綾 裏同色平絹 無紋	黒羅 遠文	同	同	同	同

齊		冠						
單	袍 縫腋	冠 垂掛 掛緒紙 縹	履 淺杏	帖紙	檜扇	笏 木笏	袴 奴袴	單
白絹	白絹 裏ナシ但シ 冬ハ白平絹 ルコトヲ得	黒羅 遠文	杏敷、白綾 有紋	白檀紙	檜無地 二十五箇	櫛ノ類	紫織物 紋雲立通 裏同色絹	紅綾 紋菱 文菱
同	同	同	同	同	同	櫛	紫固織 紋藤ノ丸 裏同色平絹	紅綾 紋横菱 文菱
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	紫平絹	同
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	裏同色平絹	同上
同上	裏ナシ 同上	同上	同上	同上	同上	同上	淺黄平絹	同上

烏帽子 掛緒紙捻	狩				服			
	履 淺 沓	笏 木 笏	袴 差 袴	狩衣 親王、 王ハ小 直衣	履 淺 沓	帖紙	笏 木 笏	袴 差 袴
立	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	綾、練薄、 取、顯文紗、 平絹ノ類 裏冬ハ平絹 夏ハ生絹ヲ 附スルコト ヲ得	立	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	裏白平絹
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	綾、練薄、 顯文紗、平 絹ノ類 裏冬ハ平絹 夏ハ生絹ヲ 附スルコト ヲ得	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	顯文紗、平 絹ノ類 裏ナシ	同上	同上	同上	同上

烏帽子 掛緒紙捻	淨			
	履 淺 沓	笏 木 笏	袴 差 袴	淨衣
立	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	齊服ニ同シ	裏ナシ但シ 冬ハ白平絹 ノ裏ヲ用フ ルコトヲ得
同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	裏ナシ
同上	同上	同上	同上	同上

●神官神職服裝規則

沿革 大正三年三月内務省訓令第五號改正
(大正二年三月二十五日)
(内務省訓令第四號)

神官神職服裝規則左ノ通定ム
神官 神職

神官神職服裝規則

- 第一條 神官神職服裝ヲ分テ正裝、禮裝、常裝ノ三種トス
- 第二條 正裝トハ衣冠ヲ著甲スルヲ云フ但シ從前ヨリ慣例アルモノニ限り齊服ヲ以テ正裝ト爲スコトヲ得
- 第三條 禮裝トハ齊服ヲ着用スルヲ云フ
- 第四條 常裝トハ袴衣又ハ淨衣ヲ着用スルヲ云フ

●官國幣社以下神社幣帛供進使服制

(明治四十四年四月二十九日)
勅令 第四百三十號

沿革 大正九年一月勅令第三號改正
官國幣社以下神社幣帛供進使服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社以下神社幣帛供進使服制

官國幣社以下神社幣帛供進使服制別表ノ通定ム
市長(北海道ニ在リテハ區長)ハ奏任官ノ制ニ準シ町村長又ハ之ニ準スヘキ者ハ判任官ノ制ニ準ス其ノ代理者ニ付亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ府縣社以下神社幣帛供進使ニ限り本令ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

(別表)

官國幣社以下神社幣帛供進使服制表			
冠	勅任官	奏任官	判任官
垂掛緒紙捻	黑羅紋小菱	同上	黑羅遠文

- 五條 正裝ハ左ノ場合ニ著用スルモノトス
一 天皇、三后、皇太子、皇太孫御參拜ノトキ
二 大祭ノトキ
- 第六條 禮裝ハ中祭ノ場合ニ著用スルモノトス
- 第七條 常裝ハ小祭日拜並恒例トシテ行フ式等ノ場合ニ著用スルモノトス

附 則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●官國幣社以下神社遷座祭ニ於テ前行ノ所役ヲ務ムル者ノ服制ニ關スル件

(大正三年九月二十一日)
勅令 第九十五號

朕官國幣社以下神社遷座祭ニ於テ前行ノ所役ヲ務ムル者ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官國幣社以下神社別格官幣社等ノ遷座祭ニ於テ前行ノ所役ヲ務ムル者ノ服制ニ關シテハ官國幣社以下神社幣帛供進使服制ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

メラレタル所以モ亦實ニ茲ニ存スルモノニ有之候然ルニ現在
神職中ニハ大祭等ニ著用スヘキ正装(衣冠)ノ準備ナク或ハ中
祭ニ使用スル禮装(齋服)ヲ缺ク者モアル哉ニ聞及候斯ノ如キ
コトハ禮典執行ニ當リ所定ノ服装ヲ著用セサルコトトナリ甚
ダ遺憾ノ至リニ不堪候條大正元年勅令第五十三號ニ規定スル
服装ヲ夫々整備致候様貴部内縣社以下神社ニ示達相成度此段
及依命通牒候也

第四章 祭祀參拜

第四章 祭祀參拜

●官國幣社以下神社祭祀令

(大正三年一月二十四日勅令第十號)

沿革 大正四年一月勅令第一九九號、昭和二年一〇月同第三一號改正

朕官國幣社以下神社祭祀令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社以下神社祭祀令

第一條 官國幣社以下神社ノ祭祀ハ大祭中祭及小祭トス

第二條 左ニ掲クル祭祀ハ之ヲ大祭トス

祈年祭

新嘗祭

例祭

遷座祭

臨時奉幣祭

前項ノ外別格官幣社靖國神社ニ於テハ合祀祭ハ之ヲ大祭トス

第三條 左ニ掲クル祭祀ハ之ヲ中祭トス

歲且祭

元始祭

紀元節祭

天長節祭

明治節祭

神社ニ特別ノ由緒アル祭祀

第四條 大祭及中祭以外ノ祭祀ハ之ヲ小祭トス

第五條 新ニ小祭ヲ定ムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受

クヘシ

第六條 喪ニ在ル者ハ祭祀ニ奉仕シ又ハ參列スルコトヲ得ス

但シ除服セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 祭祀及齋戒ニ關スル規程ハ主務大臣之ヲ定ム但シ朝

鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第八條 本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム(大正三年三月

内務省令第二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

第九條 地方ノ狀況其ノ他特別ノ事情アル神社ニ於テハ當分

ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

遷座式執行ニ關スル件

(明治十年五月十日
内務省達丁第八號)

官 國 幣 社

各社本殿造修ノ都度假正遷座式執行致シ來候處自今本殿改造
又ハ内陣修繕總屋根葺替等ノ外遷座ニ及ハス供饌ノ上祝詞ヲ
以テ其由ヲ告ケ候儀ト可心得此旨相達候事
(但此場合ニ於テモ神饌等ノ入賞ハ其都度別段地方官ヘ可
稟請事)

官國幣社以下神社祭式

(大正三年三月二十七日
内務省令第四號)

沿革 昭和二年十月省令第四號改正

官國幣社以下神社祭式左ノ通定ノ大正三年四月一日ヨリ之ヲ
施行ス

官國幣社以下神社祭式

第一 官國幣社祭式

一 大 祭 式

祈年祭新嘗祭及例祭

當日早且社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次各退出

本殿遷座祭

當日早且本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下假殿所定ノ座ニ著ク

次地方長官參進隨員副從是ヨリ先手
次地方長官副從水ノ儀アリ

次修祓

次地方長官假殿所定ノ座ニ著ク

次宮司假殿ノ御扉ヲ開ク 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司殿内ニ參進シ諸員各其ノ位置ニ列立ス

次遷御 此間奏樂

其ノ儀地方長官前行宮司御靈代ヲ奉戴シ辛櫃羽車神與ヲ用フ
ルコト 諸員行障編垣ヲ奉仕シ前後陣ニ整列ス 神寶ヲ列立スル
ヲ得

行フコトヲ得

次入御 此間奏樂

是ヨリ先權宮司若クハ彌宣本殿ノ御扉ヲ開ク

次宮司御靈代ヲ神座ニ奉安ス

次宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次彌宣以下神饌ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使參進是ヨリ先手
次幣帛供進使祓所ニ著ク

次修祓 先御幣物次幣帛
供進使及隨員

次幣帛供進使所定ノ座ニ著ク

次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク幣帛供進使
隨員副フ

次宮司諸事辨備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次彌宣以下神饌ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク案ハ
便宜ノ所
ニ設ク

次宮司御幣物ヲ奉ル

次幣帛供進使祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮玉串ハ隨員
之ヲ附ス

次幣帛供進使隨員拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮玉串ハ主典
之ヲ附ス

次權宮司若クハ彌宣以下拜禮

次權宮司若クハ彌宣以下御幣物ヲ撤ス

次彌宣以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御扉ヲ閉テ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次宮司祭儀畢レル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮

次地方長官隨員拜禮

次權宮司若クハ彌宣以下拜禮

次彌宣以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御扉ヲ閉テ畢リテ所定ノ座ニ著ク 此間奏樂

次各退出

假殿遷座祭

次第本殿遷座祭ニ準ス

臨時奉幣祭

次第時ニ臨ミ之ヲ定ム

一 中 祭 式

當日早且社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次彌宣以下神饌ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若クハ彌宣以下拜禮

次彌宣以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御扉ヲ閉テ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次各退出

久大神乃常宮登鎮坐世留此乃御殿乃年經氏破損波禮多留賀故爾
今度改造里(修里)仕奉良幸登須是乎以知氏今日乃生日乃足日
爾假宮爾遷奉里坐奉留事乎平介久安久聞食世登恐美恐美母白
須

假殿遷座假殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久今日乃吉日乃吉辰爾此乃假宮爾遷奉里坐奉里奴是乎以知氏大
前爾御食御酒種種乃物乎置足波志氏獻奉留狀乎平介久安久聞
食志氏暫乃間平穩爾鎮坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座假殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久大神乃敷坐須瑞乃御殿乎改造里(修里)仕奉良幸登往志某年
某月某日爾此乃假宮爾遷奉里坐奉里志乎此乃某年某月某日爾至
里氏新宮殿志久麗志久築造里(御殿本乃如修里)仕奉里畢爾奴是
乎以知氏今日乃生日乃足日爾遷志鎮坐奉留事乎聞食志氏安介
久靜介久遷坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座本殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左

仕奉留狀乎平介久安久聞食志氏天皇命乃知食須天都日嗣乃大
御隆天地乃共無窮爾動久事無久變留事無久齋奉里幸奉里給比天
之下平介久國內安介久皇大朝廷乃大御稜威乎天輝志國輝志爾輝
加志米給比星大御國乃大御榮乎天足志國足志爾足波志米給閉登
禮代乃御食御酒種種乃物乎捧奉里氏恐美恐美母言壽奉良久登白
須

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氏豐葦原水德國乎萬
千秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉里志隨爾神日本磐余彦天皇
乃高俊嚴志伎大御德以知氏食國天乃下乎平給比調給比氏大和
國乃畝榜標原乃底都岩根爾大宮柱太敷立氏高天原爾千木高知里
氏天都日嗣乃高御座爾坐志氏肇國知食志與里皇御孫命乃御代
御代彌繼爾承繼伎傳來坐志氏彌廣爾彌遠爾立榮衣行久大元乎
恐美辱美奉里氏今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物乎大前
爾捧奉里氏今日乃言壽乃賀詞乎神壽伎壽奉良久波皇大御神乃定
給比旋給留事乃爾爾天都日嗣乃大御位波天地登共爾久志久月
日登共爾遠久彌益爾爾爾坐坐左奉皇大朝廷乃大御稜威波天乃壁
立極國乃退立限彌次次爾廣里行加平登神壽伎壽奉良久乎甘良爾

久大神乃天乃御陰日乃御陰登隱坐左奉瑞乃御殿清久美心久改造
里(修里)仕奉里畢爾爾爾依里氏今日乃吉日乃吉辰爾遷志鎮米
坐奉里奴是乎以知氏禮代乃御食御酒種種乃物乎置足波志氏獻奉
留狀乎平介久安久聞食志氏今與里往先大御心平穩爾此乃大宮
乎靜宮乃安宮登長久爾鎮坐世登恐美恐美母白須

歲旦祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久新夜年乃新夜月乃新夜日乃今日乃朝日乃豐登爾爾御賀乃
壽詞仕奉良久登豐御食豐御酒種種乃物乎獻奉留狀乎平介久安介
久聞食志氏此乃年乎良伎年乃美志年登守給比幸給比氏天皇命乃
大朝廷乎堅磐爾常磐爾爾爾爾給比天乃下平介久穀物豐介久產業
乎彌獎米爾獎米國民乎彌榮衣爾榮衣志米給比氏大御稜威乎差昇
留年乃初日乃光登共爾彌益爾爾爾加志米給閉登恐美恐美母御賀
乃壽詞仕奉良久止白須

元始祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久遠皇祖乃大御代與里天皇命乃御代御代受傳來坐世留序乃爾爾
天都日嗣高御座乃大元始乎歲乃首爾言壽奉留爲其今日乃御祭
聞食世登恐美恐美母白須

天長節祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久八十日波有禮符母今日乃生日乃足日波志母明御神空天乃下
知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛多伎美志日登天皇命乃大朝廷
乎始米氏天乃下四方乃國波青雲乃靄久極白雲乃向伏須限落都留
事無久漏留事無久言壽伎仕奉禮遠此乃大前爾御食御酒種種乃
物乎捧奉里氏稱辭竟奉良久乎平介久安久聞食志氏天皇命乃大
御壽乎手長乃大御壽登山都磐村乃如久常磐爾堅磐爾爾爾爾爾
代爾幸奉里給比大御稜威乎彌高爾彌廣爾爾爾加志米給比大御惠乎
彌遠爾彌長爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾

明治節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左
久遠皇祖乃大御代與里天皇命乃御代御代受傳來坐世留序乃爾爾
天都日嗣乃高御座爾坐志氏食國天乃下乃大御業乎慨給比皇大御
乃大御隆乎進給比志明治天皇乃高伎大御德乎尊奉里嚴志伎大
御代乎仰奉留登齋定給閉留今日乃生日乃足日爾爾爾爾爾爾爾爾
酒種種乃物乎捧奉里氏稱辭竟奉良久乎平介久安久聞奉志氏明

止白須

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美... 母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氏豐葦原水穗... 國手萬千秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉里志隨爾神日本磐余... 彦天皇乃高伎嚴志伎大御德以知氏食國天乃下手平給比調... 給比氏大和國乃敬傍櫻原乃底都岩根爾大宮柱太敷立氏高天原爾... 千木高知里氏天都日嗣乃高御座爾坐志氏肇國知食志與里皇御... 孫命乃御代爾彌繼繼爾承繼傳來坐志氏彌爾彌爾彌爾立榮衣... 行久大元手恐美奉里辱美奉里氏今日乃生日乃足日爾御食御酒... 種種乃物手大前爾捧奉里氏今日乃言壽乃賀詞手神壽岐壽奉良久... 波皇大御神乃定給比提給爾留事乃隨爾天都日嗣乃大御位波天地... 登共爾久志久日日登共爾遠久彌爾登爾爾爾坐坐皇入朝廷乃大... 御稜威波天乃壁立極國乃退立限彌爾次爾廣里行加奉神壽岐壽... 奉良久手甘良爾聞食世登恐美恐美母白須

天長節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美... 母白左久八十日日波有禮存母今日乃生日乃足日波志母明御神登

祝詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御... 禊祓給比志時爾生坐世爾禊祓戶大神等今日仕奉爾神職等賀過犯... 世留罪穢有良手手婆祓給比清給爾爾登申須事手聞食世登恐美恐美母... 白須

幣帛供進使ノ修祓ニ當リテハ神職ノ二字ヲ次ノ二字ト換フ
官人

官國幣社以下神社ニシテ宣

戰奉告ノ爲臨時大祭ヲ行ハ
ムトスル場合ノ祭式等ニ關
スル件

(大正三年八月二十七日)
內務省令第十七號

官國幣社以下神社ニシテ宣戰奉告ノ爲臨時大祭ヲ行ハムトス
ル場合ニ在リテハ其ノ祭式ハ祝詞ノ外大正三年三月內務省令
第四號中祈年祭新嘗祭ノ例ニ依リ又府縣社以下神社中神饗幣
帛料供進指定神社ニ供進スヘキ神饗幣帛料ノ金額ハ大正二年
十一月內務省令第十五號中祈年祭新嘗祭ノ例ニ依ルモノトス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

天ノ下知食須天皇命乃生出坐志貴伎愛多伎美志日登天皇命乃
大朝廷乎始米氏天之下四方之國波青雲乃霽久極白雲乃向伏須限
落都留事無久漏留留事無久言壽岐仕奉禮讓此乃大前爾御食御酒
種種乃物手捧奉里氏稱爾爾竟奉良久乎平介久安介久爾食志氏天皇
命乃大御壽乎手長乃大御壽登山都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齊奉
里嚴御代爾幸奉里給比大御稜威乎彌爾彌爾彌爾加志米給比
大御惠乎彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾
白須

明治節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美... 母白左久遠皇祖乃大御代與里天皇命乃御代爾受傳來坐爾留序... 乃隨爾天都日嗣乃高御座爾坐志氏食國天乃下手大御業乎慨給比... 皇大御國乃大御隆乎進給比志明治天皇乃高伎入御德乎尊奉里... 嚴志伎大御代手仰奉登齋定給爾爾今日乃生日乃足日爾大前爾... 御食御酒種種乃物手捧奉里氏稱爾爾竟奉良久乎平介久安介久爾食... 志氏明治乃新代乃大御蹟乎彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾... 乃大御稜威乎天乃壁立極國乃退立限彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾彌爾... 米給比親王等親王等乎始米氏天之下乃國民爾至爾爾爾爾爾爾... 八桑枝乃如久立榮衣志米給爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾

官國幣社以下神社神職齋戒

ニ關スル件

(大正三年三月二十七日)
內務省令第五號

官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件左ノ通定ム

- 第一條 祭祀ニ奉仕シ又ハ參與スル者ハ大祭中祭ニハ其ノ當
日及前日小祭ニハ其ノ當日齋戒スヘシ
- 第二條 齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ與ル等其ノ他凡テ汚穢ニ觸ル
ルコトヲ得ス

附則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

官國幣社以下神社遙拜及

大祓次第

(大正三年三月二十七日)
內務省令第四號

沿革 昭昭三年七月訓令第九號改正
本年三月內務省訓令第二號ニ依ル官國幣社以下神社遙拜及大
祓次第左ノ通定ム

官國幣社以下神社遙拜及大祓次第

第一 官國幣社遙拜及大祓次第

當日早且社頭便宜ノ所ニ式場ヲ辨備ス
新薦ヲ舗キ案ヲ立ツ

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次宮司遙拜詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若クハ權宣以下拜禮

次各退下

春秋皇靈祭遙拜詞

掛麻久母畏伎皇靈殿乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

神武天皇祭遙拜詞

掛麻久母畏伎故傍山東北陵乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

神嘗祭遙拜詞

掛麻久母畏伎伊勢乃神宮乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

大正天皇祭遙拜詞

掛麻久母畏伎多摩陵乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

大祓次第

當日社頭ノ庭上ニ祓所ヲ辨備ス

手安國登平介久知食世登事依奉里伎此久依奉里志國中爾荒振神
等乎婆神間波志爾問賜比神掃比爾掃賜比氏語問比志磐根樹根立
草乃片葉乎母語止米氏天乃磐座放知天乃八重雲乎伊頭乃千別伎
爾千別伎天降志依奉里伎此久依奉里志四方乃國中登大倭日高
見國乎安國登定奉里氏下都磐根爾宮柱太敷立氏高天原爾千木高
知里氏皇御孫命乃瑞乃御殿仕奉里氏天乃御蔭日乃御蔭登隱坐志
氏安國登平介久知食左奉國中爾成出傳奉天乃益人等賀過犯志介奉
種種乃罪事波天都罪國都罪許許太乃罪出傳奉此久出傳奉天都
宮事以知氏天都金木乎本打切里末打斷知氏千座乃置座爾置足波
志氏天都宮麻乎本刈斷知末刈切里氏八針爾取壁伎氏天都祝詞乃
太祝詞事乎宣禮此久宣良婆天都神波天乃磐門乎押披伎氏天乃八
重雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎氏聞食左奉國都神波高山乃末短山
乃末爾上坐志氏高山乃伊襄理短山乃伊襄理乎攝別介氏聞食左奉
比久聞食志氏婆罪登云布罪波在良自登科戸乃風乃天乃八重雲乎
吹放都事乃如久朝乃御霧夕乃御霧乎朝風夕風乃吹拂布事乃如久
大津邊爾居留大船乎舳解放知舳解放知氏大海原爾押放都事乃如
久彼方乃繁木質本乎燒鎌乃敏鎌以知氏打掃布事乃如久遺留罪波
在良自登祓給比清給布事乎高山乃末短山乃末與里佐久那太理爾
落多岐都速川乃瀬爾坐須瀬織津比賣登云布神大海原爾持出傳奈

正面ニ新薦ヲ舗キ案ヲ立テ祓物ヲ置キ其ノ前ニ祓詞ノ座ヲ
設ケ便宜ノ所ニ地方官神職ノ座ヲ設ケ
雨儀等ニ在リテハ便宜ノ所ニ於テ之ヲ行フ

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次地方官所定ノ座ニ著ク

次主典切麻ヲ頌ツ

次宮司祓ヲ仰ス

次禰宣祓詞ヲ宣ル

次諸員切麻ヲ執リテ祓フ

次主典大麻ヲ行フ

次主典切麻ヲ撤ス

次主典祓物ヲ執リテ河海ニ向フ

次各退下

祓物

木綿 一兩 常ノ木綿五尺ヲ以テ代フルコトヲ得

布 五尺 麻布

形式及解繩ヲ用フル例アル神社ハ之ヲ添フルコトヲ得

大祓詞

集侍禮留人等諸聞食世登宣留

高天原爾神留坐須皇親神漏岐神漏美命以知氏八百萬神等乎
神集爾爾集賜比神語里爾議賜比氏我賀皇御孫命波豐葦原水穗國

幸此久持出往奈婆荒潮乃瀨乃八百道乃八瀨道乃瀨乃八百會爾坐
須速開都比賣登云布神持加加香美氏幸此久加加香美氏婆氣吹戶
爾坐須氣吹戶主登云布神根國爾爾氣吹放知氏幸此久氣吹放知
氏婆根國爾爾坐須速佐須良比賣登云布神持佐須良比失比氏幸
此久佐須良比失比氏婆今日與里始米氏罪登云布罪波在良自登今日
乃夕日乃降乃大祓爾祓給比清給布事乎諸聞食世登宣留

神職等大川道爾持退出傳氏祓却禮登宣留

第二 府縣社以下神社遙拜及大祓次第

官國幣社遙拜及大祓次第第二準ス

縣社以下神社祭典執行規程

(大正十五年十月二十九日)
(縣訓令甲第百十八號)

縣社以下神社祭典執行規程左ノ通定ノ發布ノ日ヨリ之ヲ施行
支 市 町 村 役 所 廳
縣 社 下 社 神 社
第一條 神饌幣帛供進指定神社ニハ左ノ區分ニ依リ神饌幣帛
供進參向ス

明治四十年一月本縣訓令第二號縣社以下神社祭典執行手續ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●郷社祈年新嘗祭委任ノ件

(大正十五年七月二十七日)
(縣社兵第一三六七號依命通牒)

學務部長ヨリ那賀郡岩出町長外
十三町村長東牟婁支廳長宛

貴郡内左記郷社ノ祈年祭並ニ新嘗祭ニハ貴職ニ對シ幣帛供進使トシテ參向方委任相成候條適宜隨員ヲ附シ參向可有之此段依命通牒候也

追而祝詞及神饌幣帛料ハ事前ニ送付可致候尙祭典終了後ハ其郡度直ヲニ報告有之度又應務ノ都合ニ依リ幣帛供進使ヲ常聽ヨリ參向セシムル場合有之哉モ難計其ノ節ハ豫メ通知可致候條御了知置相成度候

記

祭典日時	神社所在地	神社名
祈年祭 新嘗祭		

附 則

- 一 縣社ノ例祭祈年祭及新嘗祭ニハ知事
- 一 郷社ノ例祭ニハ知事
- 一 郷社ノ祈年祭及新嘗祭ニハ市町村長但支廳管轄區域内ニ在リテハ支廳長
- 一 村社ノ例祭祈年祭及新嘗祭ニハ市町村長
- 前各號ノ場合ニ於テ知事、支廳長、市町村長ハ各其ノ代理者ヲ參向セシムルコトヲ得
- 郷社ノ祈年祭、新嘗祭ニ於テ必要ト認メタタルトキハ知事若クハ其ノ代理官參向スルコトアルヘシ
- 第二條 神社ノ例祭日ハ變更スルコトヲ得ス 但特別ノ事由ニヨリ變更ヲ要スルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 神社ニ於テ遷座祭ヲ執行スル場合ハ其ノ執行十日前迄ニ知事ニ届出ツヘシ
- 本殿遷座祭ニハ知事參向シ假殿遷座祭ニハ市長村長代理參向ス
- 支廳管轄區域内ニ在リテハ本殿遷座祭ニハ支廳長參向ス
- 前二項ノ場合ニ於テ知事、支廳長、市町村長ハ各其ノ代理者ヲ參向セシムルコトヲ得
- 第四條 神社ノ祭典神輿渡御ハ祭日前豫メ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

●官幣社以下神社大祭幣帛供進使警衛規程

(昭和四年四月十六日)
(縣訓令甲第十九號)

沿革 昭和八年十二月二日訓令甲第三六號改正

官幣社以下神社々務所
警 察 署

官幣社以下神社大祭幣帛供進使警衛規程左ノ通定ム

官幣社以下神社大祭幣帛供進使警衛規程

- 第一條 官幣社以下神社ノ大祭ニ幣帛供進使參向ノ場合ハ警衛ノ爲警察官吏ヲ附ス
- 第二條 前條ノ警衛ハ幣帛供進使齋館ヲ出テ齋館ニ歸ル迄ノ間トス
- 第三條 幣帛供進使社頭參進ノ場合ニ於ケル警衛警察官吏ノ位置ハ二名ノトキ前衛ハ御幣物ノ前後衛ハ幣帛供進使隨員ノ次トシ一名ノトキハ前衛ノミトス
- 修祓及祭典中ハ前衛ハ後衛ノ上位ニ着席スルモノトス
- 第四條 幣帛供進使參向ノ日時ハ當該大祭五日前迄ニ當該神社ヨリ所轄警察署長ニ通知スヘシ
- 第五條 警察署長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ警衛トシテ左ノ區分ニ從ヒ警察官吏ヲ附スヘシ

- 一、官幣社 二名
- 一、縣社以下神社 一名又ハ二名

●官幣社以下神社大祭幣帛供進使警衛規程改正ノ件通牒

(昭和八年十二月二日)
(縣社兵第五九九七號通牒)

東牟婁支廳長
各市町村長

本日縣訓令甲第三六號ヲ以テ昭和四年四月縣訓令甲第一九號官幣社以下神社大祭幣帛供進使警衛規程中一部改正相成候處右ハ官幣社縣社神社村社ノ祈年新嘗例祭ノ三大祭ニ際シ所轄警察署ニ對スル祭典ノ日時ノ通知ハ從來市町村役場ヨリ之ヲ爲シタルモノヲ將來ハ當該神社ヨリ之ヲ爲サシムルコトトセラレタルモノニ有之候條右御了知ノ上昭和九年祈年祭ヨリ實行相成候條御部内鎮座神社へ便宜ノ方法ヲ以テ御示達相成右改正趣旨ノ徹底ヲ期セラレ度此段通牒候也

●官幣社以下神社三大祭幣帛供進使警衛ニ關スル件

(昭和四年四月十八日)
(縣社兵第二四八九號依命通牒)

學務部長ヨリ關係町村長宛
今般本縣訓令ヲ以テ標記規程制定相成候就テハ之ニ基キ祈年
新嘗ノ祭典日ハ其ノ都度關係警察署長ヘ通知可相成筈ニ候ヘ
共其ノ繁ヲ省キ別紙寫ノ通り依命通牒致置條間右了知置相成
度爲念及通牒候也

(別紙)

學務部長ヨリ關係警察署長宛

昭和四年四月十六日本縣訓令甲第一九號ヲ以テ標記ニ關スル
規程制定相成候就テハ官幣社縣社郷社ニ對スル祭典日ハ別紙
ノ通ニ有之候條右御諒承ノ上其ノ當日警察官吏派遣方可然御
取計相成候様致度此段依命及通牒候也
追テ本文ノ次第二付其ノ都度通知ハ省略致候尙村社ニ對ス
ル分ハ當該市町村長ヨリ該規程ニ基キ其ノ都度通知セラル
ヘキ筈ニ付御了知相成度爲念申添候

縣内官幣社縣社郷社例祭祈年祭新嘗祭日

例祭 月日	祈年祭 月日	新嘗祭 月日	社格	社名	所在地
九、二六	二、二七	一、一三	官幣 大社	日前 國懸 神宮	和歌山市秋月
九、二三	二、二八	一、一四	同	龜山 神社	海草郡三田村
四、二五	二、二七	一、一三	同	熊野坐 神社	東牟婁郡本宮村
一〇、一一	二、二五	二、二五	同	春日 神社	大野村
四、三	二、二七	二、二五	同	加太 神社	加太町
一〇、一七	二、二七	二、二七	同	寶來山 神社	伊都郡笠田町
一〇、三	二、二七	二、二五	同	丹生 神社	九度山町
一〇、三	二、二七	二、二五	同	立 神社	有田郡箕島町
一〇、一六	二、二七	二、二五	同	藤並 神社	藤並村
一〇、九	二、二五	二、二五	同	御崎 神社	日高郡和田村
一〇、一六	二、二五	二、二五	同	小竹八幡 神社	日高郡御坊町
一〇、五	二、二九	二、二五	同	須賀 神社	上南部村
一〇、九	二、二五	二、二五	同	日 神社	西牟婁郡東富田村
四、一九	二、二三	二、二三	同	湖崎本之官 神社	串本町
一〇、一五	二、二三	二、二三	同	飛瀧 神社	東牟婁郡那智村
七、二四	二、二三	二、二三	同	相賀八幡 神社	伊都郡紀見村
一〇、一五	二、二三	二、二三	同		

學務部長ヨリ官幣社宮司縣郷社社司宛
今般本縣訓令ヲ以テ標記規程制定相成候就テハ其ノ祭典ノ都

(昭和四年四月十八日)
社兵第二四八九號通牒)

一〇、一五	二、二〇	二、二六	同	熊野速玉 神社	新宮市
一〇、一六	二、二〇	二、二六	同	丹生都比賣 神社	伊都郡天野村
七、二四	二、二三	二、二七	官幣 中社	熊野那智 神社	東牟婁郡那智村
一〇、一五	二、一九	二、二五	同	伊太祈會 神社	海草郡西山東村
一〇、一七	二、二〇	二、二六	縣社	刺田比古 神社	和歌山市片岡町
一〇、一五	二、二三	二、二六	同	木本八幡 神社	海草郡西脇野村
一〇、三	二、二三	二、二五	同	大屋都比賣 神社	同 川永村
四、一五	二、二三	二、二七	同	東照 宮	和歌山市和歌浦
一〇、一五	二、二四	二、二〇	同	八幡 神社	那智郡東野上町
一〇、一五	二、二三	二、二七	同	隅田八幡 神社	伊都郡隅田村
一〇、四	二、二三	二、二五	同	須佐 神社	有田郡保田村
七、二五	二、二三	二、二五	同	關鷄 神社	西牟婁郡田邊町
一〇、一五	二、二五	二、二五	同	八幡 神社	那智郡那智村
九、三〇	二、二六	二、二三	郷社	岩出 神社	岩出町
一〇、一五	二、二七	二、二三	同	海神 神社	池田村
一〇、一三	二、二四	二、二四	同	伊達 神社	海草郡有功村

度警察署長ヘノ通知ヲ省略スル爲メ本日關係警察署長ヘ別紙
ノ通り依命通牒致置候ヘ共尙確實ヲ期スル爲貴神社祭典執行
ノ事前ニ關係署長ヘ爲念通知相成候様致度此段及通牒候也

●府縣社以下神社ノ神饌幣

帛料供進ニ關スル件

(明治三十九年四月三十日)
勅令第九十六條)

沿革 大正十一年八月勅令第三九三號改正

朕府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム
第一條 府縣又ハ北海道地方費ハ府縣社郷社、市又ハ町村ハ
村社ノ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得
前項ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ地方
長官之ヲ指定ス
第二條 前條神饌幣帛料ノ金額ハ内務大臣之ヲ定ム
第三條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル村社ノ神饌幣帛料
ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム(明治三十九年六月内務
省令第十八號ヲ以テ同四十年一月一日ヨリ施行)

大正十一年勅令第三百九十三號附則

本令ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年四月一日ヨリ施行)但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ同條ノ施行期日ヲ定メタル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣社郷社村社ニ供進ス
ヘキ神饌幣帛料ノ金額

(大正九年八月二十六日)
(内務省令第二十四號)

明治三十九年四月勅令第九十六號第二條ニ依リ府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額左ノ通定ム

府縣社	ニ付	金拾六圓	金拾六圓	幣神饌料
郷社	ニ付	金拾貳圓	金八圓	幣神饌料
村社	ニ付	金八圓	金六圓	幣神饌料
一新嘗祭				
府縣社	ニ付	金拾六圓	金拾六圓	幣神饌料
郷社	ニ付	金拾貳圓	金八圓	幣神饌料
村社	ニ付	金八圓	金六圓	幣神饌料
府縣社	ニ付	金拾六圓	金拾六圓	幣神饌料
郷社	ニ付	金拾貳圓	金八圓	幣神饌料
村社	ニ付	金八圓	金六圓	幣神饌料

一例 祭

府縣社	ニ付	金參拾圓	金拾圓	幣神饌料
郷社	ニ付	金貳拾圓	金六圓	幣神饌料
村社	ニ付	金拾四圓	金四圓	幣神饌料

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正二年十一月内務省令第十五號ハ之ヲ廢止ス

●神饌幣帛料領收書ノ件

(昭和五年九月十日)
(縣社兵第四六〇三號通牒)

縣社郷社ノ三大祭執行ニ當リ本縣ヨリ供進スル神饌幣帛料ニ對シテハ會計整理ノ都合有之候ニ付爾今左記様式ノ領收書ヲ調製シ參向セル幣帛供進使ニ御手交相成度此段及通牒候也

領收書	幣神饌料	圓
一、金	圓也	內譯
但シ昭和	年	月
日	執行例祭(新嘗祭祈年祭)	

右領收候也

昭和 年 月 日

郡市町村大字

社格 神社名

社司 氏

名印

和歌山縣知事殿

●神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定ノ標準ニ關スル件

(明治三十九年六月二十八日)
(内務省訓第四九五號)

沿革 大正元年一月訓第一九六號改正

道廳 府縣 沖繩縣

明治三十九年四月勅令第九十六號及明治三十九年六月内務省令第二十號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ維持方法確立セルモノニ限ル儀ト心得ヘシ

第一項

- 一 延喜式内社、六國史所載社ノ創立年代之ニ準スヘキ神社
- 二 勅祭社、准勅祭社
- 三 皇室ノ御崇敬アリシ神社(行幸、御幸、行啓、奉幣祈)

七六

- 四 武門、武將、國造、國司、藩主、領主ノ崇敬アリシ神社(奉幣、祈願、社殿、造營、社領等ノ寄進アリシ類)
- 五 祭神當該地方ニ功績又ハ緣故アリシ神社
- 六 境内地百五十坪、本殿、拜殿、鳥居等完備シ五十戸以上ノ氏子若ハ崇敬者ヲ有スル神社
- 七 前記各號ノ外特別由緒アル神社

●神饌幣帛料供進神社指定ニ關スル件

(大正三年十二月二十八日)
(三發局第一二四號通牒)

前項第七號ニ依リ指定セムトスルトキハ社格社名、所在地及事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

各地方長官 巖手縣 除ク

神饌幣帛料供進神社指定ニ付建物ノ件ニ關シ巖手縣知事ヨリ照會有之右ニ對シ明治三十九年六月本省訓第四九五號第一項第六號ヲ適用スル場合社殿ニ付テハ本殿拜殿各別棟ノモノハ勿論ノ義ナルモ亦同一建物ヲ以テ本殿拜殿ニ兼用セルモノニ

七七

對シテモ同様指定シ差支無之尤モ此ノ場合ハ村社ニ在リテハ少クトモ六坪以上郷社縣社ニ在リテハ其ノ社格相當ノ建坪ヲ有シ神社ノ尊嚴ヲ保持シ得ルモノタルヲ要スヘキ旨經伺ノ上及回答候間左様御諒知相成度

●神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定

明治三十九年四月勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スヘキ神社左記ノ通指定ス

和歌山市

社格	神社名	所在地名	年月日	告示番號	沿革
縣社	刺田比古神社	片岡町	明治四〇、四、一	九	
同	東照宮	和歌浦			
村社	住吉神社	住吉町	明治四〇、四、一	九	
同	朝椋神社	鷺ノ森明神町			
同	宇治神社	新魚町			
同	鳴神	鳴神			
同	志磨神社	中之島			
同	若宮八幡神社	四ヶ郷			
同	矢ノ宮神社	關戸			

海草郡

社格	神社名	所在地名	年月日	告示番號	沿革
縣社	木ノ本八幡神社	西脇野村大字西	明治四〇、四、一	九	
同	大屋都姫神社	森川永村大字字田	明治四一、二、三〇	四〇	
郷社	加太神社	加太町大字加太	明治四〇、四、一	九	
同	伊達神社	有功村大字蘭郡			
同	藤白神社	内海町大字藤白			
同	春日神社	大野村大字大野			
村社	伊久比賣神社	楠見村大字市小	明治四〇、四、一	九	
同	大年神社	貴志村大字梅原			
同	山口神社	山口村大字谷			

社格	神社名	所在地名	年月日	告示番號	沿革
同	八幡神社	紀伊村大字府中			
同	高積神社	和佐村大字彌宜			
同	濱ノ宮神社	紀三井寺村大字			
同	伊勢部柿本神社	毛見日方町大字東山			
同	春日神社	加太町大字加太			
同	加茂神社	加茂村大字下			
同	姪子神社	塩津村			
同	四十八所神社	濱中村大字下津			
同	八幡神社	濱中村大字上			
同	立神	仁義村大字引尾			
同	粟島神社	大崎村大字方			
同	八幡神社	安原村大字相坂			
同	八幡神社	大崎村	明治四一、三、三	三七八	
同	春日神社	松江村大字六十	明治四一、二、三〇	四一〇	
同	射矢止神社	有功村大字川邊			
同	力侍神社	川永村大字川邊			
同	高皇神社	紀三井寺村大字			
同	吉禮津姫神社	三葛			
同	國主神社	西山東村大字吉			
同	射箭頭八幡神社	總川村大字多田			
同	丹生神社	西脇野村大字本直川村			

社格	神社名	所在地名	年月日	告示番號	沿革
同	三神	紀三井寺村大字			
同	八幡神社	内原			
同	字賀部神社	總川村大字且來			
同	八幡神社	田川村大字小野			
同	杉尾神社	同村大字岡田			
同	稻荷神社	巽村大字坂井			
同	國主神社	大崎村大字大崎			
同	中言神社	椒村大字椒里			
同	千種神社	黑江町			
同	天草神社	巽村大字重根			
同	名草神社	椒村大字椒濱			
同	八幡神社	安原村大字冬野	大正元、三、四	一八九	
同	熊野神社	加太町大字大川	大正三、三、九	四五	
同	熊野神社	岡崎村大字西			
同	八帳神社	岡崎村大字寺内			
同	豐海神社	内海村大字冷水			
同	丹生神社	淡村大字淡			
同	高橋神社	西和佐村大字巽			
同	日吉神社	同村大字岩橋			
同	八王子神社	濱中村小畑			
同	府守神社	巽村大字東畑	大正〇、三、三	九七	
同	府守神社	紀伊村大字府中	大正四、一〇、三	三六六	

那賀郡

社格	神社名	所在地名	指 年 月 日	告示 番 號	沿革
縣社	八幡神社	東野上町大字小幡淵村大字中番	明治四〇、四、一	七九	
縣社	八幡神社	池田村大字神領	明治四〇、四、一	七九	
同	岩出神社	岩出町大字宮			
同	八幡神社	名手村大字穴伏	明治四〇、四、一	七九	
同	丹生神社	川原村大字上丹			
同	九頭神社	龍門村荒見			
同	大年神社	調月村			
同	丹生神社	東貴志村大字北			
同	羊之宮神社	坂中村大字中井			
同	山崎神社	山崎村大字赤垣			
同	荒田神社	根來村大字森			
同	熊野神社	猿川村大字田			
同	丹生狩場神社	長谷毛原村字毛			
同	丹生神社	真國村大字真國			
同	丹生神社	宮上名手村大字名			
同	丹生神社	西貴志村大字岸			
同	八幡神社	宮下			

社格	神社名	所在地名	指 年 月 日	告示 番 號	沿革
縣社	隅田八幡神社	隅田村大字垂井	明治四〇、四、一	七九	
鄉社	寶來山神社	笠田村大字萩原	明治四〇、四、一	七九	
同	丹生神社	九度山町大字慈			
同	相賀八幡神社	紀見村大字胡麻			
同	大宮神社	四郷村大字廣口	明治四〇、四、一	七九	
同	相賀大神社	橋本町大字市脇			
同	丹生神社	富貴村大字東富			
同	天滿神社	學文路村大字南			
同	蟻通神社	馬場好村大字東澁			
同	八幡神社	田好村大字下天			
同	大谷神社	大谷村大字大谷	明治四一、二、一〇	四〇	
同	信太神社	信太村			
同	丹生神社	河根村大字河根			
同	丹生神社	見好村大字三谷			
同	城山神社	妙寺町			
同	一言主神社	山田村大字山田			
同	嚴島神社	九度山町大字上			
同	八坂神社	古澤			
同	上花蘭神社	高野村大字細川			
同	花蘭村大字中南	大正三、二、九			

社格	神社名	所在地名	指 年 月 日	告示 番 號	沿革
同	十三神社	下神野村	明治四二、一〇、三	三七八	
同	三船神社	安樂川村			
同	大國主神社	中貴志村大字國	明治四四、二、一〇	四〇	
同	産土神社	主河町			
同	八幡神社	小川村大字東福			
同	坂本神社	根來村大字西坂			
同	上小倉神社	本小倉村大字下三			
同	船津八幡神社	毛小倉村大字西			
同	丹生神社	酒貴志村大字西			
同	丹生神社	山酒貴志村大字西			
同	丹生神社	長谷毛原村大字			
同	小倉神社	長谷宮			
同	春日神社	池田村大字山三			
同	東屋御前神社	長田村大字北志	大正三、六、三	九五	
同	風市神社	野同村大字島			
同	八幡神社	同村大字上田井			
同	日吉神社	田中村大字打田	大正八、七、五	三三	
同	上岩出神社	上岩出村大字北			
同	伊都郡	大池字宮前			

有田郡

社格	神社名	所在地名	指 年 月 日	告示 番 號	沿革
同	丹生神社	見好村大字山崎	大正六、三、三	四〇三	
同	八幡神社	見好村大字教良	大正二、五、二九	四九	
同	丹生神社	富貴村大字西富	昭和七、二〇、八	五〇三	

社格	神社名	所在地名	指 年 月 日	告示 番 號	沿革
縣社	須佐神社	保田村大字千田	明治四〇、四、一	七九	
鄉社	立神	箕島町大字野	明治四〇、四、一	七九	
同	藤並神社	藤並村大字天滿			
同	顯國神社	湯淺町大字湯淺			
同	宮原神社	宮原村大字道			
同	國津神社	田栖川村大字田			
同	八幡神社	南廣村大字上中			
同	老賀八幡神社	津野村大字上津			
同	丹生神社	木津村大字出			
同	御靈神社	田殿村大字出			
同	石垣尾神社	御靈村大字庄			
同	生石神社	石垣村大字吉原			
同	三大神社	五西月村大字本			
同	稻荷神社	安謐村大字板尾			
同	系我村大字中番				

東牟婁郡

同	天満神社	田並村大字田並	明治四三、一〇、三	三七八
同	大 神社	下芳養村	明治四三、一〇、三	三七八
同	春日神社	市ノ瀬村大字後	明治四四、一、三〇	四四〇
同	三須和神社	三代三舞村		
同	豊秋津神社	下秋津村		
同	川上神社	上秋津村		
同	中山神社	佐本村		
同	蟻通神社	湊村大字湊		
同	有田神社	有田村		
同	三豊神社	豊原村		
同	八立稻神社	西ノ谷村		
同	富二橋神社	富二橋村		
同	日吉神社	湊村大字湊		
同	神樂神社	湊村大字神子濱		
同	櫛原神社	朝來村大字朝來	大正三三、二、九	四五
同	稻荷神社	秋津川村	大正三三、七、八	二四三
同	朝貴神社	潮岬村大字出雲	大正五、一、一五	一六
同	八上神社	岩田村大字岡字	大正五、三、二六	四〇
同	山 神社	中島鎮座	昭和二三、二、三	三九八
同	瀬戸鉛山村			

社格	神社名	所在地名	指 定 日	告示 沿革
郷社	飛瀧神社	那智村	明治四三、三、三	四四明治四三、三、三
村社	明神神社	明神村大字川口	明治四〇、四、一	七九
同	塩竈神社	下里村大字浦神		
同	太田神社	下太田村大字市		
同	八幡神社	勝浦町		
同	大 神社	那智村大字濱之		
同	天 神社	那智村大字天満		
同	諏訪神社	上太田村大字南		
同	八幡神社	大居		
同	蛭子神社	三輪崎村大字三		
同	七川神社	太地村大字森浦		
同	北山神社	七川村大字西川		
同	小山神社	北山村	明治四四、三、三	四四明治四五、一、一八
同	高倉神社	數屋村		
同	四村神社	小口村		
同	阿須賀神社	四 村		
同	字久井神社	新宮市	明治四四、一、三〇	四四〇
同	字久井神社	字久井村大字字久井	大正元、九、三	七

但本文ノ趣ニ據リ帶刀致候節ハ其郡度當廳並所屬警察署又ハ同分署等へ届書可差出候事

(別紙)
乙第二十一號

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以神宮並官國幣社へ相達置候趣ニ候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代之裝飾ニ模倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其郡度其筋へ可爲届出儀ト可心得此旨相達候事
但普通祭服著用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ
明治十一年三月四日

内務卿 大久保利道

●官國幣社勅使、奉幣使參向ノ節小學校生徒參拜ノ件

(明治三十五年一月十四日)
縣訓内乙第三號通牒

官國幣社へ勅使又ハ奉幣使參向ノ節其町村長始メ有志者及町村立小學校生徒等參拜スヘキ旨今般諭達候條參拜ノ場合ハ勅使奉幣使ノ行列及祭典ニ支障ナキ様便宜ノ場所ヲ定メ整列セ

●縣社以下神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀届出ノ件

(明治十一年三月十八日)
縣丙第九十九號

縣社以下 祠官掌

縣社以下神輿渡御ノ節供奉ノ者共從前甲冑又ハ大紋素袍等著用ニテ帶刀致シ候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦尤其郡度可届出儀ト可心得旨其筋經伺ノ上九年乙第三百八十六號ヲ以相達置候處今般別紙之通内務省ヨリ被相達候條尙又爲心得此旨相達候事

同	深草神社	色川村大字大野		
同	下里神社	下里村大字下里		
同	雷公神社	大島村大字檜野		
同	三里神社	三里村大字伏拜		
同	若宮神社	大島村大字大島	大正三三、二、九	四五
同	青彦神社	那智村大字井關		
同	王子神社	同村大字市野々		
同	嚴島神社	九重村大字九重		
同	釜川神社	請川村大字耳打	大正三三、三、二八	六三
同	甲明神社	九重村大字相須	大正二二、九、二	二九四

シメ又参拜時間ノ指定等相當ノ取扱ヲ爲スヘシ
本文参拜者ノ設備等警衛ノ警察官ヘ通知シ尙勅使奉幣使
参向ノ時日等前以其町村役場並小學校ヘ通知スヘシ

●産土神祈年新嘗祭日小學校 兒童参拜ニ關スル件

(大正三年二月六日)
縣學第一〇二四號依命通牒

内務部長ヨリ各都市長宛

産土神祈年新嘗兩祭日小學校兒童参拜ノ件依命左記及通牒候
記

- 一、地方産土神中指定神社ニ對シ例祭ノ外祈年祭新嘗祭兩祭
祭典ニ對シ本年ヨリ新タニ神饌幣帛料ヲ供進シ以テ祭儀
ノ莊嚴ヲ期セラルルコトト相成候處右兩祭ハ例祭ト共ニ
神社ノ大祭ナルヲ以テ小學校職員ハ兒童ヲ率ヒテ可成社
頭ニ参拜シ兩祭ノ意義其他ニ關シ講話ヲ爲ス等機宜ノ方
法ニ依リ以テ訓育ノ活資料タラシメ候様致度候
- 二、神職ニ於テハ豫メ兩祭ノ日時ヲ小學校ニ通知シ打合せノ
上参拜ノ便宜ヲ計リ學校職員ト共ニ敬神心ヲ養フコトニ
注意セシメラレ度候

●例祭日ヲ本曆ニ一定スヘ キ件

(明治三十九年十月廿六日)
縣内二第六六三七號通牒

神社ノ例祭ニ際シ古來執行シタル神輿渡御又ハ古例ノ餘興等
ハ畢竟例祭ニ伴フ古典ト認メラレ候處神社ニ依リテハ新定日
(太陽曆ニ定メタル)ニ祭式ノミヲ舉行シ例祭ニ伴フ餘興等ハ
尙陰曆ニ依リ他日之ヲ行ヒ而シテ此ノ日ヲ以テ産土神祭休業
ヲ爲ス地方有之ヤニ相聞エ候此ノ如キハ本曆ニ依テ例祭日ヲ
一定スル精神ニ背クノミナラス延テ命令ノ實行ヲ妨クル虞有
之候條右等ノ不都合無之様篤ト關係者ヘ御示達相成度候

●神社例祭ニ關スル件

(明治四十二年十一月二日)
縣内三第七三四三號通牒

内務部長ヨリ各都市長宛

- 小學校令施行細則規定休業日中神社祭日ニ關シ左記及通牒候
- 一、細則規定休業日中産土神祭日トアルハ當該神社ノ例祭日
一日ニ限ル義ハ御承知アリタシ
 - 二、右例祭日ニハ便宜職員ハ兒童ヲ率ヒテ社頭ニ参拜シ敬神
心ヲ養フト共ニ當該神社ノ由緒又ハ祭神ト地方トノ關係
ニ就キ講話スル等機宜ノ方法ニ依リ郷土史談ノ活資料タ

ラシムルコトニ注意セシメラレタシ

- 三、神社ニ於テハ豫メ祭典時刻ヲ所在小學校ニ通知シ参拜ノ
トキハ相當便宜ヲ計ルヤウ通示アリタシ

第五章
氏子及崇敬者

第五章 氏子及崇敬者

●町村分合等ニ依リ甲社ノ氏子乙社ノ氏子ト相成節甲乙社神官及氏子連署届出方

(明治十五年五月一日) 内務省達乙第二十八號

府 縣 沖繩縣 ヲ除ク

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲届出明細帳引直シノ儀當省ヘ可申出此旨相達候事
但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

●神社氏子ニ關スル件

(明治十六年十月二日) 縣布第五十七號

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合

等ニ依リ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署可届出此旨布達候事

●社寺總代人名簿備置ノ件

(明治十四年九月七日) 縣丙第二百五號

府 縣 戶長 役 場

今般甲第三百三十八號ヲ以テ社寺總代人名簿ヲ備置向後社寺ニ關スル願届等ヲ出タシ來リ候節ハ該名簿ニ照シ篤ト調査ノ上差出シ候儀ト心得ヘシ此旨相達候也

●社寺總代人選舉届出及願届書收入財産取調方

(明治十四年七月二十一日) 内務省達乙第三十三號

沿革 明治二四年五月内務省訓令第八號改正

府 縣

各管内社寺總代人之儀氏子檀家中 氏子檀家ナキ 相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戸長役場ヘ届出サセ今後該社寺ヘ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産ハ

田畑山林ノ所得ハ勿論賽物新築等 其社寺有二屬スヘキモノト其神儀同向料等一切ノ受納物ヲ云フ 官任職ニ對スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事

但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若ハ戸長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ

但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ

●社寺總代人選舉届出方ニ關スル件

(明治二十四年十二月十日) 管甲第三一號内務書記官 道 廳 府 縣

明治十四年當省乙第三十三號達中各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中 氏子檀家ナキ 相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戸長役場へ届出サセ云々トアルニ付總代人選舉ノ届ニハ別段届出ノ式ヲ定メサルカ如クナレ共該選舉届モ社寺ノ届ニ屬スルヲ以テ無論神官若クハ住職ト現在ノ總代人ト連署シ届出セシムヘキ筋ニ候條爲御心得此段及通報候也

●社寺總代人選舉ニ關スル件

(明治二十四年十二月十一日) 内務省訓令第一〇六三號 道 廳 府 縣

社寺總代人ノ儀ニ付テハ明治十四年七月當省乙第三十三號及ヒ同二十四年五月訓令第八號等訓達ノ次第モ有之處該總代人ニ關シ尙左ノ通心得ヘシ

社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲メ事務ヲ滯滞セシムル等ノ弊害アリト認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得

社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナリト雖社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干涉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

●社寺總代人選舉及事務取扱概則

(明治二十九年九月二十六日) 縣令第四十二號

沿革 明治三十三年七月縣令第五七號、三十八年一月同第四九號、大正十五年七月同第一〇四號改正

社寺總代人選舉及事務取扱概則

社寺總代人選舉及事務取扱概則

第一條 縣社以下神社ニ於テハ氏子(氏子ナキ神社ニアリテハ崇敬者)寺院ニ於テハ檀徒(檀徒ナキ寺院ニ於テハ信徒)中ヨリ總代人三名以上ヲ選舉シ支廳管轄區域内ニ在リテハ町村役場及支廳ヲ其ノ他ニ在リテハ市役所町村役場ヲ經由シ當廳ニ届出ツヘシ
前項總代人タルヲ得ヘキモノハ三十歳以上ノ男子ニシテ地租五圓以上若クハ所得稅ヲ納ムルモノトス
第二條 總代人ハ滿三ヶ年毎ニ改選スヘシ但シ臨時改選ノ外前總代人再三當選スルモ妨ケナシ
市役所町村役場及支廳ハ別紙様式ニ依ル社寺總代人名簿ヲ備付クヘシ
第三條 第一條ノ總代人ヲ得難キ社寺ハ其ノ事由ヲ具シ支廳管轄區域内ニ在リテハ町村役場及支廳ヲ其ノ他ニ在リテハ市役所町村役場ヲ經由シ當廳ノ指揮ヲ受クヘシ
市町村長及支廳長ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ當廳ニ進達スヘシ
第四條 總代人ニシテ不適當ト認ムルトキ又ハ任期中犯罪其

ノ他不正ノ行爲アルトキハ知事ハ何時ニテモ改選ヲ命スルコトヲ得

市町村長及支廳長ニ於テ總代人前項ニ該當スル者アリト認メタルトキハ直ニ其ノ旨知事ニ申報スヘシ

第五條 社寺總代人ハ該社寺ニ關スル願届へ總テ連署スヘシ

第六條 社寺總代人ハ其社寺一切ノ財産ニ關シ神職又ハ住職ト協力其保管ヲ爲スヘシ

第七條 社寺ニハ財産原簿(不動産及有價證券等基本ニ屬スルモノヲ記載ス)及金穀出納簿(基本ニ屬スル財産ヨリ生スル金穀ノ出納ヲ記載ス)ヲ設ケ其金穀ノ出納ニ對シテハ社寺用ニ歸スヘキモノト其神職又ハ住職ニ屬スルモノトヲ區別シ毎月末其月ノ收支ヲ決算シ神職又ハ住職及總代人共調印スヘシ但財産原簿ハ異動ノ都度之ヲ記載シ本文同様調印スヘシ

社寺用ニ歸スル收入ノ金穀ニシテ殘餘アルトキハ之ヲ翌月ニ繰越シ一ヶ年ノ後全ク殘餘トナルヘキモノハ之ヲ積立臨時ノ社寺用ニ充ツルノ外他ニ費消スヘカラス但曆年ヲ以テ一ヶ年度トス

前項ノ積立金穀ハ財産原簿ニ記載スヘシ

第八條 高野山各寺院ニ於テハ總代人ノ取扱フヘキ事項ハ法類ニ於テスヘシ

第九條 前條高野山各寺院ハ金剛峰寺ニ於テ之ヲ監督シ毎年一回會計帳簿ヲ検査スヘシ
 第十條 知事支廳長ハ臨時主任官吏ヲ派シ會計帳簿ノ検査ヲナサシムルコトアルヘシ
 第十一條 現在ノ社寺總代人ハ其任期中繼續スルモノトス
 總代人名簿

郡市町村大字名字番地
 (縣市町村名 寺末若クハ塔頭塔中)
 社格(宗派別) 神社名(寺院名)

氏子(檀徒)戸數	
崇敬者(信徒)員數	

總代人異動			
總代人姓名住所	就職年月日	退職年月日	摘要

備考

ハ神官住職ノ職任ナルニ據リ總代人ハ神官住職ニ干渉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

●社寺總代人改選ニ關スル件

(大正十五年九月二十八日)
 (縣社兵第一九二二號通牒)

學務部長ヨリ東牟婁支廳長、
 和歌山市長、縣下各町村長宛

縣社以下神社ノ氏子又ハ崇敬者總代寺院ノ檀徒又ハ信徒總代ノ選舉及事務取扱ニ就テハ明治二十九年九月縣令第四十二號ノ規程ニ依ルヘキハ勿論ナルモ尙左記事項注意セシメラレ度此段及通牒候也

記

- 一、總代人ハ滿三ヶ年毎ニ改選シ其ノ結果届出ヲ要スルモノナルニ往々之ヲ怠ル向アリ甚不都合ニ付改選ヲ勵行スルハ勿論該届ハ直ニ提出スルコト
- 二、改選届ハ別紙様式ニ依リ選舉ヲ行ヒタル月日ハ必ス記載シ且神社ニアリテハ神職寺院ニアリテハ住職ト新舊總代人全員連署スルヲ要ス
- 三、市町村長ニ於テ改選届ヲ受理シタルトキハ其事實及當選總代人ノ資格(地租若クハ所得稅額生年月日)等ヲ調

- 九二
- 一、本表括弧内ハ寺院ニ適用ス
 - 一、適用欄記載例左ノ如シ
 - 一、任期滿了ニ付退職
 - 一、犯罪行為アリタル爲(不適任ト認メラレタル爲)退職
 - 一、任期滿了ノ處再選

●社寺總代人ニ關スル心得

(明治二十四年十二月十六日)
 (縣訓令第三百六十七號)

郡	役	所
市	役	所
町	村	役
場		

縣社以下神社並寺院總代人ノ儀ニ付テハ本年六月當縣令第二十六號及同訓令第二百二十號訓達ノ次第モ有之候處該總代人ニ關シ尙左之通心得ベシ
 社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲メ事務ヲ澁滞セシムル等ノ弊害アリト認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ郡市長ニ於テ規定スルコトヲ得
 社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナレトモ社寺ノ實務

在シ確認シタルト奥書證印シ備付ノ社寺總代人名簿ニ登載シ其都度進達スルコト

- 四、概則第六條ニ依リ有資格者ヲ得難ク指揮ヲ受ケントスルトキハ理由ヲ詳記シタル申請書ヲ豫メ提出スルコト此申請書ニハ神職又ハ住職ト現任總代ト連署セシメ市町村長及支廳長ハ意見書ヲ添ヘ進達スルコト
- 五、總代人ノ死亡辭任等ノ場合ハ直チニ神職住職現任總代連署シ届出テ其補缺選舉ヲ行ヒタル當選届ハ別紙様式ニ準スルコト
- 六、高野山ニ於ケル各寺院ハ法類總代ヲ以テ之ニ充ツルモ其届ハ別紙様式ニ準シ資格ノ記載ヲ要セス新舊總代人ノ寺院名ヲ肩書スルコト

(様式)

氏子(崇敬者)總代改選届
 檀徒(信徒)
 郡市町村大字 社格 神社名
 宗派 寺院名
 大正 年 月 日 選舉
 右神社 氏子(崇敬者)總代改選候處左記ノ通り當選致候ニ付此段及御届候也
 大正 年 月 日

國債ニ關スル願届ヲ提出スル場合ハ當該神社寺院ノ總代人連署ノ上尙市町村役場ニ提出シ其ノ總代人ノ正當ナルコトノ證明ヲ受クヘキ旨周知アリタシ

一市町村役場ニ於テ前項神社寺院ヨリ證明方申出タルトキハ總代人名簿ニ就キ照合シ其ノ相違ナキコトヲ證明スヘキ旨示達アリタシ

●補缺選舉ニ當選シタル社寺總代人ノ任期ニ關スル件

(大正七年十二月十三日)
(縣學第五八九八號ノ二通牒)

內務部長ヨリ各郡市長宛
 筆缺選舉ニ當選シタル社寺總代人ノ任期ノ件海草郡長照會ニ對シ別紙ノ通り回答致置候條御了知相成度及通牒候也

(別紙)
 本月十日付郡第一三〇九號ヲ以テ主題ノ件御照會相成候處明治二十九年九月縣令第四十二號第二條ノ規定ハ社寺總代人改選ノ時期ヲ定メタルモノニシテ其ノ任期ヲ定メタルモノニ無之候ニ付御意見ノ通り補缺選舉ニ當選シタルモノニ在リテモ一旦當選ヲ届出タル總代人其ノ當選ヲ届出タル日ヨリ起算シ滿三年間在職セシムヘキ義ニ有之候條御了知相成度候

地租若クハ所得稅ノ別	納稅額	生年月日	町村大字名	氏名印

和歌山縣知事殿

前書ノ通り事實相違無之候也

大正 年 月 日

市町村長 氏 名 回

●神社寺院總代證明ノ件

(明治四十三年七月二十八日)
(縣內三第五〇二六號ノ一依命通牒)

內務部長ヨリ各郡市長宛
 神社寺院總代人證明之件左記御取計相成度
 一縣社以下神社並寺院佛堂ニ於テ日本銀行又ハ同支店ヘ登錄

●社寺總代人ニ關スル疑義回答

(明治二十九年十月二十七日)
(縣內三第七〇七六號二)

二十九縣令社寺總代人選舉及事務取扱第四十二號ニ關シ東牟婁郡長問合ニ對スル內務部長回答

前略 少數ノ氏子檀信徒ノ社寺ニシテ同則第一條ノ資格ニ適當スル總代人ヲ得難キ場合ハ相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル處貴官ニ於テ總代人ノ責務ヲ盡シ得ヘキモノトノ認定相付キ候者ニ限リ就職被爲致度若シ氏子檀信徒中第一條ノ資格ヲ具備スル者多數ヲ有スル社寺ナルニモ關ラズ種々ノ口實ヲ作爲シ或ハ第二條ノ場合社寺ヨリ申出ノ總代人ニシテ責務ヲ盡シ難キモノト御認定ノ節ハ改選ヲ命セラレ度要スルニ從來神官住職ノ中ニ於テハ自己懇意ノ者ニ總代ヲ依頼シ一朝紛擾出生セハ氏子檀信徒等總代ノ所爲ニ服セサル等ノ幣モ有之候ヨリ本則ヲ相定メラレタル義ニ付其邊御了知相成度 下略

●官國幣社附屬各種團體表ノ件

(昭和五年三月二十八日)
(縣社兵第一七二七號通牒)

團體名	設立年月日	團體員數	設立目的	事業	經費	資金	現在高	備考

備考

- 一、事業ハ調査期日前既ニ經過シタル最近ノ年度ニ於テ行ヒタルモノノ内主ナル事業ノ項目ノミヲ掲クヘシ
- 二、經費ハ調査期日前既ニ經過シタル最近ノ年度分ヲ掲クヘシ但シ金額ハ四捨五入シテ圓位ニ止ムヘシ
- 三、年内ニ解散シタル團體アルトキハ其ノ名稱解散ノ事由及年月日ヲ表末ニ附記スヘシ

●神社附屬講社ニ關スル件

(昭和五年十月十一日)
(縣社兵第四八二三號通牒)

學務部長ヨリ東牟婁支廳長各市町村長宛

三社附屬講社設置ニ關スル手續ハ去ル昭和三年五月内務省令第二十號ヲ以テ廢止セラレ隨テ之ニ關聯セル縣訓令又ハ通牒ハ自然消滅ノ姿ト相成居候處社務一般ノ監督上並其ノ他諸般ノ參考ニ資シ度候條既設ノモノハ勿論爾今設置ノ場合ハ左記事項報告セシメ度候條御了知ノ上此旨貴部内縣社以下各神社ヘ無洩通達有之度及通牒候也

記

一、附屬講社ヲ組織シタルトキハ其ノ目的方法等ヲ詳記シタル規約書ヲ添ヘ組織ノ日ヨリ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ但シ從來許可ヲ受ケ既ニ組織シアル向ニアリテハ此際報告ニ及ハス

一、每會計年度開始前ニ於テ收入支出豫算ヲ定メ二月末日迄ニ、及前年度收入支出決算ヲ四月末日迄ニ知事ニ報告スヘシ

(昭和五年十月七日
社兵第四八二三號通牒)

學務部長ヨリ官幣社宮司宛

神社附屬講社設置ニ關スル手續ハ昭和三年五月内務省令第二十號ヲ以テ廢止セラレ隨テ之ニ關連セル縣訓令又ハ通牒ハ自然消滅ノ姿ト相成居候處社務一般ノ監督上並其ノ他諸般參考ニ資シ度候條既設ノモノハ勿論爾今設置ノ場合ハ左記ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

一附屬講社ヲ組織シタルハ其ノ目的方法等ヲ詳記シタル規約書ヲ添ヘ組織ノ日ヨリ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ但シ從來許可ヲ受ケ既ニ組織シアル向ニアリテハ此ノ際報告ニ及ハス

一每會計年度開始前ニ於テ收入支出豫算ヲ定メ二月末日迄ニ及前年度收入支出決算ヲ四月末日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第六章 曆 守 札

第六章 曆、守札

●神宮大麻頒布ニ關ル件

(明治十一年三月二十三日)
内務省達乙第三十號

神宮大麻頒布之儀ニ付明治五年六月元教部省ヨリ相達置候趣モ候處右ハ自今地方官ノ關係ニ不及候條其受不ハ人專ラ民ノ自由ニ爲任候儀ト可心得此旨相達候事

●神宮大麻曆頒布普及方ノ件

(大正九年十一月十二日)
神司社第六六號

神社局長ヨリ北海道廳長官、府縣知事宛標記ノ件ニ關シテハ貴官御援助ノ下ニ年々好成绩ヲ擧ケ殊ニ昨年ノ如キハ大麻初穂料改正實施ノ初期ニ際シ頒布實數ニ於テ多數ノ増加ヲ見タルハ神宮崇敬上效果尠ナカラサル儀ト被存候然ルニ昨今ノ思想界憂慮スヘキモノアルヲ以テ此際神宮大麻ノ普及ヲ計ルト同時ニ神宮崇敬心ヲ作興スルコトニ一屬ノ努力ヲナスハ勿論ナルモ一面地方廳ノ御盡力ニ依リ更ニ有效ノ方法ヲ講シ度旨神宮大宮司ヨリ申出有之候ニ就テハ右御諒知ノ上可然御配慮相成度

●神宮大麻及曆頒布規程

(昭和二年七月二日)
神宮司廳達第七號

神宮大麻及曆頒布規程左ノ通改正ス

神宮大麻及曆頒布規程

- 第一條 神宮神部署長ハ大麻及曆ノ頒布ヲ道府縣神職團體ニ囑託スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ當分ノ内之ヲ地方行政廳又ハ郡市神職團體ニ囑託スルヲ妨ケス
- 第二條 大麻及曆ノ頒布ハ毎年十月十五日ニ開始シ十二月末日迄ニ之ヲ終了スヘシ但シ地方ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ翌年二月二十日迄之ヲ延長スルコトヲ得
- 第三條 神宮神部署長ハ頒布開始前頒布式ヲ行フヘシ
- 第四條 頒布ノ大麻ハ初穂料一體金拾錢トス希望者ニ對シテハ特ニ大大麻ノ授與スルコトヲ得其ノ初穂料ハ一體金五拾錢トス
- 第五條 曆ノ料金ハ本條一部金五拾錢、略本曆一部金五錢トス
- 第六條 神宮神部署長ハ頒布ノ囑託ヲ受ケタル者ヲシテ左ノ

區分ニ依リ大麻初穂料及曆料金ヲ納入セシムヘシ

- 第一期 十二月末日現在交付數ニ對スル 翌年一月末日限
大麻初穂料及曆料金ノ十分ノ五
- 第二期 頒布實數ニ對スル大麻初穂料及曆 同 二月末日限
料金ヨリ既納金ヲ控除シタル額

第七條 神宮神部署長ハ頒布ノ囑託ヲ受ケタル者ニ左ノ頒布費ヲ支給スヘシ

- 大 麻 一體 金 四 錢
- 大 大 麻 一體 金 貳 拾 錢
- 本 曆 一部 金 拾 五 錢
- 略 本 曆 一部 金 壹 錢 五 厘

附 則

本規程ハ昭和二年度頒布ヨリ之ヲ施行ス

●神宮大麻特別授與ニ關スル件

(昭和五年十一月二十二日)
縣社兵第四九〇八號通牒
學務部長ヨリ東牟婁支廳長各警察署長

各市町村長各學校長宛

神宮神部署ニ於テ本年ヨリ一般神宮崇敬心ノ向上ニ鑑ミ各官公署、諸學校ノ希望ニ限リ初穂料ヲ收納セスシテ神宮大麻ヲ授與スルコトヲ得ル途ヲ開カレ候ニ付特別授與希望ノ向ハ左記御了承ノ上申請相成度

記

- 一、神宮大麻特別授與ノ申請ハ本縣神職會長ヲ經由スルコト
- 二、特別授與大麻ノ種類ハ普通大麻トス但シ大大麻奉齋ノ目的ヲ以テ神棚其ノ他ノ設備ヲ爲シタルモノニ付テハ特大大麻ヲ授與スルコトアルヘシ
- 三、特別授與大麻ハ本年度ハ其ノ申請ニ應シ隨時授與シ次年度ヨリハ普通頒布期間内ニ授與ス
- 四、特別授與ノ大麻ノ奉齋ハ可成頒布從事者タル神職ヲシテ奉齋式ヲ行ハシメ舊大麻ハ神社境内若クハ清淨ナル場所ニ於テ鄭重ニ燒却スルコト
- 五、申請書ハ別記様式ニ依ルコト

(別記)

- 神宮大麻特別授與申請 一體
- 一、神宮大麻

今般當常廳(署、役場)ニ於テ 神宮崇敬ノ至誠ヲ效ス爲 講堂(職員室) 正廳
(會議室、事務室)ニ神棚ヲ設ケテ神宮大麻ヲ奉齋シ毎朝職

員、生徒、兒童ヲシテ奉拜セシメ度候間前記大麻毎年特別授與相成度及申請候也

年 月 日

官(公私)立何々學校長 氏 名 印
何官署長

神宮神部署長宛

●守札ニ關スル件

(明治十五年十月十八日)
內務省達乙第五十五號

神社寺院之守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成候儀ト可心得此旨相達候事
但從前屆滿ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

第七章 財產會計

第七章 財産、會計

●神社財産ニ關スル件

(明治四十一年三月二十三日)
法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル神社財産ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ神社ト稱スルハ官國幣社、府縣社以下ノ神社ヲ謂ヒ財産ト稱スルハ神社ノ不動産及寶物ニシテ登録ヲ受ケタルモノヲ謂フ

第二條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ神社財産ヲ擔保ニ供シ又ハ處分シタルトキハ之ヲ無効トス神社ノ負債ニ付亦同シ

第三條 神社財産ヲ處分スル場合ニ於テ其ノ神社ノ神職、氏子總代及崇敬者總代ハ之ヲ取得スルコトヲ得ス

第四條 神社財産タル境内地、社殿其ノ他境内地ニ在ル工作物及寶物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五條 神社ノ不動産及寶物ハ地方廳ニ於テ保管スル臺帳ニ登録ヲ受クヘシ登録ニ關スル事項及登録ト不動産登記トノ關係ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十一年七月勅令第七十六號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)
本法ハ別格官幣社靖國神社ニ之ヲ適用セス

●神社財産ノ登録ニ關スル件

(明治四十一年七月二十日)
勅令第七十七號

朕神社財産ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 神社財産ノ登録ハ神社所在地ノ地方廳ニ於テ之ヲ爲ス

第二條 神社財産ヲ登録スル臺帳ハ神社財産登録臺帳ト稱シ不動産登録臺帳及寶物登録臺帳ノ二種トス

神社財産登録臺帳ニ登録スヘキ事項ハ左ノ如シ

一 土地ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、境内地境外地ノ區別

二 社殿及工作物ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、社殿其ノ他工作物ノ種類、若ハ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號、構造、建坪又ハ間數、境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノト

ノ區別
 三寶物ハ名稱、員數、品質、形狀又ハ寸尺、若シ作者又ハ傳來明カナルトキハ其作者又ハ傳來
 四登錄ノ年月日、番號

第三條 神社ハ不動産又ハ寶物ヲ取得シタルトキハ三十日以内ニ登錄ヲ申請スヘシ但シ土地及境外地ニ在ル建物ニ付テハ申請前登錄ヲ經ルコトヲ要ス

前項但書ニ依ル登記ノ爲該期間内ニ申請ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ登記ノ了リタルトキヨリ十五日以内ニ登錄ヲ申請スヘシ

登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦前二項ニ同シ
 第四條 登記ヲ經タル不動産ノ登錄ヲ爲シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財產ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第五條 神社ハ神社財產ヲ處分シタルトキ若ハ其ノ滅失シタルトキ又ハ寶物ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ七日以内ニ登錄ノ抹消ヲ申請スヘシ

第六條 登記所ニ於テ裁判所ノ囑託ニ依リ神社財產ノ登記アル不動産ニ付民事訴訟法第七百條第一項第一號又ハ競賣法第三十三條第一項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク神社所在地ノ地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
 地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ不動産ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第二章 管 理

第三條 神社ハ不動産、寶物其ノ他貴重ノ書畫什器類ハ之ヲ臺帳ニ記載シ其ノ増減變更アリタルトキハ加除訂正スヘシ
 不動産及寶物ヲ記載スル臺帳ハ神社財產登錄臺帳ノ様式ニ準シ調製スヘシ

第四條 寶物及貴重品ハ其ノ容器又ハ適當ナル箇所ニ番號票ヲ附シ臺帳ニ其ノ合番號ヲ記入スヘシ

第五條 左ニ掲クル事項ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス
 一 不動産、寶物其ノ他貴重品ヲ買入ルルコト
 一 負擔附ノ寄附ヲ受クルコト
 一 寶物其ノ他貴重品ヲ神社外ニ持出スコト

第六條 用途指定ノ寄附金品ハ其ノ用途以外ニ使用又ハ處分スルコトヲ得ス

第三章 會 計

第七條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
 第八條 神社ハ毎會計年度收入支出豫算ヲ定メ年度開始ノ一月前迄ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル神社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長市ニ在リテハ區長

第七條 登記ヲ經タル不動産ノ登錄ヲ抹消シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財產ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ
 附 則

本令ハ明治四十一年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (明治四十一年十月一日ヨリ施行)
 神社ハ本令施行ノ際現ニ所有スル不動産及寶物ニ付本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

● 神社財產登錄及管理並會計ニ關スル件

沿革 明治四十二年四月省令第一四號、大正元年十一月同第八號、同三年十二月同第二八號、同七年六月同第一二號、同十五年六月同第三二號改正
 (明治四十一年七月二十日) (內務省令第十二號)

第一章 登 錄

第一條 地方廳ニ於テ保管スル神社財產登錄臺帳ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ
 第二條 神社ニ於テ登記ヲ經タル不動産ノ登錄ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ登記簿ノ原本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

ノ認可ヲ受クルモノトス
 豫算ノ追加更正ヲ爲サムトスルトキハ其ノ都度認可ヲ受クヘシ

第九條 收入支出ハ神職ノ職名ヲ以テ之ヲ執行スヘシ
 第十條 收入支出ハ帳簿ニ記入シ記入毎ニ神職檢印ヲ捺スヘシ

第十一條 支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十二條 神社ハ毎會計年度收入支出決算書並ニ資金明細書ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル神社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長又ハ市長市、東京市、京都府、大阪府、長官ニ報告スルモノトス

第十三條 毎年度社入金ノ百分ノ五以上ハ基本財産トシテ積立ツヘシ

第十四條 基本財産ハ其ノ神社維持ノ爲已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第十五條 基本財産ヨリ生スル收入ハ經費ニ充用スルコトヲ得
 第十六條 基本財産ハ國債登錄、公債證書其ノ他ノ確實ナル有價證券ト爲スカ又ハ中央金庫、本支金庫、郵便官署、日

(別記)

土地ノ部

郡市區町村大字字番地				
社格 何 神 社				
登録年月日 番 號	所在地	地目	段別又 ハ坪數	境内外 ノ區別
				備 考

備考

一 登録番號ハ土地ニ在リテハ地第何號、社殿其ノ他工作物ニ在
リテハ建第何號、寶物ニ在リテハ寶第何號トシ一箇年毎ニ更
新スヘシ

一 登録ヲ抹消又ハ變更シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ備考ニ
記入スヘシ以下皆同シ

(神社備置ノ臺帳ニハ地目ノ下ニ「地價」ノ一欄ヲ増設シ取得
ノ原因ヲ備考ニ記入スヘシ)

社殿其ノ他工作物ノ部

本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ土地ヲ買入又
ハ前項以外ノ銀行ニ預入若ハ其ノ他ノ管理方法ニ依ルコト
ヲ得

第十七條 有價證券ハ中央金庫、郵便官署、日本銀行、日本
興業銀行ニ保管ヲ委託スヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項以外ノ管
理方法ニ依ルコトヲ得

第十八條 従前積立タル資金ハ基本財産ニ編入スヘシ但シ特
別ノ目的ヲ以テ積立タルモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ整理
スヘシ

第十九條 古社寺保存法ニ依リ下附セラレタル修理保存費ハ
特別ニ整理スヘシ

第二十條 官國幣社ノ會計ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス本令第三章會
計ニ關スル規定ハ地方長官ノ指定シタル神社ニ之ヲ適用ス

附 則

(大正十五年六月内務省令第三二號)
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際従前ノ規定ニ依リ既ニ認可ヲ受ケタル收入支出
豫算ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

郡市區町村大字字番地
社格 何 神 社

登録年月日 番 號	種類 名稱	番 號	構造	建坪又 ハ間數	所在地、地 目、段別又 ハ坪數	境内外 ノ區別	備 考

備考

一 古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレタルトキハ
其ノ旨備考ニ記入スヘシ

(神社備置ノ臺帳ニハ取得ノ原因ヲ備考ニ記入スヘシ)(以下
同シ)

寶物ノ部

郡市區町村大字字番地
社格 何 神 社

登録年月日 番 號	名稱	員數	品質、形 狀、寸尺	傳 來 者	備 考

備考

一 古社寺保存法ニ依リ國寶ニ指定セラレタルトキハ其ノ旨備考
ニ記入スヘシ

(神社備置ノ臺帳ニハ品目ノ頭ニ「番號」ノ一欄ヲ設ケ現品ノ
合番號ヲ記入スヘシ)

●神社財産登録及管理並會計
ニ關スル細則

(明治四十一年十月一日
縣令第六十七號)

沿革 大正一五年七月縣令第一〇二號改正

神社財産登録及管理並會計ニ關スル細則左ノ通相定ム

第一章 登録及管理

第一條 神社財産ノ登録、登録ノ抹消又ハ登録事項ノ變更申
請書ハ第一號様式ニ依ルヘシ

第二條 境内建物ノ新築、改築、増築又ハ位置ノ變更ヲ爲サ
ントスルトキハ其ノ理由工事仕様書、圖面、工費支辨方法、
起工及竣工ノ期限ヲ豫定シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 臺帳ニ登録セル寶物及貴重品ハ鎖鑰アル寶庫又ハ倉
庫ニ格護スヘシ

前項ニ依リ難キ事情アルトキハ適宜格護ノ方法ヲ定メ知事
ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 臺帳ニ登錄セル寶物及貴重品ノ修理ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ具シ遲滯ナク之ヲ知事ニ申報スヘシ

第五條 臺帳ニ登錄セル寶物及貴重品ハ毎年一回曝涼シ其ノ都度現品ト臺帳トヲ照合スヘシ

前項ノ照合ニハ氏子總代又ハ崇敬者總代立會スヘシ

第六條 明治四十一年七月内務省令第十二號第五條ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ左記詳具スヘシ

第一號ニ付テハ品目、買入ノ理由、買入價格代價支辨ノ方法

第二號ニ付テハ寄附金額又ハ寄附物件ノ名稱價格、負擔條件、寄附ヲ受ケル理由

第三號ニ付テハ品目、神社外ニ持出サントスル理由並期間

第二章 會 計

第七條 毎年度ノ收支豫算ハ第二號様式ニ依リ調製スヘシ

第八條 神社ハ第三號様式ニ依リ左記帳簿ヲ調製スヘシ但シ便宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

現金出納簿 收入内譯簿 支出内譯簿

第九條 神社ニ受ケ入タル現金ハ社司又ハ社掌ノ職名ヲ以テ郵便官署又ハ銀行ニ預入スヘシ但シ少額ノモノニ付テハ適宜之レヲ保管スルコトヲ得

第十條 過誤拂トナリタル金額ハ其ノ年度内ニ於テハ之ヲ支拂タル經費ニ戻入レテ年度經過ノ後ハ基本金ニ編入スヘシ

第十一條 收入支出ニ關スル證憑書類ハ收入ト支出トヲ區別シ決算ノ際科目毎ニ分類編綴シ保存スヘシ

第十二條 收入支出決算ハ第二號様式ニ準シ資金明細書ハ第四號様式ニ依リ申報スヘシ

第十三條 撤下ノ神饌幣帛又ハ供物ハ慣例ニ依リ神職等ニ頒與スルコトヲ得

第十四條 基本財産ハ臺帳ヲ調製シ別ニ之レヲ整理スヘシ

第十五條 明治四十一年七月内務省令第十二號第十六條第二項及第十七條第二項ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ事由及管理方法ヲ具スヘシ

第十六條 購入又ハ寄附ノ物品ニシテ財産臺帳ニ登載セサルモノハ別ニ備品臺帳ヲ調製シ之レニ登載スヘシ

登載事項ニ増減變更アリタルトキハ加除訂正スヘシ

第十七條 支廳長市長ハ毎年一回以上郷社以下神社ノ會計及財産ノ檢査ヲ行フヘシ

前項ノ檢査ヲ行ヒタルトキハ二十日以内ニ其成績ヲ知事ニ申報スヘシ

第十八條 知事ハ臨時官吏ヲ派遣シ縣社以下神社ノ會計及財産ノ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第三章 補 則

第十九條 本令ニ依リ知事ニ差出スヘキ縣社以下神社ノ文書ハ總テ氏子總代又ハ崇敬者總代連署シ郡市町村長ヲ經由スヘシ

第二十條 本令ニ依リ知事ニ差出スヘキ縣社以下神社ノ文書ハ氏子總代又ハ崇敬者總代連署シ市町村長ヲ經由スヘシ但シ支廳管轄区域内ニ在リテハ町村長及支廳長ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

神社財産登錄(登錄抹消)(變更)申請書

左記表示ノ財産登錄(抹消)(變更)相成度別紙(登記簿謄本等)相添此段及申請候也

明治 年 月 日

官(國)幣(大中)社
又ハ何郡市町村大字何社格何々神社

神 職

右氏子總代又ハ崇敬者總代
三名以上連署

和歌山縣知事宛

備考

一 登錄ヲ受ケヘキ物件ハ明治四十一年七月内務省令第十二號第三條ノ臺帳様式ニ準シ成表シ之ヲ申請書ノ左記ニ表示スヘシ

第二號様式

明治何年度收支豫算表

何郡市何町村大字何字何社格何々神社名

科 目	收 入		事 由
	本年度 豫算額	前年度 豫算額	
神饌幣帛料			
氏子供進金			
賽 錢			
祈禱料其他收入			
初穂料及燈油料			

現金ノ部	區別金額	計
郵便貯金		
日本銀行預入		
何々		

有價證券ノ部	區別額面枚數額面合計	計
無記名何々公債	円	
記名何々公債		
何々債券		

不動産ノ部	區別	土地段別又建物坪數	地價(建物ハ此欄ヲ缺ク)	時價
田(畑)				

確實ト認定セラレタル證券ヲ購入セシムル儀ハ妨ケ無之候條
依命此段及通牒候也

明治四十一年七月二十九日社甲第一六號ヲ以テ神社資金ニ關
スル有價證券ノ種類及通牒置候處自今官國幣社ニ在テハ精々
日本銀行ニ於テ徵スル擔保品種類ニ限ルモノトシ府縣社以下
神社ニ在テハ右ノ外日本興業銀行、日本勸業銀行、農工銀行、
北海道拓殖銀行ニ於テ發行スル債券及地方公債等貴官ニ於テ

宅地	
山林	
家屋	
計	

右及報告候也
明治 年 月 日
右
神 職 印
氏子總代又ハ崇敬者
總代三名以上連署
和歌山縣知事宛

● 神社資金有價證券種類ニ關
スル件

(大正元年十一月十六日)
(縣社第二二五號通牒)

● 官幣社會計並庶務ニ關スル
事項樣式

沿革 昭和四年四月訓令甲第一八號改正 官幣社社務所
官幣社會計並庶務ニ關スル左記事項樣式別冊ノ通相定メ昭和
二年十月一日ヨリ施行ス

會計之部

- 一、歳入内譯簿 (第一樣式)
- 一、日計簿 (第二樣式)
- 一、物品内納簿 (第三樣式)
- 一、物品購入修繕伺簿 (第四樣式)
- 一、物品請求簿 (第五樣式)
- 一、郵便切手受拂簿 (第六樣式)
- 一、神符守札原簿 (第七樣式)
- 一、神符守札授與簿 (第八樣式)
- 一、祈禱受付簿 (第九樣式)

庶務之部

- 一、資金臺帳立本ノ部 (第十樣式)
- 一、資金内譯簿 (第十一樣式)
- 一、現金前渡概算整理簿 (第十二樣式)
- 一、現金前渡請求書 (第十三樣式)
- 一、前渡金精算書 (第十四樣式)
- 一、概算旅費請求書 (第十五樣式)
- 一、旅費精算書 (第十六樣式)
- 一、出張旅費請求書 (第十七樣式)
- 一、旅行明細書 (第十八樣式)
- 一、請求書其ノ一 (第十九樣式)
- 一、同其ノ二 (第二十樣式)
- 一、俸給仕譯書其ノ一 (第二十一樣式)
- 一、同其ノ二 (第二十二樣式)
- 一、傭人料仕譯書 (第二十三樣式)
- 一、收入稟議 (第二十四樣式)
- 一、支出稟議 (第二十五樣式)
- 一、備品臺帳樣式 (第二十六樣式)
- 一、稟議用紙 (第一樣式)
- 一、件名簿 (第二樣式)
- 一、文書臺帳 (第三樣式)
- 一、簿冊表紙 (第四樣式)

一、文書編纂索引用紙
一、出張命令簿
（別冊）
（第五樣式）
（第六樣式）

第一樣式

歲入内譯簿

年月日	摘要	豫算額	收入額	豫算殘高

第二樣式

日計簿

年月日	宮司會計主任	當日		累計		殘高
		收入高	支出高	收入高	支出高	

第三樣式

物品出納 (會計規則第三十六條ノ規定ニ依ルモノ)

備考

- 一、物品會計主任ハ會計主任ニ會議ノ上官司ノ決裁ヲ經ルモノトス
- 二、摘要欄ニハ物品ノ用途又ハ修繕ノ程度等ヲ記入スルモノトス

第五樣式

物品請求簿

年月日	物品會計主任	品名	數量	用途	請求者	摘要

備考

- 一、備品ト消耗品トハ口座ヲ別ニスルコト
- 二、用途ハ可成具體的ニ記入スルモノトス
- 三、新ニ購入ノモノハ摘要欄ニ其ノ旨並ニ價格ヲ知り得ルモノハ其ノ額ヲ記入スルモノトス
- 四、用紙ハ半紙形

第六樣式

郵便切手受拂簿

年月日	摘要	受方	費消高	差引殘高	取扱者印

一一二

名品

宮司會計主任	月日	摘要	受入高	拂出高	現在高	受領單者印	價格

備考

- 一、本出納簿ハ備品消耗品ニ大別シ更ニ各品目毎ニ別紙ニスルコト
- 二、摘要欄ニハ買入、寄附、忘失毀損、賣却、交付等ノ別ヲ揭ケ且賣却ノ場合ハ其ノ代金ヲモ記載スルコト
- 三、物品請求者ニ物品ヲ交付シタルトキハ受領印ヲ徴スルコト

第四樣式

物品購入修繕伺簿

宮司月日	品名	數量	單價	價格	摘要	會計主任	物品會計主任	加入者住所氏名

別種

月日	取扱者印	摘要	受高	拂高	殘高

第七樣式

神符守札原簿

年月日	受	拂	殘金額	摘要

第八樣式

神符守札授與簿

年月日	授與	無料授與	殘金額	摘要

一一三

款	項	目	節	金額
計				

右支拂精算書面ノ通ニ候也
 但シ 年 月 日
 出張先ニ於テ支拂ヲ被命候分
 現金前渡ヲ受ケタル者
 官幣社 神社宮司 氏 職 氏 名宛 氏 名

備考
 一、本精算書ハ出張先ニ於テ支拂ヲナシタル精算ノ場合ナリ
 二、日用品購入ニ係ル精算ハ其ノ旨並ニ何月分ナリシヤチ明記
 ノコト
 三、支拂精算ニ對スル證書書類添付ノコト
 四、用紙半紙形
 第十五様式
 概算旅費請求書 (會計規則第二十六條ノ規定ニ依ルモノ)
 一金 概算旅費請求書

内 譯
 金 等 鐵道 賃
 金 等 船 賃
 金 車 馬 賃
 金 日 當
 金 宿 泊 料
 金 急 行 料
 外 日 概算受領高
 差引金
 但シ 年 月 日
 右精算 不足金請求
 過剩金返納 候也
 官幣社 神社宮司 氏 職 氏 名 殿 氏 名

備考
 一、本精算書ニハ旅行明細書ノ添付ヲ要スルモノトス
 第十七様式
 出張旅費請求書

内 譯
 金 等 鐵道 賃
 金 等 船 賃
 金 車 馬 賃
 金 日 當
 金 宿 泊 料
 金 急 行 料
 但シ 年 月 日
 右請求候也
 出張被命 月 日ヨリ 月 日迄 日間ニ對スル
 概算旅費
 官幣社 神社宮司 氏 職 氏 名宛 氏 名
 右金額領收候也

第十六様式
 旅費精算書 (概算ヲ受ケ出張シタル場合)
 旅費精算 不足金請求
 過剩金返納 書
 一金 精算 高

一金 請求書
 内 譯
 金 等 鐵道 賃
 金 等 船 賃
 金 車 馬 賃
 金 日 當
 金 宿 泊 料
 金 急 行 料
 但シ 年 月 日
 右請求候也
 官幣社 神社宮司 氏 職 氏 名 宛 氏 名
 右金額正ニ領收候也

備考
 一、本請求書ハ普通旅費(概算旅費請求ニ非ラサル)請求ニ用ユ
 ルモノ
 二、本請求書ニハ旅行明細書添付ヲ要スルモノトス
 第十八様式

旅行明細書

旅行明細書

月	日	發地名	鐵道	海路	急行	陸路	常日	宿泊	宿泊	備考

備考
一、旅行明細書ハ別紙ニスルモノトス
二、用紙ハ半紙トス

第十九様式 請求書 (其ノ一)

請求書 (其ノ一)

納入月日	種類及名	員數	單價	小計	摘要

一一八

右請求候也

年 月 日

住所

官幣社 神社宮司 氏 名宛
右金額正ニ受領候也
年 月 日
右氏 名

備考

一、小口(仕譯書ノ添付ヲ要セサルモノ)ノ請求書ハナラヘ
タ本様式ニ據ラシムルコト
二、用紙ハ半紙形

第二十様式 請求書 (其ノ二)

請求書 (其ノ二)

納入月日	種類及名	員數	單價	小計	摘要

住所又ハ職名

現金支給額

内金

内譯

現金支給額

俸給額	支給額	引去額	差額	職名	氏名	摘要

備考
一、俸給額欄ニハ俸給月額ヲ支給額欄ニハ其ノ月支給額ヲ
記入スルモノトス
二、俸給額ニ異動ヲ生ジタルモノアルトキハ其事由及年月
日ヲ摘要欄ニ記入スルコト
三、用紙ハ半紙形

第二十二様式 俸給仕譯書 (其ノ二)

俸給仕譯書 (其ノ二)

俸給額	支給額	職名	氏名	摘要

一一九

旅行明細書

旅行明細書

月	日	發地名	鐵道	海路	急行	陸路	常日	宿泊	宿泊	備考

備考
一、旅行明細書ハ別紙ニスルモノトス
二、用紙ハ半紙トス

請求書

請求書

納入月日	種類及名	員數	單價	小計	摘要

官幣社 神社宮司 氏 名宛
右金額正ニ領收候也
年 月 日
右氏 名

仕譯書

仕譯書

納入年月日	金額	品目	員數	單價

備考
一、大口(仕譯書ノ添付ヲ要スルモノ)ノ請求ハ可成本様式ニ
據ラシムルコト
二、請求仕譯書ハ別紙ニセサルモノトス
三、用紙ハ半紙トス

第二十一様式 俸給仕譯書 (其ノ一)

俸給仕譯書 (其ノ一)

年度	年	月分俸給仕譯書	俸給支給額

第二十四様式

收入稟議

收第	號	年	月	日	收入
宮司					會計主任
左記收入可然哉					
款	項	目	節	金額	摘要
合計金					

備考
一、其日收入チ各款項目節ニ區分記入スルモノトス
二、收入ニ際シ證憑書類アルモノハ添付スルモノトス
三、目又ハ節ノ金額ニ付内譯ヲ要スルモノハ摘要欄ニ記入ス

第二十五様式

支出稟議

支第 號 年 月 日 伺 月 日 支拂

宮司	會計主任				
左記支出可然哉					
第	第	第	目	第	節
款	項	目			
一金					
但シ					

備考
一、但シ書欄ニハ支拂ノ事由並此ノ内容等記入スルコト
二、此ノ支拂ニ必要ナル一切ノ書類添付ノコト
三、用紙半紙形

備考	一、本仕譯書ハ雇員給ノ場合ニ用ユ 二、前神職ニ類スル備考參照ノコト 三、用紙半紙形
----	---

第二十三様式

備人料仕譯書

一	金	年度	年	月	分	備人料仕譯書	何某備人料	何	名	渡					
内譯															
日	給	額	支	給	額	勤	續	日	數	職	名	氏	名	摘	要

備考
一、本仕譯書ハ備人料ノ場合ニ用ユ
二、神職俸給仕譯書備考參照
三、用紙半紙形

第二十六様式

備品臺帳様式

第	號	品	目	價	格	購	入	又	ハ	拂	先	數	量	摘	要										
小	番	號	受	拂	品	目	年	月	日	品	目	細	別	價	格	購	入	又	ハ	拂	先	數	量	摘	要

備考

- 一、番號ハ品目別ニ號チ逐ヒ、小番號ハ其ノ品目細別ニ對シ號チ逐フヘシ
- 二、品目ハ總稱チ掲ケ品目細別ニハ細部ノ名稱ニ分チ記入スルモノトス假令ハ品目衣冠ノ場合其ノ細別ハ冠、袴、單、袴、袴、槍扇、帖紙等トシ又器物ニ在リテハ品目時計細別ハ柱時計、置時計等トナスカ如シ
- 三、受入ニ係ルモノハ總テ黒書シ拂出ニ係ルモノハ總テ朱書スルモノトス
- 四、備品ニシテ神社又ハ職員ニ於テ製作シタルモノト雖之チ夫々相當欄ニ登錄スルモノトス
- 五、受拂ハ總テ其ノ年月日ノ順チ逐テ記載スヘキハ當然ナルモ現在備品ニシテ同一ノモノ多數點チ有シ總括登錄ノモノニアリテハ適宜ノ方法チ以テ掲ケ摘要欄ヘ其旨詳記スヘシ
- 六、品目細別ノ欄ヘ其ノ生地、色合、構造又ハ大サ等チ表ハス場合ニハ總テ品目ノ下ニ括弧チ付シ記入シ又附帶品アルモノニアリテハ「附何々」ト品名ノ左方ニ脇書スヘシ例ヘハ袍ニ細紐、又ハ時計ニ捻ノ添フカ如シ
- 七、拂出ニ係ルモノハ品目細別ノ欄ヘ第何號(小番)登錄ノ分トシ又摘要欄ヘハ拂出處分ニ關スル事由チ明記スヘシ
- 八、臺帳ノ巻首ニハ必ス索引チ設ケ其ノ所在チ明ニシ且見出シ(總)チ附スルハ便トス

第一様式 稟議用紙

昭和年月日 稟議昭和年月日 施行書	昭和年月日 決起案	宮司 禰宣 廻議	議了	月	日	編冊
			月	日	番號	
			校	合	校	校

第二様式 件名簿

第	月	日	號	要	概	關係	箇所	完結	年月日	編輯冊番號	第
	一月日	二月日									

第三様式 文書臺帳

類目	文書	年次	冊數	編冊番號	保存期限	廢棄年月	摘要

備考
摘要欄ニハ文書格納箇所等ヲ記入スルモノトス

第四様式 簿冊表紙

昭和	第	號	(編冊番號)	冊
何々	何々	何々	(類目)	
永	久	保存		
				何々神社

第五様式 文書編纂索引

番號	月日	摘要	關係箇所

第六様式 出張命令簿

昭 和 年 月 日 稟	昭 和 年 月 日 稟	出 張 員 職 氏 名	出 張 地 名	出 張 日 數	出 張 日	歸 社 日	旅 費 概 算	精 算	旅 費	考 備	會 計 係	宮 司	出 張 員 職 氏 名	出 張 地 名	出 張 日 數	出 張 日	歸 社 日	旅 費 概 算	精 算	旅 費	考 備	會 計 係	宮 司	昭 和 年 月 日 稟	昭 和 年 月 日 稟

備考

官幣社官印出報ノ場合ハ地方長官へ許可申請年月日ヲ稟議年月
日關へ又許可年月日ヲ決裁年月日關へ記入シ置クモノトス

●官幣社會計並庶務ニ關スル諸様式制定ニ關スル件

(昭和二年九月)
(縣社兵第六三六六號ノ一通牒)

學務部長ヨリ官幣社官印宛
標記ノ件今般別途訓令相成候處左記各項御了承ノ上可然御處
理相成度依命此段及通牒候也

記
一訓令表示ノ別冊ハ去ル八月八日東牟婁郡支廳内ニ於テ開催
事務打合せノ際配布ノモノト同様ニ付添付省略ス
一訓令様式以外ニ客年十二月一日内務省令第五四號改正會計
規則ニ制定セラレアルモノハ勿論之ニ據ルヘキ義ト御承知
相成度

一様式中特ニ用紙指定ナキモノハ總テ美濃紙形(庶務部第四
様式簿冊表紙ハ此ノ限リニアラス)ニ付御了承セラレ度
一兼ニ事務打合せノ際配布セシ各様式題目ト別途訓令左記ト
御對照ノ上其ノ題目ノ上部ニ様式番號即チ「第 號様式」ト
記入相成度(尙第二十様式請求書裏面仕書最上部ニ納入

一二四

年月日ノ一欄ヲ加ヘラレ度)
一各様式ハ本年度ニ限り在來ノモノニヨリ處理セラルルモ差
支ナシ

●官幣社物品々目區分ニ關スル件

(昭和二年九月十四日)
(縣社兵第六三六六號通牒)

學務部長ヨリ官幣社官印宛
官幣社所管物品々目區分ニ關シテハ明治三十四年七月二十日
本縣訓令甲第四十四號ニ準據相成度此段依命及通牒候也
追而本文訓令ニ依ル物品々目區分紙爲參考添付致置候條
御參照相成度申添候

物品	品目	區分
電氣器 器	電鈴器、電鈴、電槽、電話器、電話交換機、 煽風機	
	御筒、同附屬品各種、タイプライター、邦文 書籍綴器	歐文
圖書	和書、圖畫、洋書、官報、新聞、雜誌、寫眞	
圖書	戸棚、置戸棚、引、長持、籠長持、本箱一本	立乃
器具		

至六、書類、書架、硝子戸書棚、書籍
本立、蓋、寫眞入箱、印肉箱、肉箱、類、
回讀入ノ類、
雜品入箱、擔桶、手桶、片手桶、水櫃、水溜
湯溜桶、洗桶、釣瓶、水漉桶、梯子、脚立、
狀箱、日本形衝、廣蓋、木製燭臺、机、印
肉貯藏器、木製及、運搬臺、置簿記臺、篋筒、
車付安樂椅子、車付二人掛安樂椅子、車付
腕掛椅子、丸形腕掛椅子、櫻製上等椅子、
櫻製中等椅子、椀製椅子、藤張椅子、藤椅
子、椅子附屬履、製圖臺、上卓、抽計及棚付
ノ、丸卓、大形角卓、中形角卓、小形角卓、
類、長卓、縮卓、伸、簿記帳立、置書籍、小形、食
器棚、茶棚、簿記帳入、烟草盆、火入、及陶
器、帽子掛、行李、靴、手提包、支、札掛、
踏臺、掛札、各課名掛札、炭計、手拭掛、茶
碗舟、盤、大、棒、裁物板、雜箱、箱、類、
圖箱、表入箱、造拜式用具、玉串臺、八足、御
眞影司具、類、額掛臺、御眞影外箱及附屬、
額、打紐、額、額、類

金屬製 器具	室内 掛飾品	用文 品具	版印 木章
石炭入箱、標本品入箱 金庫、ブリキ製箱、提十能、石炭入、燬爐 用三ツ道具、同十能、同火挾、燬爐用突棒、 置燬爐、置燬爐臺、灰落シ、唾壺、西洋形 衝、呼鐘、十能、石炭焚取、煙筒、石炭 筒、鼠捕、五徳、鐵瓶、藥罐、呼鈴、鍋、 釜、釜蓋、炮烙、金盤、火箸、傘立、打付 帽掛、火鉢、銅火鉢、手焙火鉢、鏝、鐵 製七輪	鏡、上卓掛、羅紗毛、並卓掛、綿布、日除、暖 爐前敷、額、額、綿繩子窓掛、レース窓 掛、キヤラコ窓掛、木綿窓掛、食卓掛、簾、 掛時計、置時計、八角時計、寒暖計、晴雨 計、衝立、花瓶、花臺	革文庫、張文庫、卷尺、硯箱、硯石、算盤、 水入、鉢、文鎮、陶肉池、硝子肉池、木製 肉池、ブリキ製肉池、烏口、コンパス、繪 ノ具箱、文書挾、狀差、小刀、錐、印褥、 印矩、圓引道具、膽寫盤、尺度、裁物定木、 圓定木、活字挾、複寫器、縮圖器	石材印章、象牙材印章、銅材印章、水牛材 印章、烙印、小形雜版木、美濃紙版木、半

一二五

臥具	紙形版木 毛布、寢臺、藥蒲團、夜著、五布蒲團、四布蒲團、三布蒲團、夜具覆、敷布、蚊帳枕、提灯手、丸、ランプ、ランプ釣、電燈、ランプ電燈球、瓦斯ランプ、消火具、蒸切、挾、釣燭燈、釣燭燈ホヤ、釣ランプ、角燈、差ホヤ、ランプ室、行燈、附屬、點火器、金屬製燭臺、西洋燭臺ノ類
點燈具	荷車、灌水車、自轉車、同附屬品各種、自動車、同附屬品各種
車輛	鐵槌、釘拔、玄能、鉋、ヤットコ挾、鎗廻シ、鋸、斧、鋸、木、淡、意口、掛矢、鐵テコ、錨、鎌、鉋、鋤
工具	茶盆、茶入、陶器、木製、甕、水差、木槌、油差、手水鉢、樹、靴用土搔、蠟燭入、會議番號木、風呂敷、紙打盤、紙屑入、木製竹、キルク拔、井戸車、篩、鉢各種、樽、章旗、烟筒掃除具、如露、塵取、柝、ズツク水桶、塗板、庖丁、石炭入箱、食器入箱
雜品	西ノ内紙、美濃紙、大美濃紙、礬水引美濃紙、厚、半紙、大表紙、美濃表紙、半紙表紙
消耗品白紙類	
諸帳簿	鳥ノ子紙、大奉書、大廣奉書、中奉書、小奉書、大奉書四ツ切、大廣奉書四ツ切、辭令紙、仙過紙、高野紙、書類袋、大二重狀袋、大ハトロン狀袋、中二重狀袋、中ハトロン狀袋、小二重狀袋、小ハトロン狀袋、橫入狀袋、美濃形、西洋紙、半紙形西洋紙、野入西洋紙、計算書用紙、見出紙、謄寫版原紙、雁皮紙、差札紙、製圖用紙、蠟紙、程材紙、ハトロン小包紙
印刷物	各種印刷物
野紙類	美濃形日本野紙、美濃形半截日本野紙、美濃形兩面野紙、半紙形日本野紙、半紙形半截日本野紙、半紙形兩面野紙、美濃橫野紙、半紙橫野紙、美濃文字入野紙、半紙文字入野紙、美濃形稟議野紙、半紙形稟議野紙、出動簿用紙、報告書用紙、件名簿用紙、履歷用紙、常用物品受渡簿用紙、圖書及消耗品ノ受、貯藏物品入記目錄用紙、縣有物品出納吏用紙
洋式帳簿	洋式帳簿、美濃判帳簿、半紙判帳簿、差札

仕拂命令用紙	仕拂命令用紙、集合仕拂命令用紙、通知書用紙、引出切符、官吏用縣歲出仕拂命令用紙、同集合仕拂命令用紙、縣歲出通知書用紙
雜品類	朱肉、黒肉、朱墨、墨、繪ノ具、鉛筆、筆、ペン、墨汁、インキ、木炭、石炭、薪、水油、石油、茶、煎麥、燈蕊、ランプ蕊、付木、摺付木、石鹼、西洋蠟燭、和蠟燭、石炭酸、石灰、生麩、丹琴、アラビヤゴム、ワニス、膠、藥種及藥品、アルコール、綿、布巾、雜巾、カタン糸、麻糸、綴糸、海綿、竹箒、黍箒、草箒、手箒、棕櫚箒、金巾、釘、繩、木綿、麻布、遊紙、合羽、キルク、ゴム、ペン軸、針、砥石、土瓶、茶碗、ホヤ、靴マツト、活字、細引、釣瓶、繩、竿、刷毛、團扇、柄杓、笊、竹熊手、簀、太平瓶、電池、橢圓瓶、絹線、線送電、木綿卷線、送電、ゴム卷線、送電、鉛鑑札用木札、書類綴金、囊狀入紙筒、揮發油
郵手類	拾圓郵便切手、五圓郵便切手、壹圓郵便切手、五拾錢同切手、貳拾五錢同切手、貳拾錢同切手、拾五錢同切手、八錢同切手、五錢同切手
器械	度量衡器、檢定器、臺狀用紙、美濃半截藥詞用紙
藥片	瓶入藥用阿片
木製	一號木杯、二號木杯、三號木杯、四號木杯、五號木杯、六號木杯、七號木杯、八號木杯、九號木杯、十號木杯、十一號木杯、十二號木杯
雜品類	尺、黃銅製、試驗臺、穀量計、穀量計概水量計、漏計、コンロ、權衡臺、粟入桶、尺、棚、戸棚臺、籾、精粟箱、受笊、樹代、尺、臺、黃銅製秤、黃銅製分銅、天秤、鐵槌、排粟斗臺、篩、塵取、水注用硝子ゴム管、コンパス、鐵床、フルタイ、定木、烙印、烙印箱、秤検査臺鎖、同秤、鎗廻シ、鉄、秤掛、秤臺、粟注、吸水管、机、打盤、槌、鋸、釘貫、ピンセット、置煖爐、錆落シ、瓶、鉋、鋤、コップ
消耗品雜品類	刷毛、簾各、掛革、砥石

●各社共通金請求及領收ニ關スル件

(昭和七年十一月十日)
縣社兵第四五二號

學務部長ヨリ各官幣社宮司宛
官國幣社各社共通臨時營繕費請求書及領收證並宮司、權宮司ノ赴任旅費要求書及領收證ノ提出方法ハ從來區々ニ相成リ居候處右ハ爾今總テ當廳經由ノ上提出スルコトニ神社長ヨリ示達相成候條御了知可有之此段及通牒候也

●共通金ノ剩餘返納ニ關スル件

(昭和七年十月二十七日)
縣社兵第四四九五號

學務部長ヨリ各官幣社宮司宛
各社共通金ヨリ支出シタル臨時營繕費ニシテ剩餘アリタル場合該剩餘金ノ返納方法ハ區々ニ相成リ居候ニ付之カ統一ヲ計ル爲將來ハ成ル可ク各社共通金ヲ預金セル左記銀行ノ「官國幣社各社共通金擔當者内務省神社長」ノ口座ヘ該銀行ト取引アル當座口(爲替尻)振込ノ方法ニ依リ送金セラルヘキ様神社長ヨリ通知有之候條御了知相成度此段及通牒候也

株式會社 安田銀行本店 東京市麴町區大手町一丁目

●各社共通金支出稟請書差出時期ノ件

(昭和八年六月十四日)
縣社兵第四〇三二號

學務部長ヨリ各官幣社宮司宛
官幣社建物臨時營繕ノ爲メ各社共通金ノ支出ヲ受ケントスルトキハ毎年三月三十一日迄ニ稟請書ヲ内務省ニ提出スヘキコトニ相成リ居候處神社長ニ於テ調書ノ都合有之候趣ニ付キ今後ハ翌年度ニ於テ各社共通金ノ支出ヲ受ケントスル向ハ明治三十六年十月内務省訓令第十號官國幣社營繕ニ關スル規程第七條及第十一條ニ依ル稟請書ヲ毎年十一月三十日迄ニ當廳ニ到着致候様御差出相成度此段及通牒候也

●官國幣社所有版權地所建物登録記載例

(明治二十九年九月十二日)
縣訓令第三二九九號

官國幣社所有ニ係ル版權地所建物國債證券商會社株券ノ類ニシテ向後新ニ登録シ若クハ登録ヲ變更スル場合ニ於テハ總

テ該神社ノ名ニ於テ別紙記載例ニ準據シ登録ヲ請クヘシ但本令ノ爲メ新ニ調製スヘキ印影ハ諸券面等押捺スヘキ部分ニ限界モ有之義ニ付額大ニ失セサル様調製シ其印ハ常ニ宮司ニ於テ嚴重保管シ不取締無之様注意スヘシ

(別紙)

地所建物登記願記載例

何縣何郡(市)何町(村)大字何何番地

寄附(賣渡)人 氏

年 名 回

地所(建物)寄附(賣渡)ニ付登記願

此時價格(賣買代)金何百何拾圓

此登録税金何圓何拾錢

何縣何郡(市)何町(村)大字何何番地

寄附(買)受 何神社社務所印

右神社宮司

氏 名 回

●官國幣社入金ヲ以テ皇典講究所へ寄贈セントスルモノ許可ヲ受ケル件

(明治二十九年十一月五日)
縣訓令第三八九號

官國幣社社務所
明治十五年十一月十八日付社寺局第二百二十九號ヲ以テ官國幣社入金ノ内ヨリ皇典講究所へ出金ニ關スル通知ハ廢止相成候ニ付自今社入金ノ内ヲ以テ皇典講究所へ寄贈セント欲スルトキハ當廳ノ許可ヲ受ケヘシ

●社寺財産原簿及金穀出納簿書式

(明治二十九年十二月二十三日)
縣訓令第四四二二號

郡 役 所 市 役 所
縣社 社務所 寺
以下神社々務所

本年縣令第四十二號社寺總代人選舉取扱概則第七條ニ依リ社寺へ備付スヘキ財産原簿及金穀出納簿書式左之通相定ム

(用紙美濃表紙)

(何神社)(何寺院)財産原簿

(用紙美濃紙)

一此原簿ハ明治何年何月何日ノ現在ニ依リ(神職)住職(氏子)檀家(信徒)總代立會之ヲ調査シ茲ニ登錄シ相違ナキヲ證ス但爾後ノ異動ハ其時々之ヲ加除シ各檢印スルモノトス

年 月 日

右神社寺院
社司(社掌)住職
右氏子檀家信徒總代

姓	名	名	名	名
姓	名	名	名	名
姓	名	名	名	名
姓	名	名	名	名
姓	名	名	名	名

何年何月何日 現在

130

何郡何町村大字番地小字何

一(田)(畑)(宅地)(山林)何反何畝歩

此地價 何程

此地價 何程

但(年月日)何ノ誰寄附又ハ買得)

何郡何町村大字番地

一建物 (名稱) 桁行何間 何年月日建築

何々造屋根何葺

但(社寺明細帳以外ノ建物)

一何公債證書額 面何枚 番號

有價證券ナレハ其種類金高及記號等本行ノ例ニ倣ヒ記載スヘシ

一金何圓

明治何年何月何日(郵便局)(銀行)、預ケ置(又ハ)何郡

何町村何某、貸付

一何々

異動ノ摘要

注意

一神職住職任免交代若クハ氏子檀家信徒總代改選ノ節ハ社

寺總代人選舉及事務取扱概則第七條但書同様に續調印ス

ヘシ

一表紙ニハ紙數ヲ記シ及毎紙綴目ニ割印スヘシ
(用紙半紙表紙)

金穀出納簿
郡町村
(何神社)(何寺院)

年月日	摘要	受入	支拂	殘高
明治何年 一月一日	賽錢 祭典費	一、二二	一、〇一一	二、二三
何々々	祈禱料 日供品買入料	一、〇一〇	、	、
、	公債證 社寺社掌給料	二、二二三	、	、
、	書利子	、	三、〇〇〇	、
、	寄附金	一〇、〇〇〇	、	、
、	貸付金	一、〇〇〇	五、一〇〇	、
、	利子	、	、	、
、	布施料	五、〇〇〇	、	、
一月卅一日	何々々	、	、	二、四三

注意
一月計へ社寺總代人選舉及事務取扱概則第七條ニヨリ神職又ハ住職及總代人檢印ヲナスヘシ
一年計殘餘トナルヘキモノハ之ヲ積立財産原簿ニ記入スヘシ

●縣社以下神社所有版權地所
建物登錄記載例

(明治二十九年九月十四日)
縣訓令第三三〇號

沿革 明治三十年四月訓令第二〇五號改正

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

縣社以下神社所有ニ係ル版權地所建物國債證券商會社株券ノ類ニシテ向後新ニ登錄シ若クハ登錄ヲ變更スル場合ニ於テハ總テ該神社ノ名ニ於テ別紙記載例ニ準據シ登錄ヲ請ケシムヘシ
但本令ノ爲メ新ニ調製スヘキ印影ハ諸券面等押捺スヘキ部分ニ限界モ有之義ニ付類大ニ失セサル様注意調製セシメ其印ハ常ニ神職ニ於テ嚴重保管不取締無之様爲サシメ使用ノ場合ハ氏子又ハ信徒總代立會ノ上押捺セシムヘシ

(別紙)

131

●縣社以下神社社入金ヲ以テ 皇典講究所へ寄贈ノ場合許 可ヲ受クル件

(明治二十九年十一月五日)
縣訓令第三八七號

縣社以下神社社務所

皇典講究所經費内へ社入金ノ剩餘ヲ以テ寄附セント欲スルト
キハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ
但明治二十八年九月當縣訓令第三百五十二號取消ス

(明治二十九年三月十二日)
縣訓令第九四號

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場
縣社以下神社
寺 院

社寺寶物古文書什器取締規則左記ノ通り相定ム

社寺寶物古文書什器取締規則

- 第一條 社寺ニ於テハ寶物古文書什器ノ台帳ヲ別紙書式ニヨリ本年四月三十日迄ニ三通ヲ調製シ一通ハ其社寺ニ保存シ一通ハ郡役所ニ一通ハ當廳ニ差出スヘシ
- 第二條 寶物古文書什器ニシテ屆漏ヲ發見シ若クハ新ニ購入シタルモノアルトキハ其郡度郡市役所ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ
- 第三條 寶物古文書什器盜難燒失紛失若クハ毀損ノ節ハ其事由ヲ具シ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ市ハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ
- 第四條 臨時全國寶物取調局ニ於テ鑑査狀ヲ付與セラレタル寶物古文書什器及ヒ其社寺傳來ノ重寶ハ常ニ特別ノ保管方法ヲ設ケ其補理修繕ヲ要スルトキハ其方法ヲ詳記シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

●社寺寶物古文書什器取締規則

第五條 重寶及鑑査狀アル物品ハ蓋リニ人ノ需ニ應ジ觀覽セシムヘカラス

寶物古文書什器ヲ其社寺内ニ於テ衆庶ニ縱覽セシメントスルトキハ方法ヲ定メ其郡度當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 寶物古文書ハ其社寺外ニ持出スヘカラス尤モ已ヲ得サルモノハ其事由及ヒ日數ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 寶物古文書ハ賣渡、讓渡、交換、質入ヲナスヲ得ス什器ニシテ賣渡、讓渡、交換、質入ヲナスノ必要アルトキハ其事由ヲ具シテ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 神職又ハ住職轉交代ノ節ハ神職ニ於テハ新舊神職及ヒ氏子又ハ信徒總代住職ニ於テハ新舊住職及ヒ檀徒又ハ信徒總代立會ノ上台帳ニ照合シ引繼ヲナスヘシ

神職又ハ住職轉免ノ節後任者ノ定ラサル場合ハ神職ハ氏子又ハ信徒總代住職ハ檀徒又ハ信徒總代ニ引繼ヲナシ其氏子又ハ檀徒等ハ新任ノ神職又ハ住職ニ引繼ヲナスヘシ

神職又ハ住職死亡等ノ節ハ神社ニ在テハ氏子又ハ信徒總代寺院ニ在テハ檀徒又ハ信徒總代立會ノ上台帳ニ就キ現品ト照合シ之ヲ保管シ置キ新任ノ神職又ハ住職ニ引繼ヲナスヘシ

第九條 引繼ヲ了シタルトキハ其旨台帳ニ記入シ新舊神職又ハ住職ヨリ郡市役所ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ

引繼ノ際現品ト台帳符合セス又ハ物品紛失等ヲ發見シタル

トキハ新ニ引繼ヲ受ケントスル神職又ハ住職ヨリ其旨當廳ニ届出ツヘシ

第十條 社寺ニ在テハ毎年八月寶物古文書什器ノ曝涼ヲナシ神社ハ神職及ヒ氏子又ハ信徒總代寺院ハ住職及ヒ檀徒又ハ信徒總代立會ノ上台帳ニ就キ現品ト照合シ郡市役所ニ届出ヘシ

郡市役所ハ台帳ト現品ト符合セサルノ届出ニ接シタルトキハ直ニ其手續書ヲ徵シ當廳ニ届出ツヘシ

第十一條 知事郡市長ハ何時ニテモ必要ト認ムルトキハ主務官吏ヲ派シ台帳ニ就キ現品ト照合シ又ハ引繼ニ立會ハシムルコトアルヘシ

此場合ニ在テハ派出官吏ハ其命令ノ證ヲ示スヘシ

第十二條 本縣諸令達及ヒ指令等ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ自今之ヲ廢止ス

(台帳調製書式 用紙美濃紙 十三行罫紙)

某神社 寶物古文書目錄

一 緣起書 幾 卷

撰者及筆者ノ姓名並ニ其年月ヲ記ス

一 古文書 幾 通

從來社寺ニ於テ古文書トシ傳來スル者ハ一々其目ヲ掲

ク撰者筆者並ニ傳來ノ所由ヲ記ス

- 一書畫 或ハ繪卷物 幾軸或ハ幾卷
- 一寫本 或ハ寫經 幾軸
- 一編額 幾面
- 一棟札 幾枚

年月及人名ヲ記スヘシ
 此他古書籍古諸帳武器器具樂器珠石王鏡劍等從來社寺ニ
 傳來スル貴重ナル物品ハ部類ヲ分ケ其製作人ノ氏名年代
 出所形狀等記載スヘシ且ツ金銀銅器ニ係ルモノハ其重量
 ヲモ詳細ニ記スヘシ又臨時帝國寶物取調局ノ鑑査狀アル
 モノハ其旨記入スヘシ
 右明治二十九年四月 日調製

何縣國郡町何社寺	職名	姓名	名印
同	氏子檀信	姓名	名印
	徒總代	姓名	名印
		姓名	名印

●神社寺院佛堂ノ明細帳修正 ニ關スル心得

明治四十年十二月二十四日
 (縣調令第四七七號)
 沼草 明治四十一年五月調令第三七號、大正十五年七月調令甲
 第九六號改正

- 一 郡、役、所、市、役、所
 - 一 町、村、役、場、縣社以下神社
 - 一 寺、院
- 縣社以下神社寺院佛堂ノ明細帳修正ニ係ル件左記ノ通心得ヘシ
 一 神社寺院佛堂明細帳記載事項ニシテ實地ト符合セサルコト
 ヲ發見シタルトキハ直チニ其ノ相違セル廉並ニ事由ヲ詳具
 シ訂正ヲ出願スヘシ
 一 神社寺院佛堂明細帳記載事項變更ノ許可又ハ認可ヲ受ケ之
 ヲ決定シタルトキハ遲滞ナク別紙第二號様式ニ準シ其ノ旨
 届出ヘシ
 一 前項變更ニ關シ許可又ハ認可ヲ要セサル場合亦同シ
 一 神社寺院佛堂ニシテ合併ニ依リ明細帳ニ異動ヲ生シタルモ
 ノハ合併決行後直チニ別紙第一號様式ノ明細帳ヲ添へ合併
 濟ノ旨届出ツヘシ但様式記載例ニ示スモノノ外舊明細帳ニ
 記載セサル事實ヲ記入スルコトヲ得ス

新舊神職	姓名	名印
又ハ住職	姓名	名印
氏子檀信	姓名	名印
從總代	姓名	名印

●戰利品取扱ニ關スル件

(台帳ニハ表紙ヲ付シ紙數ヲ記スヘシ)
 (大正十四年四月二十一日)
 (縣社兵第七三四號通牒)
 內務部長ヨリ各郡市長宛

今般其ノ筋ヨリ通牒ノ次第有之神社所藏ノ戰利品ニシテ寶物
 ノ取扱ヲ爲スハ特ニ寶物ノ取扱ヲ爲スノ價值アルモノニ限リ
 其ノ他ハ總テ貴重品又ハ什物トシテ取扱フヲ妥當ト被認趣ニ
 有之候條御部內神社ニシテ右主旨ニ反シテ取扱ヲ爲セル向有
 之候ハ、此際右主旨ニ則リ整備セシムル様御示達相成度此段
 及通牒候也

一 前各項ノ願届式ハ支廳管轄區域内ニ在リテハ町村役場及支
 廳其ノ他ニ在リテハ市役所町村役場ヲ經由スヘシ
 (第一號様式)
 和歌山縣何郡(市)何村(町)大字何字何
 社 格 何々 神社

- 一 祭神 何々 何々
- 一 山緒 何々(明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ)
- 一 明治何年何月何日許可ヲ受ケ左記神社ヲ合祀ス
- 一 何々神社祭神何元何郡何村大字何字何ニ鎮坐
- 一 由緒(明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ)
- 一 何々神社祭神何元何郡何村大字何字何ニ鎮坐
- 一 由緒(、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、)
- 一 社殿 桁行何間 梁行何間 何坪
- 一 拜殿 桁行何間 梁行何間 何坪
- 一 鳥居 木造(石造) 一台 開 何尺 高何尺
- 一 木造(石造) 一台 開 何尺 高何尺
- 一 (鳥居ハ主ナルモノノミヲ記載スヘシ)
- 一 何々 桁行何間 梁行何間 何坪
- 一 何々 桁行何間 梁行何間 何坪
- 一 境内 官有地(民有地維持)第何號
- 一 境内 神社 何社

何々神社

祭神 何々 何々
 山緒 何々〔明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ〕
 明治何年何月何日許可ヲ受ケ左記神社ヲ合祀ス
 何々神社 祭神何 元何郡何村大字何字何ニ鎮坐
 由緒〔明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ〕
 建物何々 桁行何間 梁行何間
 何々神社

祭神 何々

山緒 何々〔明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ〕
 本社ハ元何郡何町村大字何字何ニ鎮坐ノ村社〔社
 格〕ナリシカ明治何年何月何日許可ヲ經テ本社境
 内ニ移轉ス
 建物 何々 桁行何間 梁行何間
 一 氏子 〔崇敬〕戸數 何戸
 一 和歌山縣廳迄ノ距離 何里何町

何寺〔何縣何郡〔市〕何村〔町〕大字何〕末

何宗何派 何 寺

一本尊 何々

一 山緒 何々〔明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ〕

明治何年何月何日許可ヲ受ケ左記寺院ヲ合併ス

何寺 本尊何々 元何郡何村大字何字何所在

山林 反別 、、、、、、、、

地價

〔合併ニ依リ交付ヲ受ケタル地所ハ元何々寺〔何
々堂〕跡地何年何月交付セラルト記スヘシ〕

一 檀徒戸數〔信徒員數〕 何戸〔人〕

一 和歌山縣廳迄ノ距離 何里何町

記載方 心得

一 用紙ハ美濃十三行罫紙ヲ用ヒ楷書ヲ以テ認ムヘシ
 一 攝末社及遙拜所等ノ名義ヲ問ハス神社境外ニアルモノハ
 總テ一社トシテ別紙ニ認ムヘシ
 一 附屬佛堂ニシテ境外ニ在ルモノハ別紙ニ認ムヘシ
 一 獨立佛堂ニ係ルモノハ寺院ノ例ニ依リ作ルヘシ
 一 様式中〔ハ記載ヲ要スルモノ〕〔ハ説明ナリ

(第二號書式)

明細帳修正届

一本殿〔建物等〕 桁行何間 梁行何間

右年月日新築〔改築、〕〔取毀建縮、〕許可相成候處本日
竣成致〔決行相濟〕候間此段及御届候也

年 月 日

何々神社〔寺〕

社司〔社掌住職〕 何

某印

山緒 何々〔明細帳所載ノ記事ヲ掲クヘシ〕

一本堂 桁行何間 梁行何間 何坪

一 庫裡 桁行何間 梁行何間 何坪

一 何々 桁行何間 梁行何間 何坪

〔其ノ他建物ハ此ノ例ニ依リ列記スヘシ〕

一 境内佛堂 何字

何々堂

本尊 何々

由緒 何々

建物 何々 桁行何間 梁行何間

何々堂

本尊 何々

山緒 何々

建物 何々 桁行何間 梁行何間

一 境外所有地 本堂ハ明治何年何月許可ヲ受ケ本寺ニ合併ス

田 反別 何郡何村大字何字何番

地價 何圓

畑 反別 、、、、、、、、

地價 何圓

宅地 反別 、、、、、、、、

地價 何圓

氏子〔檀信徒總代〕 何

同 何

同 何

同 何

知事 宛

明細帳修正届

一 田 何反何畝何歩 何郡市何町村大字何字何何番地

地價 何圓

右今般購入〔賃ニ許可ヲ受ケ賣却〕シ本日所有權移轉登記相
濟ニ候間此段及御届候也

何々神社〔寺〕

社司〔社掌住職〕 何

右 氏子〔檀信徒總代〕 何

同 何

同 何

同 何

知事 宛

所有地所ノ増加ハ本届ニ依リ明細帳ニ登録スルヲ以テ出願ニ
及ハス

●明細帳ニ脱漏ノ社寺編入出願ノ節證據書添付ノ件

(明治二十七年五月十三日 縣訓令第七七八號)

郡 役 所
市 役 所
町 役 場
村 役 場
自今社寺明細帳脱漏ノ社寺境内神社又編入方出願ノ節ハ其脱漏ノ事實ヲ確認スヘキ證據書類添付セシムヘク若右證據ナキモノニ在テハ明細帳脱漏ノ社寺ト認定スルニ足ルヘキ事實取調ヘ事由ヲ詳具シ副申スヘシ

●神社寺院ノ物件處分ニ關スル件

(明治二十九年四月二日 縣内訓第一號)

官國幣社務所 郡 役 所
市 役 所 町 村 役 場
縣社以下神社社務所 寺 院
神社寺院ノ物件ヲ處分スルニハ明治十二年內務省乙第三十九號達但書ニ依リ明治六年第二百四十九號公布及同九年教部省第三號達書ニ基キ當廳ノ認可ヲ受クヘキ筋ナルニ注シ該手續

本年當省乙第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護ノ儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中、記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於ケル抵當ハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ一應當廳ヘ申出サセ調査ノ上全ク寶物古文書ニ非サル分ニ限り認可スヘシ此旨相達候事但目錄帳ニ記載セスト雖モ該社寺ニ別格ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得止儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教務省第三號達書ノ通心得ヘシ

●神社財產、建物等處分ニ關スル注意方ノ件

(明治四十三年四月二十日 縣内第三二六〇四號通牒)

郡 市 長
神社財產處分及建物ノ増新築模様等ニ關シテハ屢次通牒ノ次第モ有之規程ニ依リ違算ナク御監督相成リ居リ候儀ト存候ヘトモ頃日立木處分又ハ建物模様替等往々許可ヲ受ケス決行後手續ノ錯誤ヲ理山トシテ追認ヲ願出ツルモノ有之右ハ法規ノ秩序ヲ紊リ各種弊害ノ素因ヲ作スモノニシテ甚ダ不都合ノ次第ト被存候條將來斯ノ如キ場合ハ其事實ノ如何ニ因リ嚴重

ヲ履行セスシテ自儘ニ處分スルモノ有之甚タ不都合ニ候條自今一層注意ヲ加ヘ心得違ナキ様致スヘシ
右内訓ス
(參照)

明治六年七月十七日

太政官第二百四十九號布告

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノナリトモ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已儀有之候ハ、委詳具情ヲ以テ教部省ヘ可申立候旨布告候事

明治九年二月二日 教部省第三號達

府 縣

神社佛寺共古來所傳ノ什物等處分ノ儀明治六年七月第二百四十九號公布ノ趣有之ニ付テハ持添ノ田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相達候事

明治十二年七月十四日 內務省乙第三十九號達

府 縣

●神社財產處分等ニ關スル件

(大正元年十二月十四日 縣學第七三一五號通牒)

郡 市 長
神社財產處分等ニ關シテハ屢次通牒ノ次第モ有之候處尙監督上遺憾ノ點モ不少哉ニ被存候ニ付更ニ依命左記及通牒候
一 無償讓與ヲ受ケタル合併跡地又ハ神社所有地ハ確實ナル基本財產ニシテ輕々處分スヘカラサルハ勿論ニ有之候處不急ノ遺營又ハ單ニ資金ヲ得ルノ目的ヲ以テ之ヲ賣却セントシ甚タシキニ至テハ學校、土木又ハ區費等神社以外ノ費途ニ充當セントスルモノ有之謂レナキ不都合ノ次第ト存候就テハ今後土地ノ處分ハ神社ニ必要止ムヲ得サルモノ、外ハ可成厚狀ニ於テ保存ノ方途ヲ講セラレ監督ヲ嚴重ニシ神社ノ狀態ニ鑑ミ苟クモ輕忽ノ處分ニ涉ラシメサル様充分御注意相成度候
二 境外山林ニシテ由緒風致ノ關係ナク立木亦成長ノ見込ナキモノハ許可ヲ得テ之ヲ伐採シ植林又ハ開墾スルハ管理上適當ノ處置ナルヘキモ其ノ處分ニ誠意ヲ缺キ往々不都合ノ徒ヲ出セル例モ有之候ニ付今後之カ出願ニ對シテハ必ス精細實査ヲ遂ケ終始監督ヲ嚴ニシ其ノ植林ヲ爲スヘ

御注意相成度殊ニ神社所有地賣却ノ如キハ萬止ムヲ得サル場合ノ外容易ニ許可不相成候ニ付適宜ノ方法ヲ以テ利用ノ途ヲ講セシムル様致度依命此段重ネテ通牒候也

●神社物件處分方ニ關スル件

(大正十三年十月一日)
縣社兵第一六二六號依命通牒

內務部長ヨリ各郡市長各官幣社宮司宛
社寺古來所傳ノ什物、持添ノ田畑山林並寄附金又ハ古文書類等ノ社寺物件ヲ處分スルニハ明治三十九年四月二日內訓第一號ニ依リ當廳ノ認可ヲ受クヘキ筋ノ處右處分中ニハ賣買、讓渡、交換、拋棄等ノ行爲ノミナラス社寺ノ地所ニ地卜權又ハ抵當權ヲ設定シ若ハ貸貸借ヲナスカ如キモ包含セラルヘキモノニシテ認可ノ手續ヲ要スルモノナル處社寺ニシテ往々其趣旨ヲ誤リ地所ニ地卜權又ハ抵當權ヲ設定シ若ハ貸貸借ヲナスニ當リ該手續ヲ履行セス自儘ニ處分スルモノ有之甚不都合ナルノミナラス社寺ノ不動產ヲ處分スル場合ニ所轄官廳ノ認可ヲ經サル契約ハ法律上何等ノ效力ヲ有セサル旨ノ大審院民事判例モ有之候條自今一層注意ヲ加ヘ誤リ無之樣貴管下一般神社、寺院ヘ無漏御通達相成度此段依命及通牒候也
追テ佛堂ニ就テモ寺院ニ準シ取扱ハルヘキ義ニ付此旨御含置相成度申添候

キモノニ在テハ直ニ實施セシメ以テ不都合ナク計劃ノ遂行ヲ期セシメラレ度候
三 土地及立木處分ノ代金ハ一端之ヲ豫算ニ編入收入シ神社ニ直接ノ爲止ムヲ得サルモノ、外ハ總テ蓄積金(有價證券)トシ保管セシメラレ度從ツテ之レカ處分出願ノ際ハ追加豫算認可申請書ヲ添ヘシメ尙其處分代金ヲ以テ造營ヲ爲ス等出願ヲ要スヘキ關連事項アルトキハ各全時ニ出願セシメラレ候様御取扱相成度候
四 方今ノ實際ニ徴スルニ手續ヲ爲サス櫃ニ財產ヲ處分シ又ハ境内地並建物ノ増改修等ヲ爲スモノアリ因襲ノ弊神職ヲ置サル神社ニ多數ナルヲ見ル今後一層取締ヲ嚴ニシ改善ノ實ヲ舉ケサルヘカラス就テハ神職缺員ノ神社ニハ可成專務神職ヲ置キ其ノ止ムヲ得サルモノニ在リテハ必ス兼務者ヲ置カシメ以テ適法ノ管理者トシテ財產等諸般ノ管理ヲ充分ニセシメ貴官ニ於テ怠ラス御注意相成度候

●神社財產處分ニ關スル件

(大正二年十一月八日)
縣學第五三一八號通牒

內務部長ヨリ郡市長
神社財產處分ニ關シ客年十二月學第七三二一五號通牒ノ次第モ有之候處其ノ趣旨未タ充分ニ徹底セサルヤノ感有之候條一層

注意官幣社ニ對シテハ無之權ノ下ニ(御心得置相成度此段依命及通牒候也)

●神社寺院佛堂所有財產處分願處理ニ關スル件

(大正七年八月二十七日)
縣學第四二七二號通牒

內務部長ヨリ郡市長宛
從來神社寺院佛堂等ヨリ出願ニ係ル財產處分ニ關スル願書ヲ受理相成御進達ノ際賣却見積價格ニ對スル適否等ニ關シ何等副申無之候處右ハ處理上差支候ニ付今後右願書御進達ノ際ハ見積價格適否ニ關シ御調査ノ上御意見添申相成り度此段及通牒候也

●社寺附屬ノ不動産精密調査ノ件

(明治二十九年九月十七日)
縣訓令第三三四號

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

●社寺所屬不動産所有名義書換手續履行ノ件

(明治四十四年三月二十日)
縣內三第一五九七號通牒

各郡市長へ
社寺所屬不動産所有名義書換手續履行ニ關スル件依命左記通牒ス
一本件ニ關シテハ明治二十九年九月訓令第三百三十四號ノ通訓令相成居候處今尙其ノ手續ヲ爲サス等附ニ附セル向

モ有之哉ニ相聞ヘ其タ不都合ノ次第ト存候當該社寺ハ勿論部落有財産整理上如斯名實相伴ハサルモノニアリテハ此際嚴重御示達ノ上速ニ其ノ手續ヲ爲サシメラレタシ

●神社經費補助ニ關スル件

(大正七年六月六日)
(縣學第三〇三八號通牒)

神社經費補助ニ關シテハ明治四十四年一月學第七四〇八號及大正元年十月學第二七五三號ヲ以テ神饌幣帛料ヲ供進スル地方團體ニ於テ各其ノ神社ニ對シ必要ナル經費ノ一部ヲ補助スルコト妨ナキ旨及通牒候處公益上必要ト認ムヘキ場合地方團體ハ神饌幣帛料供進ニ關係ナク無格社ヲ除キ府縣社以下神社ニ對シ其ノ必要ナル經費一部ヲ補助スルモ差支無之候條御諒知ノ上各町村ヘ御示達相成度依命此段及通牒候也
追而右經費ノ補助ハ神社ノ經理上不得已場合ニ限ル義ニ有之徒ニ之ニノミ依頼スルカ如キコトナキ様致度尙經費ノ補助ハ其ノ之ヲ爲ス地方團體ノ區域内ニアルカ又ハ其ノ區域内ニ多數ノ氏子崇敬者ヲ有スル神社ニ限リ而シテ該神社ニ對シテハ會計收支ノ監督上特ニ注意相成候様致度爲念申添候也

【參照】

○神社經費補助ニ關スル件

(明治四十四年一月十一日)
(縣學第七四〇八號依命通牒)

內務部長ヨリ各郡市長宛

神社經費ニ關シ左記及通牒候

一 神社經費ハ其ノ氏子崇敬者ニ於テ之ヲ負擔スヘキハ勿論ナルモ不納者ニ對シ規定上強制ノ途ナキモノナレバ神社關係者ハ常ニ氏子崇敬者トノ關係ヲ親密ニシ市町村長ニ於テモ示諭誘導宜シキヲ得不納者ヲ出スカ如キコトナキヲ期シ以テ國家宗祀ノ典ヲ完カラシムル様致度シ
(一廢止)

○神社經費補助ニ關スル件

(大正元年十月二十四日)
(縣學第二七五三號通牒)

內務部長ヨリ郡市長

神社經費補助ニ關スル件任命左記及通牒候

一 神饌幣帛料ヲ供進スル公共團體ハ各其ノ神社ノ經費ヲ補助スルコト妨ケナキ義ニ付爲念此旨御示達アリタシ

(明治十六年十月三十一日)
(縣達第八二六號)

縣社以下社寺附屬ノ地所建物其他物品其社寺ノ爲メ抵當トナシ金穀ヲ借入若クハ賣却ニ付願書差出候節ハ該地所建物等別段ノ由緒有之哉否詳細取調可及副申此旨相達候事

●會計法適用神社指定ノ件

明治四十一年七月內務省令第十二號附則ニ依リ左記神社ヲ會計法適用神社ニ指定ス

和歌山市

社格	神社名	所在地名	指 定 年 月 日	告示 番 號	沿革
縣社	刺田比古神社	片岡町	大正三、二、九	四	
同	東照宮	和歌浦			
村社	宇治神社	新魚町			
同	朝棕神社	鷺ノ森明神町			
同	住吉神社	住吉町			
同	水上神社	小野町			
同	吹上神社	鳴神			
同	志磨神社	中之島			
同	若宮八幡神社	四ヶ郷			

二 町村制ニ依リ費官ニ於テ前項ノ補助許可ヲ與ヘラレントスル場合ハ相互ノ財政狀態ニ考ヘ其ノ程度條件等充分御注意相成候様致シタシ
三 市制郡制ニ依リ第一項補助ノ許可ヲ請ハントスルトキハ其ノ理由補助條件及相互ノ財政狀態ヲ詳具セラレタシ
四 (削除)

●社寺附屬地建物其他物品抵當ニ關スル件

(明治十二年十一月十八日)
(縣乙第二四八號)

各社寺ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入等ノ義ニ付明治十年第四十三號公布之趣モ有之處今般其筋ヨリ速ノ次第モ有之自今社寺附屬ノ地所建物其他物品等不得止義ニテ抵當ト爲サントスルトキハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ常廳ヘ申出認可ヲ請フヘシ此旨布達候事

●社寺所屬ノ財産ヲ抵當トシ金穀借入等ニ關スル副申ノ件

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
村社	村社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
壺野神社	十五社神社	神明神社	矢ノ宮神社	宇須井原神社	住吉神社	天満神社	玉津島神社	同	東鍛冶屋町	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四ヶ郷	今福	關戸	宇須	西濱	和歌浦	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大正三、二、六	大正五、三、二、六	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五	大正八、七、二、五
四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
縣社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
木本八幡神社	大屋郡姫神社	川永村大字宇田	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
西脇野村大字西	川永村大字宇田	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

海草郡

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
村社	村社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
春日神社	八幡神社	射箭頭八幡神社	大年神社	春日神社	伊久比賣神社	射矢止神社	丹生神社	八幡神社	山口神社	力待神社	高積神社	高橋神社	丹生神社	三神神社	高皇神社	濱ノ宮神社	豊海神社	熊野神社	熊野神社	吉野津姫神社	同	同
大野村大字大野	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
縣社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
伊勢部持本神社	千種神社	杉尾神社	立神神社	加茂神社	蛙子神社	栗島神社	八幡神社	稻荷神社	八幡神社	四十八所神社	日吉神社	國主神社	天主神社	同	同	同	同	同	同	同	同	同
日方町	巽村大字重根	同村大字坂井	仁義村大字引尾	加茂村大字下	壺津村	大崎村大字方	同村大字黒田	同村大字上	同村大字下	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑	同村大字小畑
大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

那賀郡

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
縣社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社
東野上村大字小	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九	大正三、二、九
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上岩出神社	日吉神社	八幡神社	風市神社	東屋御前神社	丹生神社	熊野神社	丹生神社	丹生狩場神社	丹生神社	十三神社	八幡神社	大國主神社	八幡神社	丹生神社	大年神社	三船神社	九頭神社	丹生神社	上名山手村大字名	
大正八、七、五				大正三、六、三																
三三				一九																

同	同
九頭神社	生津村大字麻生津中宮原

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
丹生神社	蟻通神社	丹生神社	天滿神社	丹生神社	一言主神社	信太神社	城山神社	大宮神社	大谷神社	嚴島神社	八幡神社	相賀八幡神社	丹生神社	寶來山神社	隅田八幡神社	隅田村大字垂井	笠田村大字萩原	九度山町大字慈	紀見院	紀見村大字胡麻	天野村大字下天

有田郡

同	同	同	同	同	同	同	同
丹生神社	八幡神社	丹生神社	相賀大神社	上花園神社	八坂神社	花園村大字中南	高野村大字細川

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
丹生神社	八幡神社	八幡神社	國津神社	稻荷神社	宮原神社	顯國神社	箕島神社	立神社	藤並神社	須佐神社	保田村大字千田	箕島町大字野	箕島町大字天満	箕島町大字湯淺	湯淺町大字湯淺	宮原村大字道	糸我村大字中番	田橋川村大字田	南廣村大字上中	野野村大字前田	津本村大字前田	田殿村大字出	

日高郡

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
杉尾神社	城山神社	三大神社	生石神社	八幡神社	岩倉神社	生石神社	丹生神社	石垣尾神社	御靈神社	石垣村大字吉原	鳥屋城村大字小	川西月村大字本	堂	五西月村大字本	川	岩倉村大字栗生	八幡村大字清水	同村大字楠本	安謐村大字板尾	石垣村大字修理	石垣村大字中坪			

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八幡神社	字佐八幡神社	王子神社	王子神社	須賀神社	御崎神社	小竹八幡神社	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
有田神社	天満神社	八幡神社	春日神社	王子神社	三須和神社	稻荷神社	榎原神社	八幡神社	熊野三所神社	住吉神社	春日神社	日吉神社	岩田神社	大瀧神社	豊秋津神社	川上神社	大立神社	八立神社	神樂神社	日吉神社	鎌通神社	
有田村大字有田	上田並村大字田並	和深村大字和深	江住村大字江住	見住村大字見住	周舞村大字周舞	三舞村大字三舞	東富田村大字東富田	朝來村大字朝來	西富田村	潮戸鉛山村	鮎川村	市ノ瀬村	生馬村	岩田村大字岩田	新庄村	下秋津村	上秋津村	下芳養村	西ノ谷村	湊村大字神子濱	湊村大字湊	

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
須佐神社	眞妻神社	鹿島神社	天寶神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社	大藏神社	八幡神社	切目神社	切目神社	八幡神社	天寶神社	上阿田木神社	船着神社	丹生神社	八幡神社	王子神社	龍王神社	王子神社	熊野神社		
埴屋村大字南埴屋	眞妻村大字杉原	南都町	高城村大字高野	本中村大字小釜	川中村大字印南	印南村大字印南	稻原村大字印南	稻原村大字印南	切目村大字西ノ	切目村大字西ノ	代目村大字東岩	清川村	川上村大字初湯	川上村大字初湯	早蘇村大字三三	丹生村大字江川	矢田村大字土生	中内村大字衣奈	衣奈村大字衣奈	三尾村	松原村大字吉原	野口村大字熊野

東牟婁郡

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
山神社	八上神社	朝貴神社	稻荷神社	日出神社	近野神社	中山神社	須佐神社	珠簾神社	八幡神社	十野神社	熊野神社	春日神社	三豐神社	川添神社	天光神社	潮御崎神社	富二橋神社					
潮戸鉛山村	岩田村大字岡字	潮御村大字出雲	秋津川村	日野村大字日野	近野村大字近露	佐本村大字中	萬呂村大字中萬	三栖村大字上三	長野村大字上長	栗川村大字栗川	二川村大字高栗	下里村大字下川	富里村大字下川	豊原村大字市鹿	野添村大字市鹿	河内村大字市鹿	大内村大字上野	潮御村大字上野	潮御村大字上野	潮御村大字上野	潮御村大字上野	潮御村大字上野
昭和三、二、三 三九九	大正五、三、二 四一	大正五、二、一五 一七	大正三、七、一八 二四四																			

西牟婁郡

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
村神社	八幡神社	稻荷神社	潮崎本之宮神社	郷社	日神社	關鷄神社	神宮	縣社	關鷄神社	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮	神宮
稻成村	中芳養村	串本町字筑嶋	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十	東富田村大字十
大正三、三、九 四四			大正三、三、九 四四																			

第八章 境内及建物

社格	神社名	所在地名	指 定 日 月 年	告示 沿革 番 號
郷社	飛瀧神社	那智村大字市野	大正三、三、九	四
村社	阿須賀神社	新宮市	大正三、三、九	四
同	八幡神社	新宮市		
同	字久井神社	字久井村大字字久井		
同	青彦神社	那智村大字井關		
同	王子神社	同村大字市野々		
同	天神社	那智村大字天滿		
同	大神社	同村大字濱之宮		
同	八幡神社	勝浦町		
同	深草神社	色川村大字大野		
同	諏訪神社	上太田村大字南大居		
同	太田神社	下太田村大字市屋		
同	下里神社	下里村大字下里		
同	壇竈神社	下里村大字浦神		
同	蛭子神社	太地村大字森浦		
同	若宮神社	大島村大字大島		
同	雷公神社	大島村大字櫻野		
同	明神社	明神村大字川口		
同	七川神社	七川村大字西川		

同	高倉神社	小口村大字上長		
同	小山神社	敷屋村大字西敷		
同	四村神社	四村大字皆地		
同	三里神社	三里村大字切畑		
同	巖島神社	九重村大字九重		
同	北山神社	北山村大字大沼		
同	釜川神社	請川村大字耳打	大正三、三、八	八
同	甲明神社	九重村大字相須		

第八章 境内及建物

●縣社以下神社ニ境内地並建造物ノ由緒沿革書備置ノ件

(明治三十二年七月十三日
縣訓令第三百十五號)

郡、市、町、村、役、場、所、所、場

縣社以下神社社務所
神社ハ其境内地並建造物ノ由緒沿革ヲ詳記シタル圖書必要ニ
有之候條縣社以下神社ニ於テハ別紙雛形ニ準據シ境内地並建
造物ノ圖面ヲ調製シ之レニ其由緒沿革ヲ詳記シ神社ニ備ヘ置
クヘシ

但本文圖書ノ謄本ニ通テ製シ當廳並所轄郡市役所へ各堂通
ヅ、差出スヘシ

(建物ノ圖面ハ省略ス)

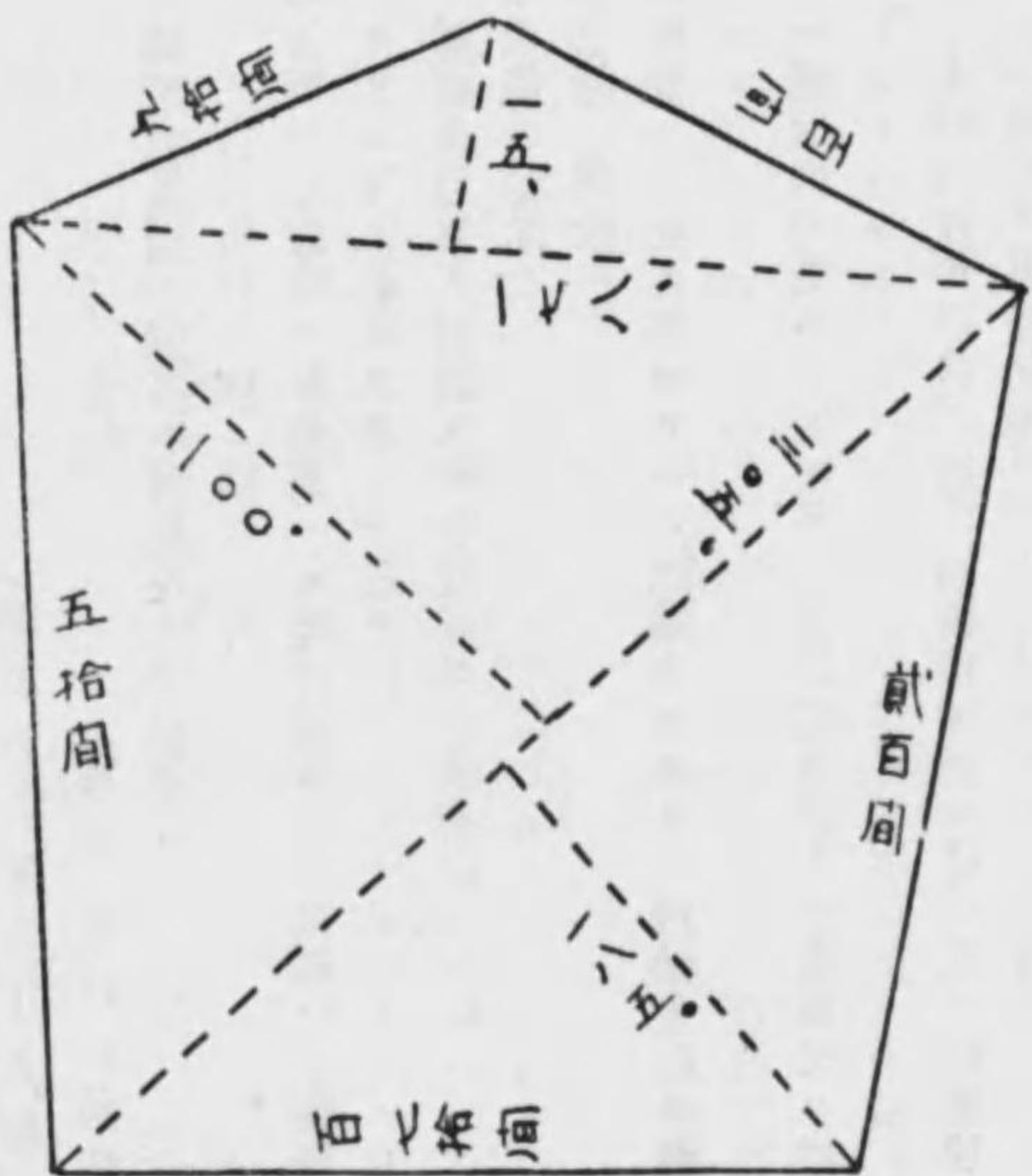
(用紙美濃紙)

縣社東照宮境内地明細圖書

和歌山縣海草郡和歌浦町字西濱坪壹番地

一境内參萬參千參百參拾參坪

官有地第一種



●社寺建物改築等出願手續

(明治二十九年二月四日)
縣訓令第四十六號

郡 役 所
市 役 所

縣社以下神社並寺院ノ建物ニシテ固形ノ通小修繕ヲナスモノハ自今出願ニ及ハス改築又ハ模様替等ヲナスモノハ心ス其仕様書目論見書並境内建物平面圖詳此シタルモノ相添ヘ其費金ノ出途ヲ詳具シ出願セシムヘキ模様ヲ關係者ヘ示達スヘシ

●社寺筋塀ニ關スル件

(明治三十五年六月二十五日)
縣内第一三六二五號ノ一依命通牒

〔郡〕市 長 宛

社寺筋塀之義ニ付テハ先例アル社寺ニ於テ築造候ハ差支無之尙現今法令上別段制限ハ無之候得共無謂相用候義ハ不都合之旨其筋ヨリ通牒有之候社寺ノ建物固形變更ノ場合ハ當廳へ出願許可ヲ得ヘキ筋ニ候得共心得相違無之様社寺へ御示達相成度依命此段及通牒候也

●官國幣社營繕ニ關スル件

(明治三十六年十一月二十四日)
縣訓内乙第八十九號

官國幣社務所

官國幣社營繕ニ關スル規程左ノ通相定ム

第一條 建設物ノ新築又ハ増築ハ維持ノ日途確立シ風致ヲ害セサルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス
神苑水道等ノ新設又ハ増設ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二條 削除
第三條 削除
第四條 左記ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ
一建設物ヲ新築又ハ増築シ及神苑水道等ヲ新設又ハ増設セントスルトキ

一本殿四百年以前ノ建物特別由緒アル建物又ハ建築優秀ナル建物ノ再築改築及模様替ヲ爲サントスルトキ
第五條 第四條第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外建設物又ハ神苑水道等ノ再築改築模様替ヲ爲サントスルトキ及工費一廉百圓以上ノ修繕ヲ爲サントスルトキハ知事ニ稟請シ其工事竣功シタルトキハ知事ニ報告スヘシ工費一廉百圓未滿ノ

●官國幣社營繕ノ件

(大正十三年十二月十三日)
縣訓 通

內務部長ヨリ各官國幣社官宛

從來官國幣社ノ社號標ハ狛犬、燈籠、七五三柱等ノ小建設物ニシテ神社限り施行シ或ハ建物ノ模様替トシテ當座限リノ處分ヲ受ケタルモノ、内往々其ノ位置ヲ變更シ又ハ増築ヲ伴ヘルモノ有之候處右ハ何レモ内務省訓令第十號官國幣社營繕ニ關スル規程第五條第一項ニ該當スルモノトシテ内務大臣ノ許可ヲ受クヘキ必要有之旨注意有之候條今後取扱上違算無之様充分御留意相成度候
追而既注ノ分ニシテ右本文ニ該當スルモノ有之候ハ、此際實施設計書及圖面ヲ添ヘ追認ノ手續取運フヘキ様是亦通達有之候條至急御取調ノ上該當ノモノ有之候ハ、其ノ運ヒヲ爲シ然ラサルモノハ其ノ旨御報告相成度特ニ申添候

●官國幣社臨時營繕費支出
要求手續

(明治三十一年九月二十六日)
縣訓令第三百十五號

官國幣社 社務所

官國幣社建物等改修ノ爲メ各社共通非常臨時營繕費ノ支出ヲ

修繕ハ施行済知事ニ報告スヘシ

第六條 臨時營繕ノ爲各社共通金ノ支出ヲ要スルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ
此場合ニ於テ不用古材ノ賣却代金ハ該工費ニ加フヘキモノトス

第七條 第四條第二號ノ建設物ヲ廢棄セントスルトキハ内務大臣ニ稟請シ其他ノ建設物ヲ廢棄シ又ハ神苑水道等ヲ廢止セントスルトキハ知事ニ稟請スヘシ

第八條 營繕工一廉五百圓以上ナルトキハ其執行方法ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
各社共通金ヨリ支出シタル營繕工事竣功セルトキハ直チニ其工費精算ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第九條 營繕ノ爲生シタル不用古材ニシテ價格一廉百圓以上ノモノ、處分ニ付キテハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 第四條及第六條ニ依ル稟請ノ場合ニハ工費金額設計並圖面ヲ添付スヘシ

但第四條第一號ニ依ル場合ハ維持ノ方法ヲモ具スルヲ要ス
第十一條 此規程ニ依リ内務大臣ニ差出スヘキ書面ハ當廳ヲ經由スヘシ

第十二條 從前ノ令違ニシテ此規程ニ抵觸スルモノハ廢止ス

要スル場合ハ其不用ニ屬スヘキ古材其他物件ノ賣却代金ヲ見
積リ該金ヲ改修費ニ組込ミ出願スヘキ義ト心得ヘシ

●官國幣社共通營繕費請求 領收ニ關スル件

(大正二年五月二十日)
縣學第六九七六號通牒

官國幣社宮司

營繕ノ爲各社共通金ノ下付許可ヲ得タルトキハ自今左記様式
ニヨリ請求(領收)相成度尙其ノ請求全額ハ工事ノ狀況ニ應
シ必要ノ額ヲ請求セラレ可然依命此段及通牒候
追テ明治三十年五月十二日內三三四九號一通牒ハ自然
消滅ノ儀ト御承知相成度申添候

樣式

請求書 (領收證) (用紙美濃野紙)

一金何程也 官國幣社共通營繕費

但何神社(宮)何々改造(修繕)費何年何月何日內務省
指令幣甲第何號許可高(本行ノ通)

金何程ノ内第何回分

右請求(領收)候也

年月日

何神社(宮)宮司氏名

職印

內務省神社局長宛

備考 金員中一二三及十ノ文字ハ必ス壹貳參及拾ノ文字ヲ用ユヘシ
且改削塗抹ヲ禁ス

●各社共通金支出ノ臨時營 繕工事ニ關スル件

(昭和三年六月八日)
縣社兵第四五二六號ノ一依命通牒

學務部長ヨリ各官幣社宮司宛

官幣社ニ於テ各社共通金ノ支出ヲ受ケ臨時營繕工事施行ノ場
合ハ自今左記報告書提出相成度依命此段及通牒候也

記

一、工事ニ著手シタル時ハ直ニ其ノ年月日及竣工豫定年月日
一、工事竣成セハ工費精算書(各社共通金支出稟請ノ際添付
セシ設計書々式ニ準シ調製スルヲ要ス)

●神社古來ノ制式保存ニ關 スル件

(明治八年九月十四日)
太政官達第百五十九號

沿革 明治九年一月太政官達第六號改正

廳 府 縣

官國幣社及府縣郷社共古來ノ制式容易ニ變換候テハ後來其照
鑑ヲ失ヒ候條本社並附屬建初周圍玉垣等些少ノ物件ニ至ル迄
厚ク保存可致就テハ自今修覆再造ノ節用材物品等モ可成舊式
ニ不違樣可取計此旨相達候事
〔但官國幣社ノ内社段矮陋祭儀難相整向モ有之候ハハ修覆
再造等ノ節其旨委細具狀內務(教部)兩省宛ヲ以テ(教部)
へ可差出事〕

●神社營繕ニ關スル件

(大正十四年五月十六日)
縣 通 牒

內務部長ヨリ各郡市長宛

其ノ筋ヨリ通牒ノ次第有之爾今縣社以下神社ニシテ官國幣社
ニ昇格ノ目的ヲ以テ建築物ノ改築増築其ノ他ノ營繕工事ヲ行
ハムトスルモノアルトキハ豫メ其ノ設計ヲ具シ內務大臣ノ承
認ヲ受ケシメラレ度此段及通牒候也

●官國幣社以下神社並寺院佛 堂境內管理細則

(明治三十六年六月三日)
縣訓令甲第百二十四號

官國幣社社務所 郡 役 所

市 役 所 町 村 役 場

縣社以下神社 寺院 並 佛堂

官國幣社以下神社並寺院佛堂境內管理細則左ノ通相定ム

- 第一條 神社並寺院佛堂ニ於テハ其境內ノ周圍境界ニハ必ス
境界標ヲ設ケ境内外ノ區別ヲ明ニシ以テ取締ヲ爲スヘシ
- 第二條 神社並寺院佛堂境內林藪ニ於テハ祭典法會等定例ノ
外焚火ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三條 神社並寺院佛堂境內ノ枯損又ハ障害木竹ヲ伐採セン
トスルトキハ其樹木ノ種別本數並目通り寸尺ヲ詳記シ又ハ
其所在ヲ描出シタル見取り圖ヲ添付出願スヘシ
- 第四條 神社並寺院佛堂境內ノ林藪探伐ヲ爲サントスルトキ
ハ其立竹年數ヲ區別シタル本數調書ヲ添付出願スヘシ
- 第五條 神社並寺院佛堂ニ於テ建造物造修用材ニ必要ナル境
內木竹ノ採伐ヲ爲サントスルトキハ左ノ調書等添付出願ス
ヘシ

- 一 境內木竹種目並目通り寸尺等區別シタル本數調書
- 一 建物修繕ノ設計書
- 一 採伐セントスル木竹所在ヲ描出シタル見取り圖

ヲ添へ進達スヘシ

● 上地境内編入ハ明細帳訂 正手續ヲ要セサル件

(明治三十七年三月廿六日
縣内一第二三三〇號通牒)

郡 市 長 宛

國有林社寺ノ出願ニ依リ境内編入許可ノ地所其社寺ヨリ受書
差出シ地種組替ノ上ハ當該社寺ヨリ明細帳上ノ境内坪數訂正
方可申出ハ正當ノ順序ニ候得共右ハ當廳ニ於テ地種組替ノ上
直ニ明細帳訂正候付社寺ヨリ訂正方申出ニ及ハス候條其旨當
該社寺へ御通達ノ上貴備置ノ明細帳ノ訂正御執計相成度依
命此段及通牒候也

● 上地境内編入願書ニハ神 職又ハ住職署名スヘキ件

(明治三十三年九月十一日
縣内一第五六四六號一號牒)

日高郡長問合ニ對スル回答

社寺上地林境内編入願書ニ神職住職連署スヘキ成規ノ處社寺
中神職住職員ニシテ候補者選任シ難キ場合合社寺總代人ノミ
連署セシムルモ差支ナキヤ本月六日庶第一二八六號一ヲ

一 伐採木ヲ造修用材ト爲スノ見取り書
一 修繕費金出途明細書

一 氏子檀信徒ノ現在戸數及人員調査書

第六條 第三條第四條ノ伐採許可ヲ得タル木竹又ハ第五條ノ
建造物造修用材ノ殘木ハ競争投票ニ附シ賣却シ其代金ハ金
庫又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ修繕又ハ苗木植繼費ニ蓄積
スヘシ

但賣却代金額又ハ預ケ入金庫銀行名等詳記シ官國幣社ハ
當廳へ縣社以下神社並寺院佛堂ニ於テハ所轄郡市長へ届
出ヘシ

第七條 神社並寺院佛堂境内ニ於テ土石切芝ノ採取又ハ樹根
ノ採掘ヲ爲サントスルトキハ其場所ヲ描出シタル見取り圖
ヲ添付出願スヘシ

第八條 本細則ニ依リ差出スヘキ願屆書ハ官國幣社ハ當廳へ
直ニ差出シ其他ノ神社並寺院佛堂ニ於テハ所轄市町村長へ
差出スヘシ

第九條 市町村長ニ於テ第五條ニ該當スル願書ヲ受理シタル
トキハ願書ニ添付シ氏子檀信徒ノ總數又ハ修繕費ノ出途明
細書等事實取調へ其願末書ヲ添へ市長ハ當廳へ町村長ハ郡
長へ進達スヘシ

第十條 郡長ニ於テ第三條第四條第五條第七條ニ該當スル願
書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上其事實ヲ詳具シタル意見書

以テ御問合之趣了承然ルニ社寺ニハ神職住職缺クヘカラサル
モノニ付若事務ノ神職住職選任シ難キ場合ハ兼務者又ハ事務
擔當者ヲ置クヘキハ當然ノ事ニ付之レヲ置カス成規ニ反スル
願書ハ受理難相成筋ト相認メ將タ氏子檀信徒總代ハ單獨ヲ以
テ社寺財產等ニ關スル事項ヲ出願スヘキ義務權利無之モノト
相認メ候右及回答候也

● 神社境内地建碑ニ關スル件

(大正十三年十二月二十四日
内務省發社第四〇號通牒)

各 地 方 長 官

標記ノ件ニ關シ前記ノ通照覆候條爲念及通牒候也

(別紙)

學第一、八三七號

大正十三年十一月七日

群 馬 縣 知 事

内務省神祉局長宛

神社境内地建碑ニ關スル件照會

大正二年四月内務省令第六號第二十六條ニ依レハ神社境内地
ニハ國家ニ功勞アル者又ハ頌揚スヘキ事蹟アルモノニ非サレ
ハ其ノ碑表又ハ形像ヲ建設シ得サルコトニ相成居候處神社ノ

● 神社境内取締ニ關スル件

(大正十三年十一月二十七日
發社第八三號神祉局長通牒)

郡 市 長 宛

各地ニ軍隊ノ演習馬匹検査等ニ際シ神社境内ニ乘馬ヲ曳入シ
樹木ヲ損傷シ神社ノ尊嚴ヲ瀆スモノ有之趣ニ相聞エ中ニハ町
村吏員等ノ指揮ニ依リ神社境内ヲ馬繫場ニ充ツル向モアル哉

● 神社境内取締ニ關スル件

(大正十三年十一月二十七日
發社第八三號神祉局長通牒)

郡 市 長 宛

由緒ヲ一般ニ周知セシムルカ爲之ヲ刻セル碑表、敬神思想漸
養ノ趣旨ニ基キ神祇ニ關スル御製ヲ刻セル碑表又ハ御即位御
成婚平和克復其ノ他社殿改築參道開鑿等永遠ニ記念スヘキ記
念碑ノ如キモ右規定ニ該當スルモノナリヤ否ヤ差掛リタル間
題ニ關シ疑義相生シ候ニ付何分ノ御回示相成度候

十三局第十二號
大正十三年十二月十三日
内務省神祉局長

● 群馬縣知事宛

神社境内地建碑ニ關スル件

大正十三年十一月七日學第一、八三七號ヲ以テ標記ノ件ニ付
御照會相成候處御申越ノ如キ種類ノ碑表ハ該規定ニ該當セザ
ルモ神社ノ必要ニ基ク建碑ハ神社ノ風致尊嚴ニ影響ヲ及ホス
コトナキモノニ限り篤ト其ノ必要ノ程度如何ヲ考查シ建設物
ノ新設トシテ處分セラレ可然ト存候

● 神社境内取締ニ關スル件

(大正十三年十一月二十七日
發社第八三號神祉局長通牒)

郡 市 長 宛

各地ニ軍隊ノ演習馬匹検査等ニ際シ神社境内ニ乘馬ヲ曳入シ
樹木ヲ損傷シ神社ノ尊嚴ヲ瀆スモノ有之趣ニ相聞エ中ニハ町
村吏員等ノ指揮ニ依リ神社境内ヲ馬繫場ニ充ツル向モアル哉

ニ承知致シ甚タ好マシカラサル義ニ存候尤モ是等ニ對シテハ充分御監督相成居コト、被存候へ共今後一層嚴重ニ御取締相成様致度猶過日陸軍省ニ對シ取締方ニ關シ及照會候處同省ニ於テハ現ニ屢々訓示シ充分取締居レル旨回答ノ次第モ有之候モ若シ軍隊ニ於テ同様ノコト有之候ハ、其場所團體號及損傷當時ノ狀況等詳細御報告相成度

●社寺境内ノ樹木猥リニ伐採スルヲ禁ス

(明治六年七月二日)
太政官布告第二百三十五號

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可ヲ可受事

●境内外植樹及造林獎勵ノ件

(明治四十二年三月廿七日)
縣內三第一三一號ノ一通牒

社寺境内外樹木栽植並ニ造林ノ件其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條左記夫々御獎勵相成度候
追テ營林施業等ニ就テハ成可便宜ヲ與ヘラルヘク候ニ付必

要ノ場合ハ其ノ要点ヲ具シ伺出ラレ度候

左記

社寺境内外ノ樹木ハ一ニハ境内ノ風致ヲ添ヘ一ニハ神社ノ財産ト相成可候處多クハ在來ノモノヲ保存スルノミヲ以テ足レリトシ偶々枯損傷害等ノ爲之ヲ伐採スルモ其ノ補殖ヲ怠リ又祭典等ニ支障ナキ空地アルニ拘ハラヌ進テ植樹ヲ爲サントスルモノ殆無キ狀態ニ有之其ノ所有山林原野等ハ荒廢ニ委シテ顯ミサルヤニ相聞エ甚憂フヘキ義ト被存候ニ就テハ境内支障ナキ適當ノ樹木ヲ栽植シ又境外山林原野ニハ造林ノ計畫ヲ立テ神社ノ尊嚴ヲ維持シ併セテ神社經營ノ資産ヲ造成セラレタシ

●社寺附近並木古樹等保護ニ關スル件

(大正三年九月十九日)
縣學第四三二四號通牒

社寺勝地史蹟ノ附近堤塘道路等ニ於ケル並木又ハ古木老樹ニ就テハ是等社寺等ノ森嚴風致ニ不尠關係モ有之又中ニハ先人ノ偉業ヲ偲ヒ徵古ノ料トナルヘキモノモ可有之平素注意ノ上其ノ保護ニ盡サレツ、アルコト、被存候ヘトモ間々功利ノ業ニ迫ラレ遺憾ノ處置ニ出テントスルモノ無キニアラス就テハ

一層保護趣旨ノ徹底普及ニ努メラレ其ノ實況ニ應シ相當保存ノ途ヲ講シ其ノ補植ニ努メシメラル、ト共ニ堤塘道路ノ改修變更其他開墾等ノ場合ニ際シテモ篤ト注意ヲ加ヘシメラレ候様致度依命此段及通牒候也

●社寺境内地林藪經營ニ關スル件

(昭和二年十一月四日)
縣社兵第六七七三號通牒

學務部長ヨリ支廳長市長町村長宛
社寺境内地ノ林藪經營ハ森嚴並風致保全上必要缺クヘカラサルモノニシテ敢テ收益ヲ目的トスヘキモノニ非サルハ論ヲ俟タサル所ニ有之隨テ之カ經營方法ニ至リテモ一般ノ夫ト比肩スヘキモノニ無之諸種ノ方面ニ一層ノ意ヲ拂ハサルヘカラサルニ付爾今其ノ樹齡若クシテ甚シク密生シ却テ他ノ生育ヲ阻害セムトスルモノ、間伐ヲ行フハ止ムヲ得サルコトニ屬スルナラムモ之ニ何等考慮スル事ナク唯徒ニ神社ノ財政上等ヨリ打算シ過伐セムトスルカ如キハ境内地林藪經營ノ趣旨ニ反シ好マシカラサル義ニ付將來充分留意セシメラレ度尙其ノ間伐セムトスルニ方リテハ左記事項ヲ具シ伐採著手期日二十日前迄ニ當廳ニ著スル如ク届出シ候様貴部内縣社以下神社へ此ノ旨無洩御傳達相成度依命此段及通牒候也

追而竹林ノ經營ハ之カ管理上將又境内林相ヨリ稽へ適切ナルモノトモ思料不被致候條地質ノ關係上萬止ムヲ得サルモノヲ除キ可成常綠樹栽植ヲ爲シ以テ森嚴風致ノ保持ニ留意セシムル様併セテ御傳達相成度申添候

記

- 一、境内地ノ現狀並ニ伐採セムトスル木竹ノ所在ヲ示シタル見取圖
- 一、樹木ヲ伐採セムトスルキハ境内地ニ生立スル樹種毎ニ目通周圍一尺以上五尺未満ト五尺以上トニ區分シタル總本數並樹齡ヲ記載シタル調書及伐採豫定木ニ對スル樹種毎ニ目通周圍ヲ記シタル本數見積材積並豫定價格
- 一、竹ヲ伐採セムトスル時ハ其ノ種類平均目通周圍並總本數ヲ記載シタル調書及伐採豫定竹ニ對スル本數豫定價格
- 一、間伐セムトスル理由
- 一、間伐取得金ノ管理方法
- 一、伐採著手並終了期日

●廣告物取締規則

(明治四十四年七月二十七日)
縣令第四十一號

沿革 大正四年縣令第一八號改正

廣告物取締規則左ノ通相定ム

廣告物取締規則

第一條 左ニ掲クル地域ニハ廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ヲ設置スルコトヲ得ス但シ公益ノ爲ニスル廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ノ設置ニシテ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一、社寺、佛堂境内

二、公園

三、名勝地、古蹟地、古墳並ニ其ノ附近ノ地

祭典、法要、説教其ノ他社寺、佛堂、説教所ノ類カ其ノ事務ノ爲ニスル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

所轄警察官署ニ於テ廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ノ設置ニ因リ美觀又ハ風致ヲ添ウルモノト認ムルトキハ第一項ノ規定ニ拘ハラステニ許可スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル地域ニハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ノ設置ヲ爲スコトヲ得ス其ノ改設、變更ノトキ亦同シ

一 鐵道又ハ軌道線路ノ沿道並ニ線路ヨリ展望シ得ヘキ場所

二 市街地並ニ之ニ接續スル地ノ大通

三 港灣、著名ナル河川ニ面シタル場所及四面ヨリ展望シ

得ヘキ高地又ハ海上ヨリ展望シ得ヘキ土地

四 溫泉場、保養場、遊覽地

五 公園及社寺、佛堂境内ニ接續シタル三十間以内ノ土地

六 鐵道院線橋本停車場ヨリ九度山町又ハ河根村ヲ經テ同線高野口停車場ヨリ九度山町ヲ經テ同線笠田停車場ヨリ見好村ヲ經テ高野山ニ達スル道路又ハ道路ヨリ展望シ得ヘキ場所

第三條 廣告物ノ表示又ハ之ニ關スル物件ノ設置願書ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 表示又ハ設置ノ場所及期限

二 物質、形狀、寸法、色彩及構造ノ方法

三 廣告ノ文字又ハ圖畫

四 地主又ハ管理者ノ承諾書

第四條 屋上ニ掲出スル廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ニシテ縦又ハ横六尺以上若ハ重量五貫匁以上ノ物件ハ其ノ構造ノ方法ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 第一條第一項、第二條、第四條ニ違背シタル者ハ二十日未滿ノ拘留又ハ拾五圓未滿ノ科料ニ處ス

附 則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス本令施行前設置シタル廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ニシテ第一條ニ抵触スルモノハ本令施行ノ日ヨリ九十日以内ニ之ヲ除却スヘシ

第一條第一項但書、同條第三項、第二條第四條ニ該當スルモノハ本令施行ノ日ヨリ六十日以内ニ本令ノ規定ニ據リ出願ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テ許可ヲ得サルモノハ所轄警察官署ノ指定シタル期限内ニ之ヲ除却スヘシ

●森林法施行細則

(大正元年十二月九日) 縣令 第十一五號

沿革 大正四年九月縣令第四三號、一三年一月同第二號、一五年六月同第九〇號、昭和八年六月同第四五號改正

森林法施行細則左ノ通相定ム

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年六月縣令第二十五號森林法施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

森林法施行細則

第一條 森林法施行規則及本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ總テ所轄郡市役所町村役場ヲ經由スヘシ但シ森林法第二十一條ノ意見書ハ此ノ限ニ在ラス
郡市役所町村役場ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ調査

ノ上町村長ハ五日以内ニソノ管轄ノ支廳長ニ進達シ支廳市長ハ七日以内ニ知事ニ進達スヘシ但シ申請書ニ對シテハ意見アルトキハ副申スヘシ

第二條 市町村及町村組合其ノ他公共團體ノ申請書ニハ其ノ會議錄謄本ヲ添付スヘシ

第三條 森林法、森林法施行規則及本則ニ依リ開墾許可申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ土地ノ所在字、地目、地番、面積及其ノ所有者等ニ關シ市町村長ハ稅務署ニ就キ照査シ其ノ照査簿ノ旨ヲ朱記認印スヘシ

第四條 支廳長市長ニ於テ森林法第十條第一項第二項第十一條第十三條第三十三條第八十一條第七條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ

町村長ニ於テ前項ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ支廳長ニ具申スヘシ

第五條 森林法施行規則第一條ノ屆書ハ其ノ届出事實ノ確定シタル日ヨリ二十日以内ニ知事ニ差出スヘシ

第六條 森林法施行規則第二條第一項、管理區分書ハ其ノ所有權ヲ取得シタルトキヨリ三十日以内ニ知事ニ差出スヘシ

第七條 森林法施行規則第三條ノ管理方法屆書ハ森林ニ在リテハ其ノ所有權ヲ取得シタル後森林トシテ管理スヘキ土地ニ在リテハ管理區分ノ認可ヲ受ケタル後三箇月以内ニ知事ニ差出スヘシ前項管理方法屆書ニハ實測面積、臺帳面積又

ハ見込面積ノ別ヲ明記シ實測又ハ見取地形圖ヲ添付スヘシ
管理方法ヲ變更シタルトキハ直ニ方法屆書ヲ作り三十日以
内ニ知事ニ差出スヘシ

第八條 森林法第十條第七條ノ造林及第二十七條ニ依リ保
護ノ爲植栽ヲ命セラレタル場合其ノ事實ニ着手セムトスル
トキハ一箇月前成功シタルトキハ直ニ第一號書式ニ依リ知
事ニ届出ツヘシ

第九條 保安林ノ施業標準ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、伐採ハ擇伐法ニ據ルヘシ但シ保安林ノ目的ヲ害セサル
程度ニ於テ林種ノ改良其ノ他必要ナル目的ノ爲皆伐ヲ
ナスコトヲ得

二、毎年ノ擇伐區域ハ立木地全面積ヲ輪伐齡ヲ以テ除シタ
ル商ノ三倍ヨリ小ナルヲ得ス

三、毎年ノ擇伐面積(伐採スヘキ立木ノ占領面積)ハ輪伐
齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ヲ超ユルコトヲ得
ス但シ施業上ノ都合ニ依リ五年以内ノ隔年作業ヲ行フ
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ擇伐面積ハ全面積ノ三分ノ
一ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ手入間伐、被害、危險木、支障木ノ伐採ニハ
之ヲ適用セス

第十條 保安林ノ編入解除ヲ申請セムトスルモノハ森林法施
行規則第七條ノ規定ノ外左記事項ヲ詳記シタル事由書ヲ知

事ニ差出スヘシ

一 申請地ノ現況

二 利害關係

申請スヘキ森林ニ關シ森林法第二條ノ權利者アルトキハ森
林法施行規則第六號書式中所有者住所氏名欄ニ附記スヘシ
第十一條 森林法施行規則第十條ニ依リ異動届ハ其ノ異動事
實ノ確定シタル日ヨリ十日以内ニ知事ニ差出スヘシ

第十二條 森林法第十條及第七條ニ依リ施業法指定又ハ造
林命令ヲ受ケタル森林ニシテ森林法施行規則第十條第一項
各號ノ一ニ該當スル事項發生シタルトキハ前條ノ期日内ニ
知事ニ届出ツヘシ

森林法施行規則第十條第二項ノ規定ハ前項ノ森林ニ適用ス
第十三條 森林法第十三條又ハ第二十七條ノ制限ヲ受ケタル
場合又ハ同法第十條第一項第二十條第二十五條及第二十六
條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケムトスル者ハ第二號乃至第六號
書式ニ準シ知事ニ申請スヘシ

森林法第三十二條及第三十六條ノ制限ヲ受ケタル土地ノ開
墾ヲ爲サムトスル者ハ第六號書式ニ依リ知事ニ申請スヘシ
第十四條 森林法第四十條ノ土地使用又ハ同第五十八條ノ工
作物ノ使用、變更、除却ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ森林法
施行規則第二十條第二十一條第二十七條ノ規定ニ依ルノ外
詳細ナル理由書並其ノ關係人ニ及ス利害關係書ヲ差出スヘシ

第十九條 (削除)

第二十條 (削除)

第二十一條 森林ニ害虫發生シ所有者ニ於テ之ヲ驅除シ能ハ
サルカ若ハ他ニ蔓延ノ虞アルトキハ其ノ森林所有者ハ速ニ
其ノ實況ヲ知事ニ申報スヘシ

第二十二條 立木竹ノ伐採其ノ他ノ施業及開墾ノ許可ハ許可
後一箇年以内ニ完成セサルトキハ其ノ効力ヲ失フ但シ許可
ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 保安林施業及開墾ノ許可申請ハ左ノ期限ニ依ル
ヘシ

一 保安林ニ於ケル立木竹ノ伐採其ノ他ノ施業ハ着手前三箇
月
二 開墾ハ着手前五箇月但シ至急ヲ要スルモノハ此ノ期限ニ
拘ハラズ申請スルコトヲ得

第一號書式

造林事業着手(成功)届

大字	字	地番	地目	全面積	傾斜	樹種	本數	備考

年月日 日着手(成功)候間此段及御届候也

第十五條 森林法第四十七條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ
事業ノ細目ヲ記載シタル設計書ヲ添付シ知事ニ申請スヘシ

第十六條 森林法第六十一條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル者
ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ知事ニ差出スヘシ

一 立入ルヘキ土地又ハ目標設置若ハ支障木竹伐採ヲ爲サ
ムトスル土地ノ所在字、地番、地目、所有者及其ノ他
ノ權利者ノ住所氏名

二 目標ノ種類及設置方法又ハ伐採スヘキ木竹ノ種類數量
三 時期及期間

四 目的

第十七條 森林法第六十四條ニヨリ森林組合設立ノ許可ヲ受
ケムトスル者ハ森林法第六十五條乃至第六十八條及森林法
施行規則第三十三條乃至第三十六條並森林組合令第一條乃
至第四條ノ規定ニ依ルノ外其ノ申請書ニ左記各號ノ調書ヲ
添付スヘシ

一 組合設置後ニ生スヘキ利益

二 組合事業ト組合ニ加入セサル森林トノ關係

三 組合ノ存続期間ヲ設ケタルトキハ其ノ理由

森林法施行規則第三十四條第二項ノ規定ニ依リ組合加入義
務ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳細ニ記載シタル
申請書ヲ知事ニ差出スヘシ

第十八條 (削除)